

四街道市男女共同参画市民意識調査 結果報告書

令和3年3月

四街道市

目次

序. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査項目	1
4. 回収率と回収サンプル数	1
5. 報告書を読む際の注意事項	1
6. 標本誤差について	2
7. 比較分析に使用した「内閣府男女共同参画社会に関する世論調査」の概要	2
I. 調査結果の要約	3
II. 調査結果	7
1. 回答者の属性	7
(1) 性別	7
(2) 年代	7
(3) 職業	8
(4) 配偶者等パートナー	8
2. 男女平等に対する考え方について	9
(1) 男女の地位の平等	9
① 社会全体として	10
② 家庭生活の中で	12
③ 職場で	14
④ 教育の中で	16
⑤ 政治の場で	18
⑥ 法律や制度の上で	20
⑦ 社会通念・慣習・しきたり等において	22
⑧ 区・自治会、PTAなどの地域活動の場で	24
(2) 男は仕事、女は家庭という考え方	26
3. 男女共同参画の取組について	28
(1) 男女共同参画社会実現に対する評価について	28
(2) 男女共同参画社会の実現に行政が力を入れるべきこと	30
4. ワーク・ライフ・バランスについて	33
(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度	33
(2) 仕事・家庭・地域との関わり方	35

(3) 「家庭等の個人生活」のための時間	38
(4) 働きやすい環境づくり	40
(5) 家事等の分担	43
① 食事の支度・後片付け	45
② 掃除・洗濯	47
③ 食料品・日用品等の買物	49
④ 家計費の管理	51
⑤ 乳児・幼児の世話	53
⑥ 子どもの学校行事等への参加	55
⑦ 子どもの送迎、勉強や遊びの世話	57
⑧ 介護や看護を要する家族の世話	59
⑨ 自治会や地域活動への参加	61
⑩ 自治会や地域活動の役員、責任者	63
5. 防災・災害復興対策について	65
(1) 女性の視点での防災・災害復興対策	65
6. 女性の就業のあり方や現状について	68
(1) 女性の就業のあり方	68
(2) 職場における性別による格差	72
7. 子どもの性別による子育てのあり方について	75
(1) 子どもの性別と子育てのあり方	75
8. 人権について	81
(1) 人権が侵害されていると感じるとき	81
(2) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無	83
(3) ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験の有無	89
Ⅲ. 自由意見	90
Ⅳ. 調査票	90

序. 調査の概要

1. 調査目的

第3次四街道市男女共同参画推進計画の達成度を把握するとともに、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、今後の男女共同参画施策の参考とすることを目的とする。

2. 調査方法

- ・調査地域 : 四街道市全域
- ・調査対象 : 市内に居住する満18歳以上の男女（令和2年8月1日現在）
- ・対象者数 : 2,000人（男女各1,000人）
- ・抽出方法 : 住民基本台帳による無作為抽出
- ・調査方法 : 郵送配布・郵送回収法
- ・調査時期 : 令和2年11月2日～11月16日

3. 調査項目

- ・男女平等に対する考え方について 【問1～問2】
- ・男女共同参画の取組について 【問3】
- ・ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について 【問4～問7】
- ・防災・災害復興対策について 【問8】
- ・女性の就業のあり方や現状について 【問9～問10】
- ・子どもの性別による子育てのあり方について 【問11】
- ・人権について 【問12～問14】

4. 回収率と回収サンプル数

- ・配布数 : 2,000人
- ・有効回答者数 : 1,055人
- ・有効回答率 : 52.8%

5. 報告書を読む際の注意事項

- ・アンケート集計は、各設問の単純集計と性別集計、性別×年代別（※設問により性別×配偶者を追加）のクロス集計を行った。
- ・分析では、平成24年度、29年度に行った調査と共通の質問があるものについては経年比較を行った。【問1～問11、問13～問14】
- ・内閣府世論調査「男女共同参画社会に関する調査」（平成28年9月実施及び令和元年9月実施）の共通の質問があるものについては比較を行った。【問1、問2、問5（1）、問9】
- ・回収されたサンプルは性別と年代の割合に偏りがみられる。そのため、全体値の見方に注意が必要である。
- ・表中の比率（%）は、すべて回答者数を母数として算出しており、その都度表示している。表示は小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計値が100%にならない場合がある。
- ・複数回答は質問の特性上、回答者数を母数とし、比率を算出している。したがって、比率の合計値は100%にならない場合がある。

6. 標本誤差について

今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値（％）をそのまま18歳以上の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。統計学的には、次式で標本誤差を計算して、18歳以上の全市民の回答を推測する。（信頼度95％）

図1 標本誤差の算定式

$$b = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差 N = 母集団数 (77,533人*)
n = 比率算出の基数 P = 回答比率

*令和2年8月1日現在の18歳以上住民基本台帳人口

表1 今回の意識調査（n=1,055）における回答比率別標本誤差

回答比率	標本誤差
10%または90%	±1.8
20%または80%	±2.4
30%または70%	±2.8
40%または60%	±3.0
50%	±3.1

7. 比較分析に使用した「内閣府男女共同参画社会に関する世論調査」の概要

内閣府 男女共同参画社会に関する世論調査

(1) 調査対象

- ・母集団：全国18歳以上の日本国籍を有する者
- ・標本数：5,000人
- ・抽出方法：層化2段無作為抽出法

(2) 調査時期

令和元年9月5日～9月22日

(3) 調査方法

調査員による個別面接聴取法

(4) 回収結果

- ・有効回収数（率）：2,645人（52.9％）
- ・調査不能数（率）：2,355人（47.1％）

I. 調査結果の要約

1. 男女平等に対する考え方について

(1) 男女の地位の平等【問1】

P. 9～25 参照

男女の地位の平等については、「④教育の中で」を除いたすべての項目で『男性の方が優遇されている（「男性優遇」＋「どちらかといえば男性優遇」）』が、「平等」を上回っている。

場面で比較すると、『男性の方が優遇されている』は、「⑤政治の場で」（85.4%）が最も高く、次いで「①社会全体として」（80.5%）、「⑦社会通念・慣習・しきたり等において」（78.2%）となっている。また、「平等」は、「④教育の中で」（64.7%）が最も高く、次いで「⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で」（43.5%）、「⑥法律や制度の上で」（38.4%）となっている。

性別では、女性はすべての場面で『男性の方が優遇されている』が男性よりも高くなっている。一方、「平等」はすべての場面で男性の方が女性よりも高くなっている。女性の方が不平等感を感じており、男性が優遇されているという考えが強いといえる。

(2) 男は仕事、女は家庭という考え方【問2】

P. 26～27 参照

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、『否定的（「反対」21.9%＋「どちらかといえば反対」23.6%）』（45.5%）が最も高く、『肯定的（「賛成」3.7%＋「どちらかといえば賛成」14.6%）』（18.3%）を上回っている。「どちらともいえない」は36.0%と構成比の中で最も高くなっている。

性別では、女性は『否定的』が半数を超え、男性より高くなっている。

経年比較では、『否定的』が増加傾向にある。前々回調査（平成24年度）では『肯定的』（36.4%）が『否定的』（33.3%）を上回っていたが、前回調査（平成29年度）で『否定的』（35.2%）が『肯定的』（26.3%）を逆転し、今回調査（令和2年度）でその差が広がっている。

2. 男女共同参画の取組について

(1) 男女共同参画社会実現に対する評価について【問3（1）】

P. 28～29 参照

男女共同参画社会の実現については、「とても良いことだと思う」（59.5%）と「まあ良いことだと思う」（31.1%）を合わせた『良いことだと思う』が90.6%と非常に高くなっている。男女共同参画社会の実現に向けた理解は得られているものと考えられる。

(2) 男女共同参画社会の実現に行政が力を入れるべきこと【問3（2）】

P. 30～32 参照

男女共同参画社会を実現するために行政が力を入れていくべきことについては、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（66.6%）が最も高く、次いで「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」（56.7%）、「仕事と家庭の両立のための事業所への意識啓発を行う」（50.8%）となっている。

3. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度【問4】

P. 33~34 参照

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、「言葉も内容も知らない」が39.0%と構成比の中で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が30.9%、「言葉も内容も知っている」が27.4%となっている。また、『言葉を知っている（「言葉も内容も知っている」＋「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」）』は、58.3%となっている。

性別では、男性の方が女性より認知度が高くなっている。

前回調査（平成29年度）と比較すると、『言葉を知っている』は横ばいであり、言葉・内容ともに更なる周知が必要である。

(2) 仕事・家庭・地域との関わり方【問5（1）】

P. 35~37 参照

日常生活の中で、「仕事・学業」「家庭等の個人生活」「地域・ボランティア等の活動（地域活動）」への関わり方については、「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」（27.5%）が最も高く、次いで「ほぼ『仕事・学業』に専念している」（26.4%）、「『家庭等の個人生活』『地域活動』にも携わっているが、『仕事・学業』を優先させている」（16.1%）となっている。『主に仕事・学業をしている』（「ほぼ『仕事・学業』に専念している」＋「『家庭等の個人生活』『地域活動』にも携わっているが、『仕事・学業』を優先させている」）は、42.5%となっている。

性・年代別では、『主に仕事・学業をしている』は男性の50歳代以下すべての年代で70%以上と高くなっている。「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」は女性70歳代以上で59.8%、女性60歳代で44.3%と高くなっている。

(3) 「家庭等の個人生活」のための時間【問5（2）】

P. 38~39 参照

「家庭等の個人生活」のための時間については、『取れている（「十分取れている」35.1%＋「まあ取れている」42.6%）』が77.7%と『取れていない（「全く取れていない」3.0%＋「あまり取れていない」15.8%）』の18.8%を大幅に上回っている。

性・年代別では、『取れていない（「あまり取れていない」＋「全く取れていない」）』は、男性の30歳代から50歳代と女性の20歳代以下で30%台と高くなっている。

(4) 働きやすい環境づくり【問6】

P. 40~42 参照

仕事と家庭の両立のための環境づくりについては、「育児・介護休業中の代替要員の確保など制度を利用しやすい職場環境の整備」が42.8%と最も高く、次いで「育児・介護休職中の賃金や手当などの経済的支援の充実」が38.9%、「在宅勤務、フレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入」が32.4%となっている。

(5) 家事等の分担【問7】

P. 43~64 参照

【実態】

家事等の分担（実態）については、すべての項目で『妻が行う（「ほとんど妻」＋「どちらかといえば妻」）』が最も高くなっている。

項目で比較すると、『妻が行う』は、「①食事の支度・後片付け」（65.6%）で最も高く、次いで「②掃除・洗濯」（63.2%）、「④家計費の管理」（54.3%）となっている。また、「夫婦

とも同じ程度」は、「③食料品・日用品の買い物」（18.4%）が最も高く、『夫が行う（「ほとんど夫」＋「どちらかといえば夫」）』は、「⑩自治会や地域活動の役員、責任者」（18.5%）が最も高くなっている。

【理想】

家事等の分担（理想）については、「④家計費の管理」を除いたすべての項目で「夫婦とも同じ程度」が最も高くなっている。また、「④家計費の管理」は『妻が行う（「ほとんど妻」＋「どちらかといえば妻」）』が最も高くなっている。

項目で比較すると、「夫婦とも同じ程度」は、「③食料品・日用品等の買物」（49.9%）で最も高く、次いで「②掃除・洗濯」（45.2%）、「⑦子どもの送迎、勉強や遊びの世話」（45.2%）となっている。また、『妻が行う』は、「④家計費の管理」（36.8%）が最も高く、『夫が行う（「ほとんど夫」＋「どちらかといえば夫」）』は、「⑩自治会や地域活動の役員、責任者」（21.1%）が最も高くなっている。

4. 防災・災害復興対策について

（1）女性の視点での防災・災害復興対策【問8】

P. 65～67 参照

女性の視点に配慮した防災・災害復興対策については、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室・防犯対策など）」が68.2%と最も高く、次いで「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が63.1%、「災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」が40.1%となっている。

性・年代別では、「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」は女性の60歳代以下で約70%と高くなっている。

5. 女性の就業のあり方や現状について

（1）女性の就業のあり方【問9】

P. 68～71 参照

女性の理想の働き方については、男性は「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」が34.4%と最も高く、女性は「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」が36.0%と最も高くなっており、男女間で差がみられる。

女性の現実の働き方については、男女ともに「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」が最も高い。

これからの女性の働き方については、男女ともに「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」が最も高く、前々回調査（平成24年度）から増加傾向にある。

（2）職場における性別による格差【問10】

P. 72～74 参照

職場での性別による格差については、「性別による格差は感じない」が27.6%と最も高くなっている。一方、性別格差があるという項目のうちでは、「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」が14.8%と最も高く、次いで「昇進・昇格で性別による格差がある」が13.1%、「賃金・昇給で性別による格差がある」が11.4%となっている。

経年比較では、前々回調査（平成24年度）から性別格差があるというすべての項目で増加傾向にある。また、「性別による格差は感じない」は、前々回調査（平成24年度）が23.9%、前回調査（平成29年度）が24.3%、本調査（令和2年度）が27.6%と増加傾向にある。

6. 子どもの性別による子育てのあり方について

(1) 子どもの性別と子育てのあり方【問11】

P. 75～80 参照

子どもの性別や子育てのあり方については、『思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）』は、「④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい」（91.6%）で最も高く、次いで「②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい」（87.6%）となっている。また、『思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）』は、「⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい」（40.6%）で最も高くなっている。

7. 人権について

(1) 人権が侵害されていると感じるとき【問12】

P. 81～82 参照

人権侵害については、「レイプ（強姦）、痴漢等の性暴力・性犯罪」（80.4%）が最も高く、次いで「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」（74.5%）、「パートナーや交際相手からの暴力」（70.0%）となっている。

(2) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無【問13】

P. 83～88 参照

セクシュアル・ハラスメントの経験については、「性的な冗談や会話につき合わされた」（16.6%）が最も高く、次いで「宴会でお酌やデュエットを強要された」（15.0%）、「不必要に身体を触られた」（13.3%）となっている。

経験した場面を比較すると、「しつこく容姿のことを言われた」を除いたすべての項目で職場が最も高く、「しつこく容姿のことを言われた」では学校が最も高くなっている。

性別では、セクシュアル・ハラスメントの経験は、女性の方が男性よりも高くなっている。

性・年代別では、女性の30歳代で職場における「性的な冗談や会話につき合わされた」が33.7%、女性の50歳代で職場における「宴会でお酌やデュエットを強要された」は31.6%と高くなっている。

(3) ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験の有無【問14】

P. 89～92 参照

ドメスティック・バイオレンスの経験については、すべての項目で「経験がない」が最も高くなっている。経験があるのうち「過去に経験したが今はない」が最も高いものの、「頻繁に受けている」と「何度か経験がある」の合計は、「①精神的な暴力」5.3%、「②肉体的な暴力」2.9%、「③性的な暴力」1.6%、「④経済的な暴力」1.1%となっている。

性別では、暴力行為を受けた経験は、すべての暴力で女性が男性を上回っている。

経年比較でみると、前々回調査（平成24年度）からすべての項目で「経験がない」が増加傾向にあり、「④経済的な暴力」を除いたすべての項目で「頻繁に受けている」と「何度か経験がある」の合計が増加傾向にある。

Ⅱ. 調査結果

1. 回答者の属性

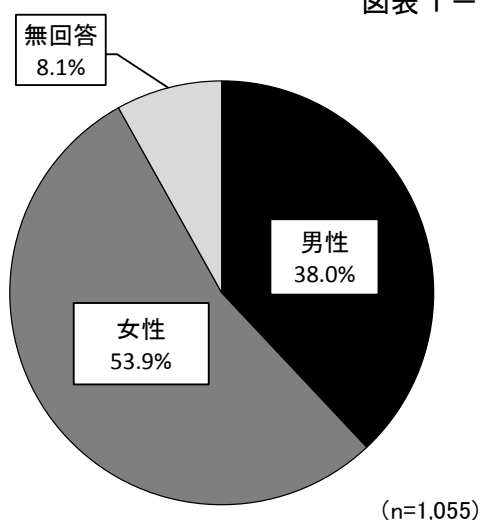
有効回収数は1,055票であり、集計分析に十分な数の回答が得られた。

回収されたサンプルは、性別では「女性」(53.9%)が「男性」(38.0%)を上回り、年代では『60歳代以上(「60歳代」+「70歳代以上」)』が41.2%を占めており、性別と年代に偏りがみられる。

(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が38.0%(401人)に対し、「女性」が53.9%(569人)となっている。また、「無回答」は8.1%(85人)となっている。

図表 1-1 回答者の性別

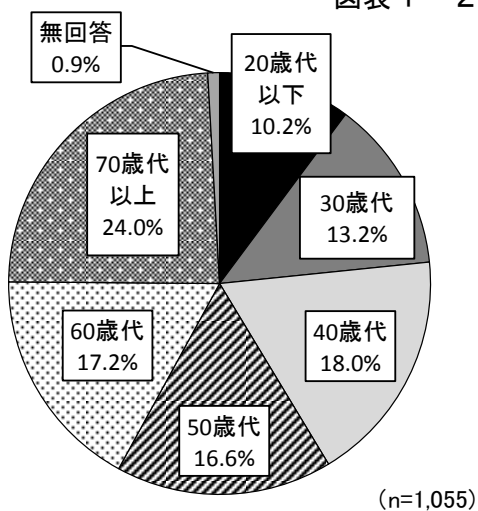


性別	回答数 (件)	構成比 (%)
男性	401	38.0
女性	569	53.9
無回答	85	8.1
サンプル数 (n)	1,055	100.0

(2) 年代

回答者の年代は、「70歳代以上」が24.0%(253人)と最も多く、「20歳代以下」が10.2%(108人)と最も少なかった。「60歳代」(17.2%)と「70歳代以上」(24.0%)を合わせた『60歳代以上』が41.2%を占めている。

図表 1-2 回答者の年代

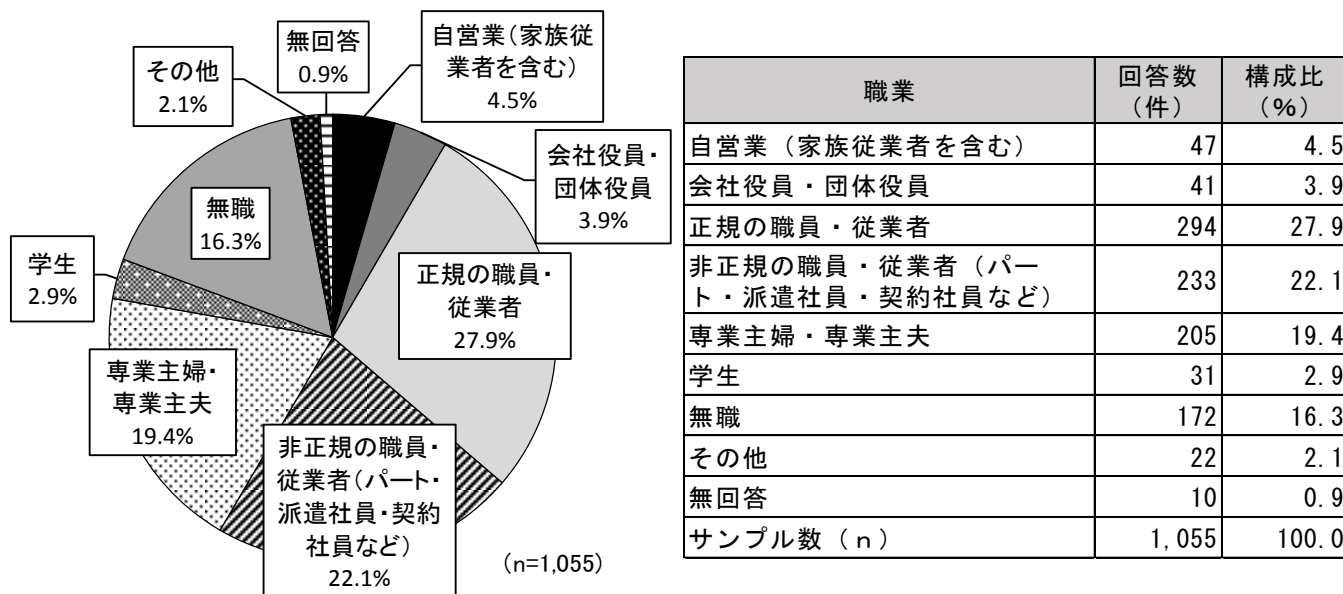


年代	回答数 (件)	構成比 (%)
20歳代以下	108	10.2
30歳代	139	13.2
40歳代	190	18.0
50歳代	175	16.6
60歳代	181	17.2
70歳代以上	253	24.0
無回答	9	0.9
サンプル数 (n)	1,055	100.0

(3) 職業

回答者の職業は、「正規の職員・従業者」が27.9% (294人) と最も多く、次いで「非正規の職員・従業者 (パート、派遣社員・契約社員など)」が22.1% (233人)、「専業主婦・専業主夫が19.4% (205人)」となっている。

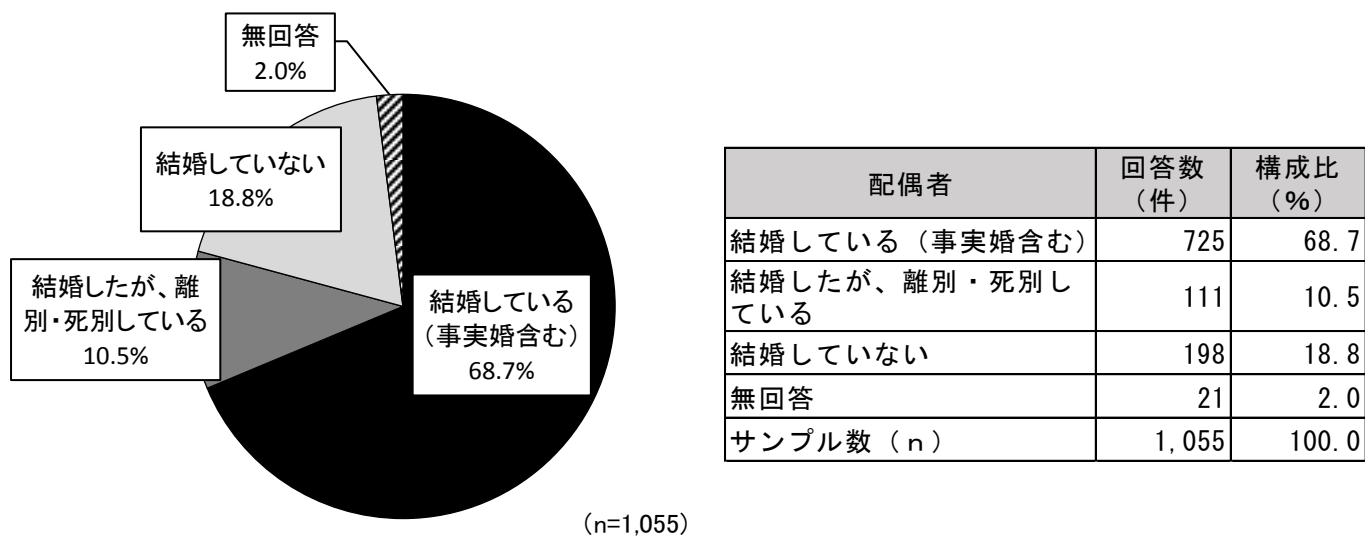
図表 1-3 回答者の職業



(4) 配偶者等パートナー

回答者の婚姻等の状況は、「結婚している (事実婚含む)」が、68.7% (725人) と最も多くなっている。

図表 1-4 回答者の配偶者等パートナー



2. 男女平等に対する考え方について

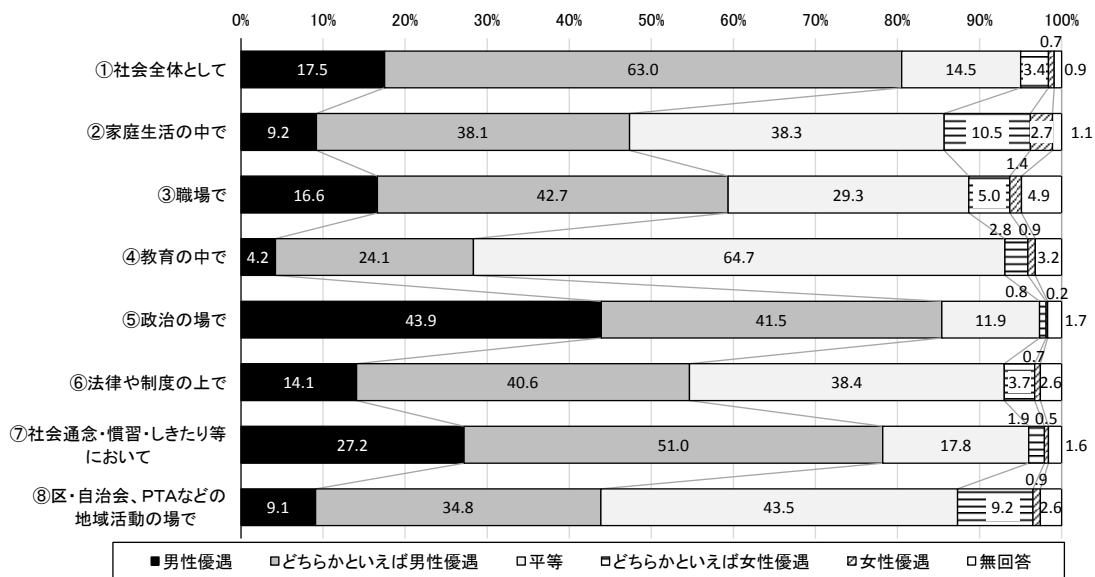
(1) 男女の地位の平等

問1. 次の①～⑧の場面で、男女の地位は現在において平等になっていると思いますか。
それぞれの場面において、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

男女の地位の平等については、「④教育の中で」を除いたすべての項目で『男性の方が優遇されている（「男性優遇」＋「どちらかといえば男性優遇」）』が、「平等」を上回っている。

場面で比較すると、『男性の方が優遇されている』は、「⑤政治の場で」（85.4%）が最も高く、次いで「①社会全体として」（80.5%）、「⑦社会通念・慣習・しきたり等において」（78.2%）となっている。また、「平等」は、「④教育の中で」（64.7%）が最も高く、次いで「⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で」（43.5%）、「⑥法律や制度の上で」（38.4%）となっている。

図表2-1 男女の地位の平等について（全体）



(n=1,055)

場面	項目	男性の方が優遇されている	男性優遇	どちらかといえば男性優遇	平等	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性優遇	女性優遇	無回答	サンプル数 (n)
		①社会全体として	回答数 (件)	850	185	665	153	43	36	7
	構成比 (%)	80.5	17.5	63.0	14.5	4.1	3.4	0.7	0.9	100.0
②家庭生活の中で	回答数 (件)	499	97	402	404	140	111	29	12	1,055
	構成比 (%)	47.3	9.2	38.1	38.3	13.2	10.5	2.7	1.1	100.0
③職場で	回答数 (件)	626	175	451	309	68	53	15	52	1,055
	構成比 (%)	59.3	16.6	42.7	29.3	6.4	5.0	1.4	4.9	100.0
④教育の中で	回答数 (件)	298	44	254	683	40	30	10	34	1,055
	構成比 (%)	28.3	4.2	24.1	64.7	3.7	2.8	0.9	3.2	100.0
⑤政治の場で	回答数 (件)	901	463	438	126	10	8	2	18	1,055
	構成比 (%)	85.4	43.9	41.5	11.9	1.0	0.8	0.2	1.7	100.0
⑥法律や制度の上で	回答数 (件)	577	149	428	405	46	39	7	27	1,055
	構成比 (%)	54.7	14.1	40.6	38.4	4.4	3.7	0.7	2.6	100.0
⑦社会通念・慣習・しきたり等において	回答数 (件)	825	287	538	188	25	20	5	17	1,055
	構成比 (%)	78.2	27.2	51.0	17.8	2.4	1.9	0.5	1.6	100.0
⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で	回答数 (件)	463	96	367	459	106	97	9	27	1,055
	構成比 (%)	43.9	9.1	34.8	43.5	10.1	9.2	0.9	2.6	100.0

① 社会全体として

社会全体の男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（「男性優遇」17.5%＋「どちらかといえば男性優遇」63.0%）』（80.5%）が「平等」（14.5%）を大幅に上回っている。一方、『女性の方が優遇されている（「女性優遇」0.7%＋「どちらかといえば女性優遇」3.4%）』は4.1%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、『男性の方が優遇されている』は男女ともに最も高く、女性（87.4%）が男性（72.3%）を15.1ポイント上回っている。一方、「平等」は男性（20.9%）が女性（9.1%）を11.8ポイント上回っている。

性・年代別では、男性は『男性の方が優遇されている』が50歳代・60歳代で80%台と高く、20歳代以下は51.2%と低くなっている。女性はすべての年代で『男性の方が優遇されている』が80%以上と高く、特に50歳代・60歳代は90%を超えている。

図表2-2 ①社会全体として（性別、性・年代別）

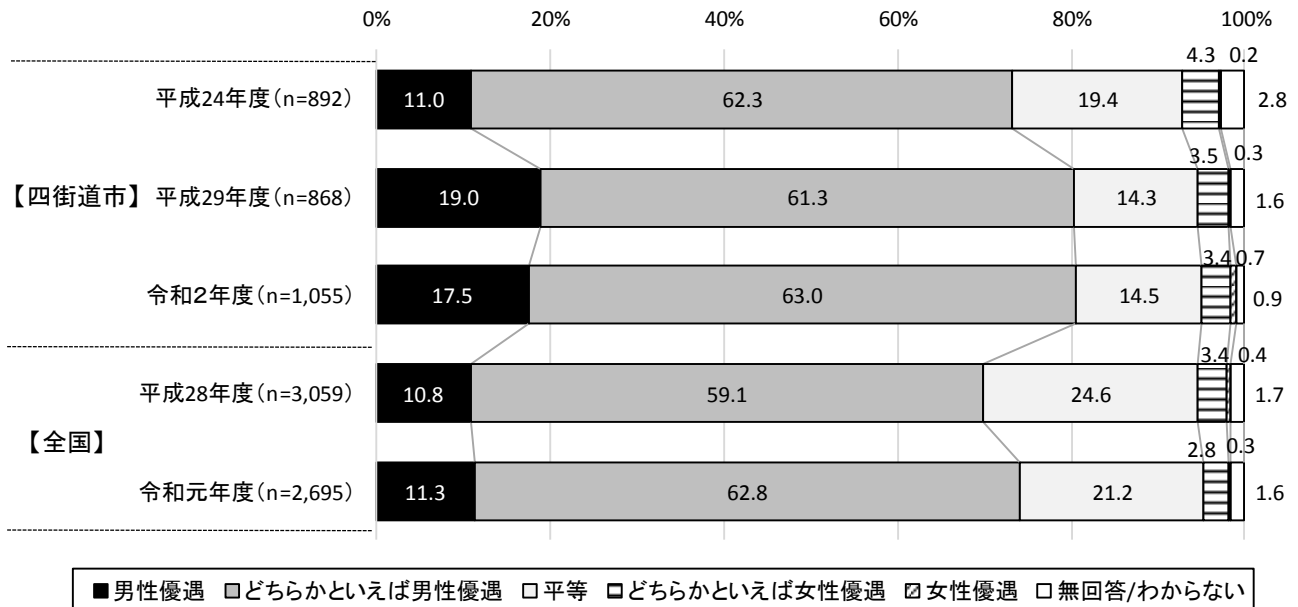
		(件、%)								
	回答数 (n)	男性の方が優遇 されている	男性優遇	どちらか といえば男性優 遇	平等	女性の方が優遇 されている	どちらか といえば女性優 遇	女性優遇	無回答	
全体	1,055	80.5	17.5	63.0	14.5	4.1	3.4	0.7	0.9	
男性	計	401	72.3	11.5	60.8	20.9	6.5	5.5	1.0	0.2
	20歳代以下	43	51.2	-	51.2	34.9	13.9	11.6	2.3	-
	30歳代	51	68.6	3.9	64.7	19.6	11.8	5.9	5.9	-
	40歳代	77	58.4	2.6	55.8	29.9	11.7	11.7	-	-
	50歳代	73	80.8	19.2	61.6	13.7	4.1	4.1	-	1.4
	60歳代	70	87.2	14.3	72.9	12.9	-	-	-	-
	70歳代以上	85	78.8	21.2	57.6	20.0	1.2	1.2	-	-
女性	計	569	87.4	21.3	66.1	9.1	2.9	2.5	0.4	0.7
	20歳代以下	63	82.5	20.6	61.9	14.3	3.2	3.2	-	-
	30歳代	83	83.2	20.5	62.7	10.8	6.0	4.8	1.2	-
	40歳代	96	84.4	14.6	69.8	11.5	4.2	4.2	-	-
	50歳代	98	91.8	21.4	70.4	5.1	1.0	-	1.0	2.0
	60歳代	97	94.8	20.6	74.2	5.2	-	-	-	-
	70歳代以上	127	85.8	28.3	57.5	9.4	3.1	3.1	-	1.6

【経年比較】

前回調査（平成 29 年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』と「平等」はともに横ばいとなっている。

全国調査（令和元年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』が 6.4 ポイント高くなっている。

図表 2-3 ①社会全体として（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したもの

② 家庭生活の中で

家庭生活の中での男女平等意識では、「平等」が38.3%と構成比の中で最も高くなっているものの、『男性の方が優遇されている（「男性優遇」9.2%+「どちらかといえば男性優遇」38.1%）』（47.3%）が「平等」（38.3%）を上回っている。また、『女性の方が優遇されている（「女性優遇」2.7%+「どちらかといえば女性優遇」10.5%）』は13.2%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、男性は「平等」が46.1%と最も高く、女性（32.3%）を13.8ポイント上回っている。女性は『男性の方が優遇されている』が55.4%と半数を超え、男性（37.2%）を18.2ポイント上回っている。

性・年代別では、男性は60歳代以下で「平等」が最も高くなっている（50歳代は『男性の方が優遇されている』と同水準）。女性はすべての年代で『男性の方が優遇されている』が最も高く、特に40歳代・60歳代は60%を超えている。

図表2-4 ②家庭生活の中で（性別、性・年代別）

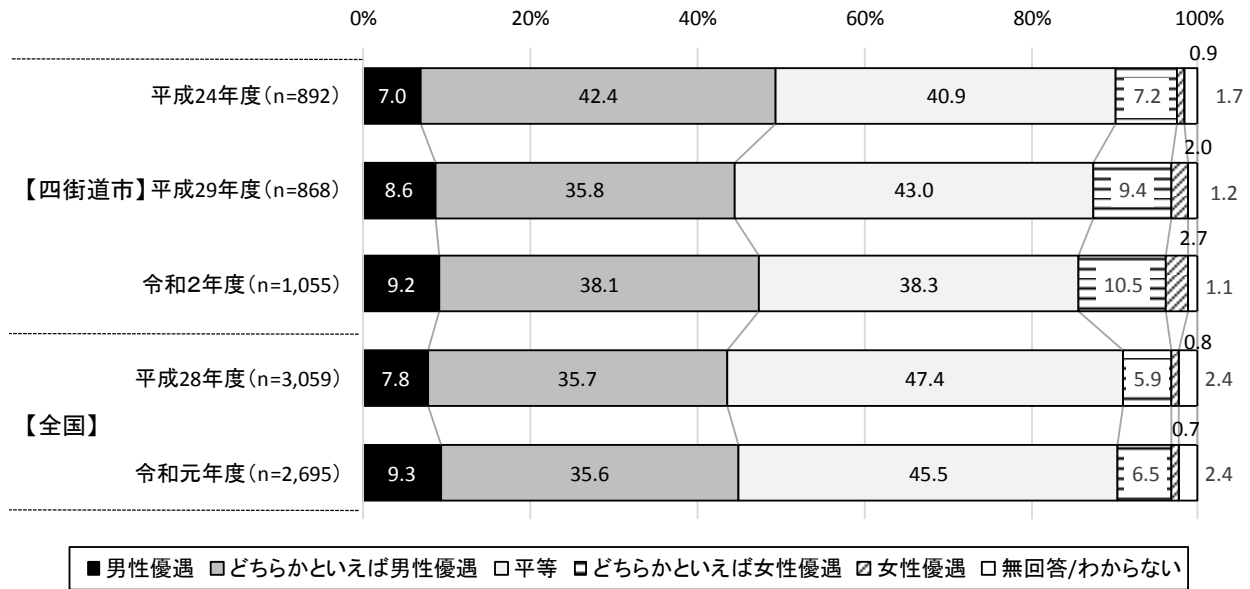
		(件、%)								
	回答数 (n)	男性の方が優遇	どちらか		平等	女性の方が優遇	どちらか		女性優遇	無回答
			男性優遇	い え ば 男 性 優 遇			い え ば 女 性 優 遇	女性優遇		
全体	1,055	47.3	9.2	38.1	38.3	13.2	10.5	2.7	1.1	
男性	計	401	37.2	3.5	33.7	46.1	16.0	13.0	3.0	0.7
	20歳代以下	43	20.9	-	20.9	55.8	23.2	20.9	2.3	-
	30歳代	51	27.5	-	27.5	49.0	23.5	15.7	7.8	-
	40歳代	77	31.2	3.9	27.3	49.4	19.5	16.9	2.6	-
	50歳代	73	43.8	4.1	39.7	43.8	12.3	9.6	2.7	-
	60歳代	70	40.0	5.7	34.3	45.7	12.9	10.0	2.9	1.4
	70歳代以上	85	47.1	4.7	42.4	40.0	10.6	9.4	1.2	2.4
	女性	569	55.4	13.0	42.4	32.3	11.3	9.0	2.3	1.1
女性	計	569	55.4	13.0	42.4	32.3	11.3	9.0	2.3	1.1
	20歳代以下	63	42.8	9.5	33.3	39.7	15.9	14.3	1.6	1.6
	30歳代	83	50.6	13.3	37.3	34.9	14.4	10.8	3.6	-
	40歳代	96	66.6	15.6	51.0	27.1	6.2	5.2	1.0	-
	50歳代	98	55.1	10.2	44.9	36.7	8.2	4.1	4.1	-
	60歳代	97	62.9	12.4	50.5	29.9	5.1	4.1	1.0	2.1
	70歳代以上	127	50.3	15.7	34.6	29.1	18.1	15.7	2.4	2.4

【経年比較】

前回調査（平成 29 年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』が 2.9 ポイント増加し、「平等」が 4.7 ポイント減少している。

全国調査（令和元年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』が 2.4 ポイント高く、「平等」が 7.2 ポイント低くなっている。

図表 2-5 ②家庭生活の中で（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したもの

③ 職場で

職場での男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（「男性優遇」16.6%＋「どちらかといえば男性優遇」42.7%）』（59.3%）が「平等」（29.3%）を大幅に上回っている。また、『女性の方が優遇されている（「女性優遇」1.4%＋「どちらかといえば女性優遇」5.0%）』は6.4%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、『男性の方が優遇されている』は男女ともに最も高く、女性（62.4%）が男性（56.6%）を5.8ポイント上回っている。

性・年代別では、男性は20歳代以下で「平等」が60.5%と最も高くなっている。女性はすべての年代で『男性の方が優遇されている』が半数を超え、特に60歳代は71.1%と高くなっている。

図表2-6 ③職場で（性別、性・年代別）

(件、%)

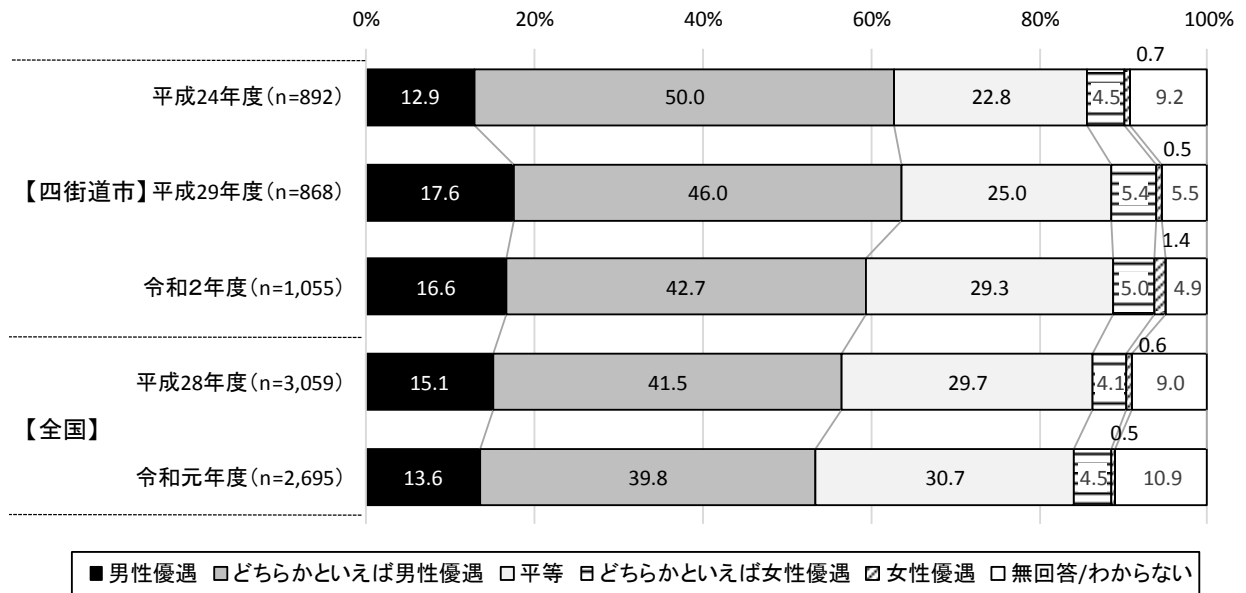
	回答数 (n)	男性の方が優遇 されている	男性優遇	どちらか といえば 男性優遇	平等	女性の方が優遇 されている	どちらか といえば 女性優遇	女性優遇	無回答	
全体	1,055	59.3	16.6	42.7	29.3	6.4	5.0	1.4	4.9	
男性	計	401	56.6	13.7	42.9	31.7	9.2	7.2	2.0	2.5
	20歳代以下	43	28.0	4.7	23.3	60.5	9.3	7.0	2.3	2.3
	30歳代	51	53.0	5.9	47.1	23.5	23.5	15.7	7.8	-
	40歳代	77	48.1	6.5	41.6	37.7	14.3	11.7	2.6	-
	50歳代	73	63.0	13.7	49.3	30.1	6.9	5.5	1.4	-
	60歳代	70	61.4	21.4	40.0	31.4	5.7	5.7	-	1.4
	70歳代以上	85	70.6	23.5	47.1	18.8	1.2	1.2	-	9.4
女性	計	569	62.4	18.5	43.9	26.9	5.1	4.0	1.1	5.6
	20歳代以下	63	61.9	17.5	44.4	28.6	7.9	6.3	1.6	1.6
	30歳代	83	66.3	24.1	42.2	25.3	7.2	4.8	2.4	1.2
	40歳代	96	56.3	11.5	44.8	33.3	8.3	7.3	1.0	2.1
	50歳代	98	57.1	10.2	46.9	37.8	5.1	4.1	1.0	-
	60歳代	97	71.1	19.6	51.5	23.7	1.0	1.0	-	4.1
	70歳代以上	127	62.2	26.0	36.2	15.7	3.2	2.4	0.8	18.9

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から「平等」が増加傾向にあり、全国調査においても同様の傾向にある。

全国調査（令和元年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』が5.9ポイント高くなっている。

図表2-7 ③職場で（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したもの

④ 教育の中で

教育の中での男女平等意識では、「平等」が64.7%と最も高く、『男性の方が優遇されている（「男性優遇」4.2%+「どちらかといえば男性優遇」24.1%）』（28.3%）を大幅に上回っている。また、『女性の方が優遇されている（「女性優遇」2.8%+「どちらかといえば女性優遇」0.9%）』は3.7%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、男女ともに「平等」が最も高く、男性（73.3%）が女性（59.8%）を13.5ポイント上回っている。『男性の方が優遇されている』は、女性（34.1%）が男性（19.7%）を14.4ポイント上回っている。

性・年代別では、男性はすべての年代で「平等」が最も高く、特に40歳代は80.5%と高くなっている。女性もすべての年代で「平等」が最も高いが、60歳代は『男性の方が優遇されている（48.4%）』と「平等（48.5%）」が同水準となっている。

図表2-8 ④教育の中で（性別、性・年代別）

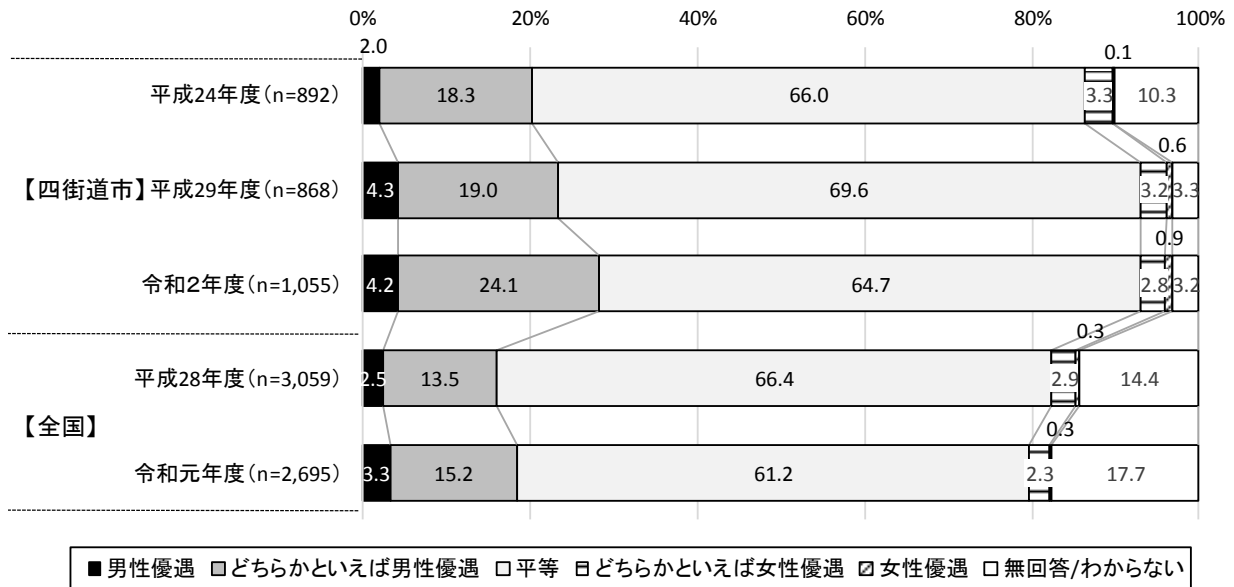
		(件、%)								
		回答数 (n)	男性の方が優遇 されている	男性優遇	どちらか といえば男性優遇	平等	女性の方が優遇 されている	どちらか といえば女性優遇	女性優遇	無回答
全体		1,055	28.3	4.2	24.1	64.7	3.7	2.8	0.9	3.2
男性	計	401	19.7	2.0	17.7	73.3	6.0	5.0	1.0	1.0
	20歳代以下	43	9.3	-	9.3	76.7	13.9	11.6	2.3	-
	30歳代	51	7.8	-	7.8	76.5	15.7	9.8	5.9	-
	40歳代	77	14.3	2.6	11.7	80.5	5.2	5.2	-	-
	50歳代	73	20.6	1.4	19.2	76.7	1.4	1.4	-	1.4
	60歳代	70	30.0	1.4	28.6	62.9	4.3	4.3	-	2.9
	70歳代以上	85	27.1	4.7	22.4	69.4	2.4	2.4	-	1.2
女性	計	569	34.1	5.8	28.3	59.8	2.1	1.4	0.7	4.0
	20歳代以下	63	23.8	9.5	14.3	68.3	4.8	3.2	1.6	3.2
	30歳代	83	32.5	4.8	27.7	62.7	3.6	2.4	1.2	1.2
	40歳代	96	22.9	1.0	21.9	74.0	1.0	1.0	-	2.1
	50歳代	98	39.8	4.1	35.7	59.2	1.0	-	1.0	-
	60歳代	97	48.4	7.2	41.2	48.5	1.0	1.0	-	2.1
	70歳代以上	127	33.1	8.7	24.4	52.0	2.4	1.6	0.8	12.6

【経年比較】

前々回調査（平成 24 年度）から『男性の方が優遇されている』が増加傾向にある。一方、「平等」は前回調査（平成 29 年度）と比較して 4.9 ポイント減少している。

全国調査（令和元年度）と比較すると、「平等」は 3.5 ポイント高くなっている。

図表 2-9 ④教育の中で（経年比較）



※内閣府が実施した全国平成 28 年度調査・令和元年度調査では、「学校教育の場」、四街道市平成 24 年度調査では、「学校教育の場で」として調査

※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したもの

⑤ 政治の場で

政治の場での男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（「男性優遇」43.9%＋「どちらかといえば男性優遇」41.5%）』（85.4%）が「平等」（11.9%）を大幅に上回っている。また、『女性の方が優遇されている（「女性優遇」0.2%＋「どちらかといえば女性優遇」0.8%）』は1.0%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、『男性の方が優遇されている』は男女ともに調査8項目で最も高く、女性（91.2%）が男性（79.6%）を11.6ポイント上回っている。「平等」は男性（18.7%）が女性（6.2%）を12.5ポイント上回っている。

性・年代別では、男性はすべての年代で『男性の方が優遇されている』が最も高く、特に50歳代・60歳代は80%を超えている。女性は『男性の方が優遇されている』が70歳代以上（81.9%）を除いて90%を超えている。

図表 2-10 ⑤政治の場で（性別、性・年代別）

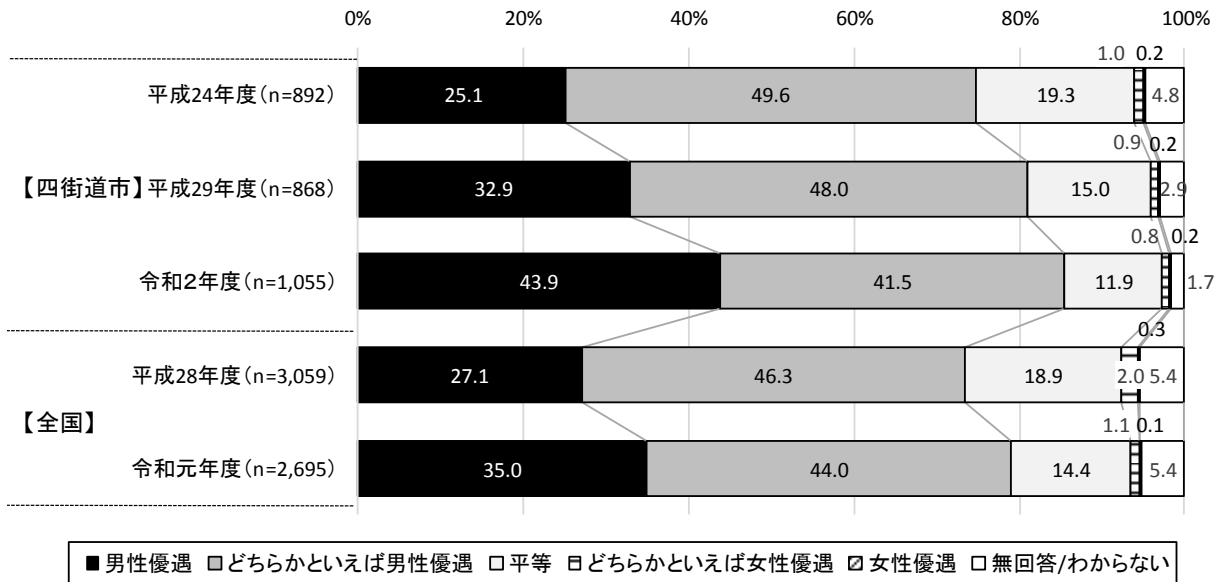
		(件、%)								
	回答数 (n)	男性の方が優遇 されている	男性優遇		平等	女性の方が優遇 されている	女性優遇		無回答	
			男性優遇	どちらか といえば男性優遇			どちらか といえば女性優遇	女性優遇		
全体	1,055	85.4	43.9	41.5	11.9	1.0	0.8	0.2	1.7	
男性	計	401	79.6	36.7	42.9	18.7	1.2	1.0	0.2	0.5
	20歳代以下	43	76.8	25.6	51.2	20.9	2.3	-	2.3	-
	30歳代	51	76.5	47.1	29.4	21.6	2.0	2.0	-	-
	40歳代	77	79.3	36.4	42.9	15.6	3.9	3.9	-	1.3
	50歳代	73	83.6	27.4	56.2	16.4	-	-	-	-
	60歳代	70	81.4	40.0	41.4	17.1	-	-	-	1.4
	70歳代以上	85	77.7	42.4	35.3	22.4	-	-	-	-
女性	計	569	91.2	49.9	41.3	6.2	0.7	0.5	0.2	1.9
	20歳代以下	63	92.1	49.2	42.9	6.3	-	-	-	1.6
	30歳代	83	91.6	51.8	39.8	6.0	2.4	2.4	-	-
	40歳代	96	94.8	44.8	50.0	4.2	1.0	1.0	-	-
	50歳代	98	96.0	58.2	37.8	3.1	1.0	-	1.0	-
	60歳代	97	93.8	55.7	38.1	5.2	-	-	-	1.0
	70歳代以上	127	81.9	41.7	40.2	11.0	-	-	-	7.1

【経年比較】

前々回調査（平成 24 年度）から「男性優遇」が増加傾向にある。また、「男性優遇」は前回調査（平成 29 年度）と比較して 11.0 ポイント増加し、構成比の中で最も高くなっている。

全国調査（令和元年度）と比較すると、「男性優遇」が 8.9 ポイント高くなっている。

図表 2-11 ⑤政治の場で（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したもの

⑥ 法律や制度の上で

法律や制度の上での男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（「男性優遇」14.1%＋「どちらかといえば男性優遇」40.6%）』（54.7%）が「平等」（38.4%）を上回っている。また、『女性の方が優遇されている（「女性優遇」0.7%＋「どちらかといえば女性優遇」3.7%）』は4.4%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、男性は「平等」が50.9%と最も高く、女性（29.2%）を21.7ポイント上回っている。女性は『男性の方が優遇されている』が64.5%と最も高く、男性（42.1%）を22.4ポイント上回っている。

性・年代別では、男性は40歳代以下と70歳代以上で「平等」が最も高く、50歳代・60歳代は『男性の方が優遇されている』が最も高くなっている。女性はすべての年代で『男性の方が優遇されている』が最も高く、特に50歳代・60歳代は70%を超えている。また、「平等」は女性の20歳代以下で41.3%と他の年代より高くなっている。

図表 2-12 ⑥法律や制度の上で（性別、性・年代別）

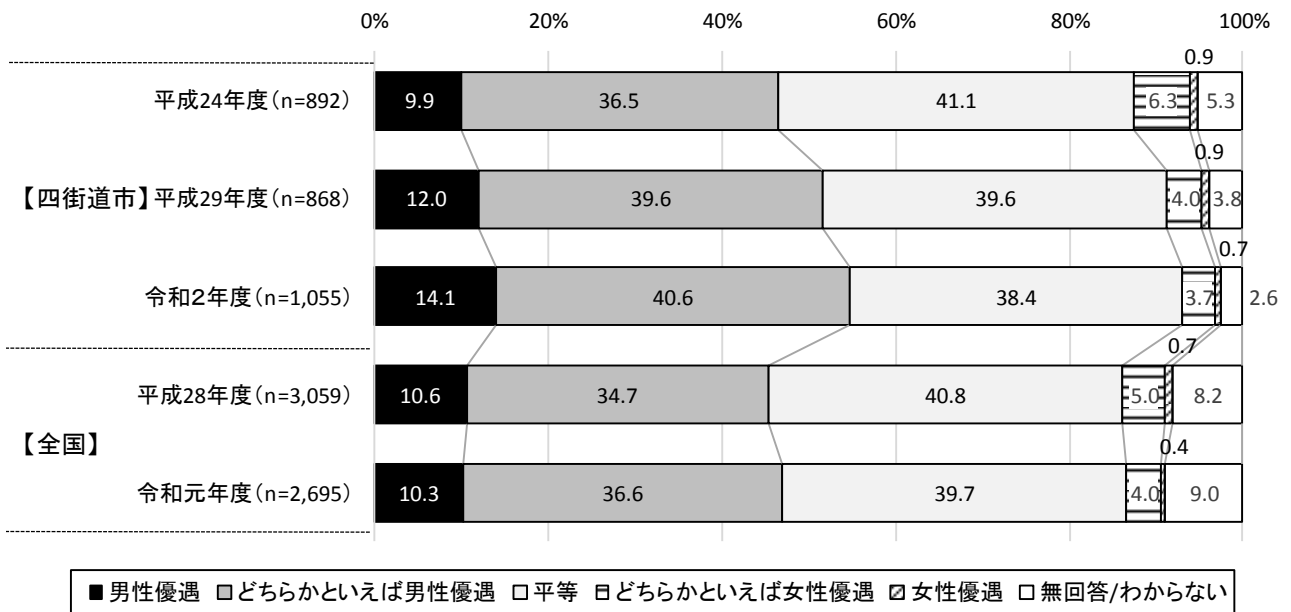
		回答数 (n)	男性の方が優遇			平等	女性の方が優遇			無回答
			男性優遇	どちらか といえば 男性優遇	女性優遇		どちらか といえば 女性優遇	女性優遇		
全体		1,055	54.7	14.1	40.6	38.4	4.4	3.7	0.7	2.6
男性	計	401	42.1	6.2	35.9	50.9	5.7	5.0	0.7	1.2
	20歳代以下	43	18.6	-	18.6	69.8	11.6	9.3	2.3	-
	30歳代	51	35.3	7.8	27.5	52.9	11.8	9.8	2.0	-
	40歳代	77	39.0	3.9	35.1	49.4	9.1	7.8	1.3	2.6
	50歳代	73	49.3	9.6	39.7	43.8	4.1	4.1	-	2.7
	60歳代	70	50.0	5.7	44.3	45.7	2.9	2.9	-	1.4
	70歳代以上	85	47.0	8.2	38.8	52.9	-	-	-	-
女性	計	569	64.5	20.0	44.5	29.2	3.3	2.8	0.5	3.0
	20歳代以下	63	54.0	17.5	36.5	41.3	3.2	3.2	-	1.6
	30歳代	83	57.9	18.1	39.8	36.1	6.0	3.6	2.4	-
	40歳代	96	62.6	18.8	43.8	31.3	5.2	5.2	-	1.0
	50歳代	98	76.5	21.4	55.1	20.4	3.0	2.0	1.0	-
	60歳代	97	71.1	21.6	49.5	24.7	1.0	1.0	-	3.1
	70歳代以上	127	60.6	22.0	38.6	27.6	2.4	2.4	-	9.4

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から『男性の方が優遇されている』が増加傾向にある。また、「どちらかといえば男性優遇」は前回調査（平成29年度）と比較して1.0ポイント増加し、構成比の中で最も高くなっている。

全国調査（令和元年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』は7.8ポイント高くなっている。

図表 2-13 ⑥法律や制度の上で（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したもの

⑦ 社会通念・慣習・しきたり等において

社会通念・慣習・しきたり等における男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（「男性優遇」27.2%＋「どちらかといえば男性優遇」51.0%）』（78.2%）が「平等」（17.8%）を大幅に上回っている。また、『女性の方が優遇されている（「女性優遇」0.5%＋「どちらかといえば女性優遇」1.9%）』は2.4%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、『男性の方が優遇されている』は男女ともに最も高く、女性（84.2%）が男性（72.1%）を12.1ポイント上回っている。「平等」は男性（23.4%）が女性（12.8%）を10.6ポイント上回っている。

性・年代別では、男性はすべての年代で『男性の方が優遇されている』が最も高く、特に70歳代以上は81.2%と高くなっている。また、「平等」は男性の30歳代以下で30%台と他の性・年代より高くなっている。女性はすべての年代で『男性の方が優遇されている』が最も高く、特に60歳代は93.8%と高くなっている。

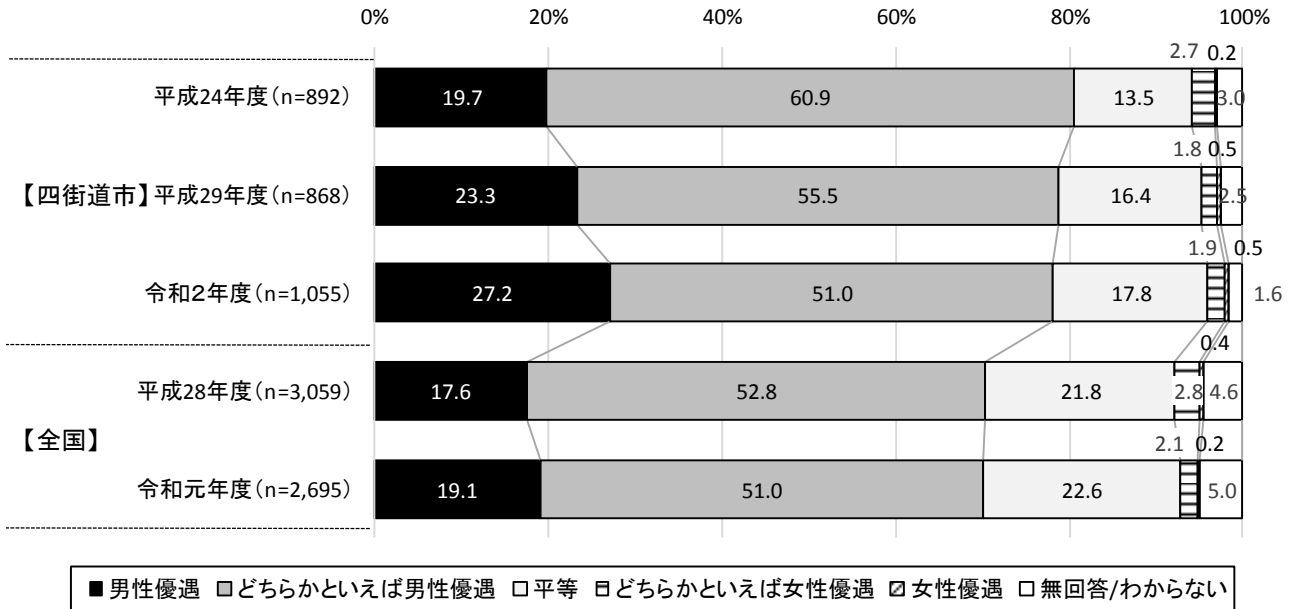
図表 2-14 ⑦社会通念・慣習・しきたり等において（性別、性・年代別）

		(件、%)								
		回答数 (n)	男性の 方が優 遇さ れて いる	男 性 優 遇	ど ち ら か と い え ば 男 性 優 遇	平 等	女 性 の 方 が 優 遇 さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 女 性 優 遇	女 性 優 遇	無 回 答
全体		1,055	78.2	27.2	51.0	17.8	2.4	1.9	0.5	1.6
男性	計	401	72.1	19.5	52.6	23.4	3.7	3.2	0.5	0.7
	20歳代以下	43	53.5	9.3	44.2	37.2	9.3	7.0	2.3	-
	30歳代	51	60.8	21.6	39.2	35.3	3.9	3.9	-	-
	40歳代	77	67.5	14.3	53.2	26.0	6.5	6.5	-	-
	50歳代	73	79.5	15.1	64.4	16.4	1.4	1.4	-	2.7
	60歳代	70	77.2	28.6	48.6	17.1	4.3	2.9	1.4	1.4
	70歳代以上	85	81.2	24.7	56.5	18.8	-	-	-	-
女性	計	569	84.2	34.1	50.1	12.8	1.5	1.1	0.4	1.6
	20歳代以下	63	79.4	30.2	49.2	19.0	-	-	-	1.6
	30歳代	83	80.7	28.9	51.8	16.9	2.4	2.4	-	-
	40歳代	96	87.6	31.3	56.3	12.5	-	-	-	-
	50歳代	98	87.7	46.9	40.8	9.2	3.0	2.0	1.0	-
	60歳代	97	93.8	39.2	54.6	6.2	-	-	-	-
	70歳代以上	127	76.3	28.3	48.0	15.7	2.4	1.6	0.8	5.5

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から「男性優遇」と「平等」はともに増加傾向にある。
 全国調査（令和元年度）と比較すると、「男性優遇」は8.1ポイント高くなっている。

図表2-15 ⑦社会通念・慣習・しきたり等において（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したもの

⑧ 区・自治会、PTAなどの地域活動の場で

区・自治会、PTAなどの地域活動の場での男女平等意識では、「平等」が43.5%と構成比の中で最も高くなっているものの、『男性の方が優遇されている（「男性優遇」9.1%+「どちらかといえば男性優遇」34.8%）』（43.9%）が「平等」（43.5%）を上回っている。また、『女性の方が優遇されている（「女性優遇」0.9%+「どちらかといえば女性優遇」9.2%）』は10.1%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、男性は「平等」が54.4%と最も高く、女性（36.9%）を17.5ポイント上回っている。女性は『男性の方が優遇されている』が50.9%と最も高く、男性（32.9%）を18.0ポイント上回っている。

性・年代別では、男性はすべての年代で「平等」が最も高く、特に20歳代以下は67.4%と高くなっている。女性は30歳代から60歳代は『男性の方が優遇されている』が最も高く、20歳代以下と70歳代以上は「平等」が最も高くなっている。

図表2-16 ⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で（性別、性・年代別）

(件、%)

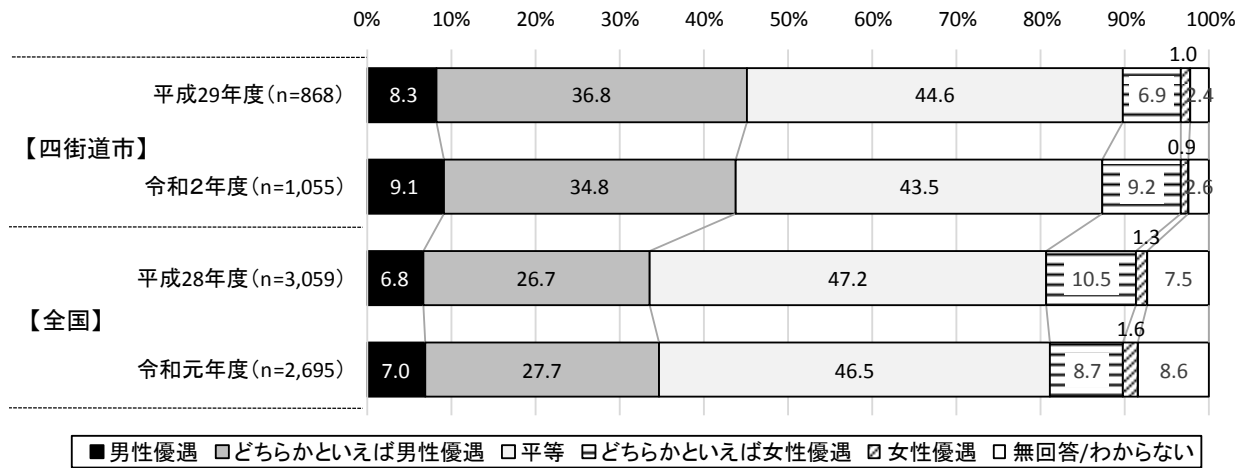
	回答数 (n)	男性の方が優遇 されている			平等	女性の方が優遇 されている			無回答	
		男性優遇	どちらか といえば男性優遇	女性優遇		どちらか といえば女性優遇				
全体	1,055	43.9	9.1	34.8	43.5	10.1	9.2	0.9	2.6	
男性	計	401	32.9	4.5	28.4	54.4	11.2	10.2	1.0	1.5
	20歳代以下	43	18.6	-	18.6	67.4	13.9	11.6	2.3	-
	30歳代	51	25.5	3.9	21.6	58.8	15.7	13.7	2.0	-
	40歳代	77	31.2	-	31.2	53.2	13.0	11.7	1.3	2.6
	50歳代	73	30.1	2.7	27.4	49.3	16.4	16.4	-	4.1
	60歳代	70	35.7	8.6	27.1	55.7	7.1	7.1	-	1.4
	70歳代以上	85	45.9	9.4	36.5	49.4	4.7	3.5	1.2	-
女性	計	569	50.9	12.8	38.1	36.9	9.3	8.6	0.7	2.8
	20歳代以下	63	36.5	11.1	25.4	44.4	15.9	15.9	-	3.2
	30歳代	83	48.2	14.5	33.7	37.3	14.4	12.0	2.4	-
	40歳代	96	58.3	8.3	50.0	36.5	4.2	4.2	-	1.0
	50歳代	98	60.2	18.4	41.8	26.5	13.2	12.2	1.0	-
	60歳代	97	60.8	9.3	51.5	34.0	3.1	3.1	-	2.1
	70歳代以上	127	38.6	15.0	23.6	44.1	8.7	7.9	0.8	8.7

【経年比較】

前回調査（平成 29 年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』が 1.2 ポイント減少し、『女性の方が優遇されている』が 2.2 ポイント増加している。

全国調査（令和元年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』は 9.2 ポイント高くなっている。

図表 2-17 ⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で（経年比較）



※前々回調査（平成 24 年度）では本項目を調査していない

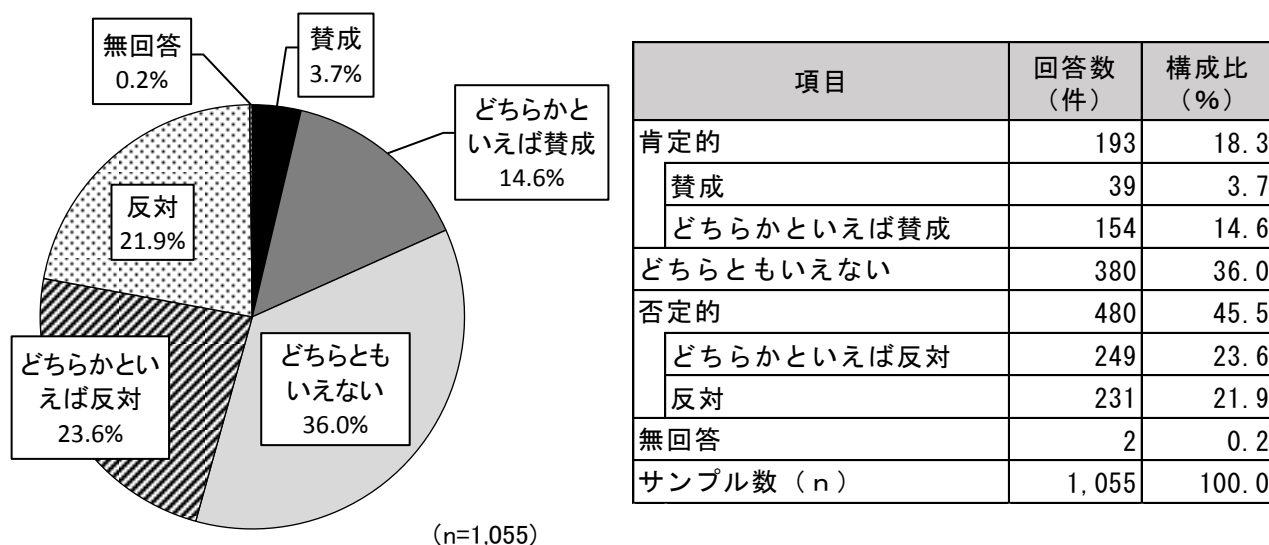
※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したもの

(2) 男は仕事、女は家庭という考え方

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。
次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、『否定的（「反対」21.9%＋「どちらかといえば反対」23.6%）』（45.5%）が最も高く、『肯定的（「賛成」3.7%＋「どちらかといえば賛成」14.6%）』（18.3%）を上回っている。「どちらともいえない」は36.0%と構成比の中で最も高くなっている。

図表2-18 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



【性別、性・年代別】

性別では、男女ともに『否定的』が『肯定的』を上回っている。『否定的』は女性が51.1%と半数を超え、男性（39.2%）を11.9ポイント上回っている。

性・年代別では、男性は年代によって意見が分かれており、30歳代以下と60歳代は『否定的』、40歳代・50歳代は「どちらともいえない」、70歳代以上は『肯定的』がそれぞれ最も高くなっている。女性はすべての年代で『否定的』が最も高く、特に20歳代以下は66.6%と高くなっている。

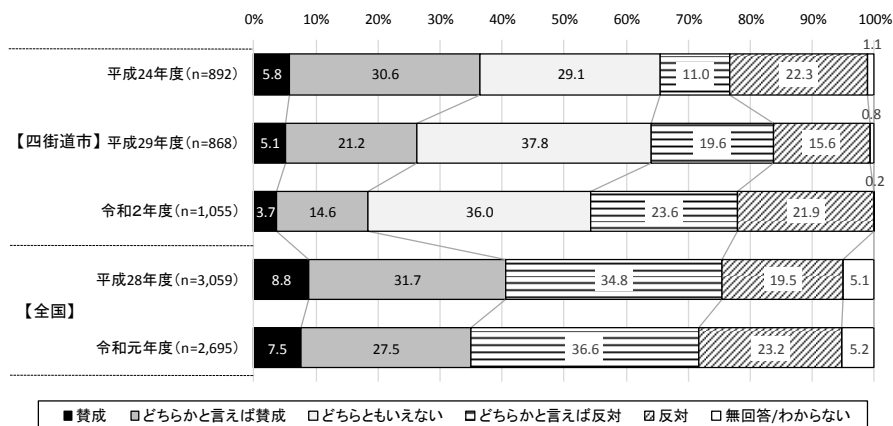
図表 2-19 「男は仕事、女は家庭」という考え方（性別、性・年代別）

	回答数 (n)	(件、%)							無回答	
		肯定的	賛成	い ど ち ら か と も い え な い	え ど ち ら と も い え な い	否 定 的	い ど ち ら か と も い え な い	反 対		
全体	1,055	18.3	3.7	14.6	36.0	45.5	23.6	21.9	0.2	
計	401	23.9	4.2	19.7	36.9	39.2	20.7	18.5	-	
男性	20歳代以下	43	18.7	4.7	14.0	34.9	46.5	27.9	18.6	-
	30歳代	51	11.7	3.9	7.8	35.3	52.9	19.6	33.3	-
	40歳代	77	20.8	5.2	15.6	44.2	35.1	20.8	14.3	-
	50歳代	73	19.1	2.7	16.4	46.6	34.3	19.2	15.1	-
	60歳代	70	30.0	4.3	25.7	28.6	41.5	18.6	22.9	-
	70歳代以上	85	36.5	4.7	31.8	29.4	34.1	21.2	12.9	-
	計	569	14.4	2.8	11.6	34.3	51.1	26.5	24.6	0.2
女性	20歳代以下	63	7.9	-	7.9	25.4	66.6	31.7	34.9	-
	30歳代	83	20.5	6.0	14.5	24.1	55.4	28.9	26.5	-
	40歳代	96	8.4	2.1	6.3	41.7	50.0	25.0	25.0	-
	50歳代	98	13.2	2.0	11.2	37.8	49.0	24.5	24.5	-
	60歳代	97	11.4	2.1	9.3	35.1	52.6	28.9	23.7	1.0
	70歳代以上	127	22.0	3.9	18.1	36.2	41.7	22.8	18.9	-
	計	569	14.4	2.8	11.6	34.3	51.1	26.5	24.6	0.2

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）では『肯定的』（36.4%）が『否定的』（33.3%）を上回っていたが、前回調査（平成29年度）で『否定的』（35.2%）が『肯定的』（26.3%）を逆転し、今回調査（令和2年度）でその差が広がっている。

図表 2-20 「男は仕事、女は家庭」という考え方（経年比較）



※ 全国・内閣府世論調査では「どちらともいえない」を調査していない

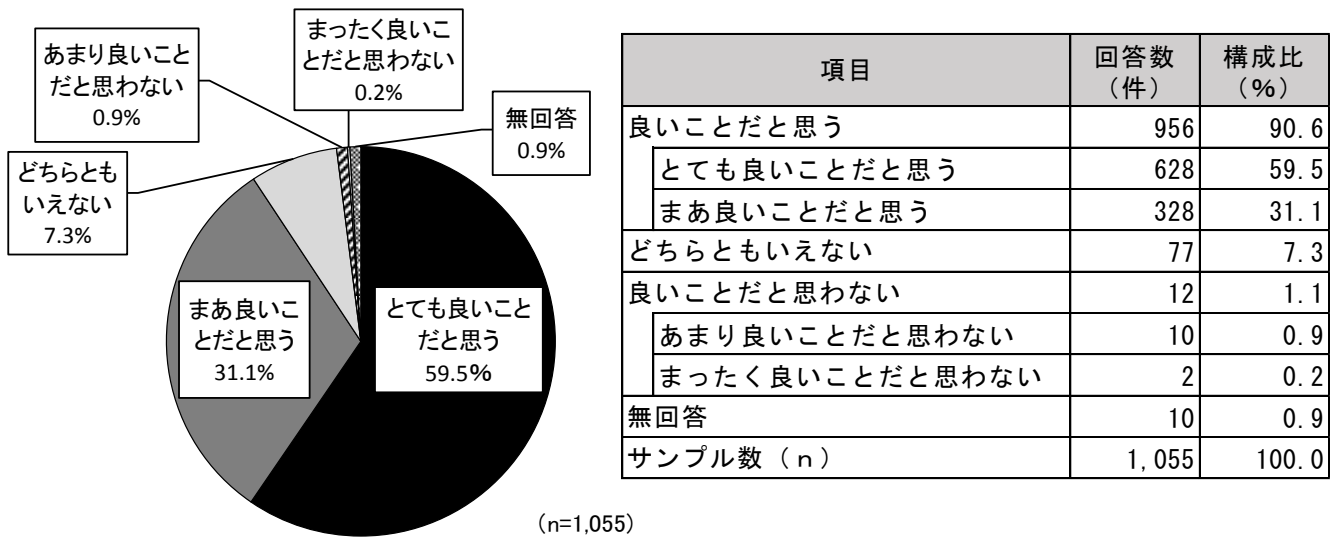
3. 男女共同参画の取組について

(1) 男女共同参画社会実現に対する評価について

問3 (1) . 市の男女共同参画推進計画でめざしている「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を発揮できる社会」の実現についてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

男女共同参画社会の実現については、「とても良いことだと思う」(59.5%)と「まあ良いことだと思う」(31.1%)を合わせた『良いことだと思う』が90.6%と非常に高くなっている。

図表3-1 男女共同参画社会の実現について



【性別、性・年代別】

性別では、男女ともに『良いことだと思う』が最も高く、ともに約9割となっている。

性・年代別では、『良いことだと思う』は女性の30歳代（96.4%）と20歳代以下（95.3%）で高くなっている。

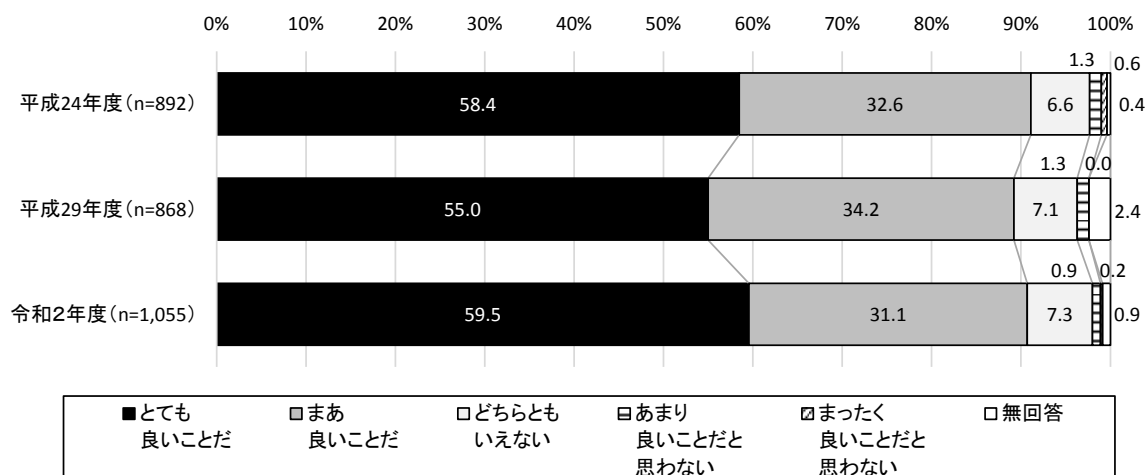
図表3-2 男女共同参画社会の実現について（性別、性・年代別）

		(件、%)								
		サンプル数 (n)	良いこと だと思う	とても 良いこと だ	まあ 良いこと だ	どちら ともい えない	良い ことだ と思 わな	あ まり 良い こと だ と思 わな い	ま った く 良 い こ と だ と 思 わ な い	無 回 答
全体		1,055	90.6	59.5	31.1	7.3	1.1	0.9	0.2	0.9
男性	計	401	88.8	59.1	29.7	8.7	2.0	1.5	0.5	0.5
	20歳代以下	43	88.4	72.1	16.3	7.0	2.3	-	2.3	2.3
	30歳代	51	78.4	54.9	23.5	15.7	3.9	3.9	-	2.0
	40歳代	77	85.8	48.1	37.7	10.4	3.9	2.6	1.3	-
	50歳代	73	93.1	61.6	31.5	5.5	1.4	1.4	-	-
	60歳代	70	94.3	68.6	25.7	5.7	-	-	-	-
	70歳代以上	85	90.6	56.5	34.1	8.2	1.2	1.2	-	-
女性	計	569	91.7	59.9	31.8	6.3	0.7	0.7	-	1.2
	20歳代以下	63	95.3	54.0	41.3	4.8	-	-	-	-
	30歳代	83	96.4	66.3	30.1	3.6	-	-	-	-
	40歳代	96	91.6	58.3	33.3	8.3	-	-	-	-
	50歳代	98	90.8	55.1	35.7	7.1	1.0	1.0	-	1.0
	60歳代	97	91.7	67.0	24.7	5.2	1.0	1.0	-	2.1
	70歳代以上	127	87.4	57.5	29.9	7.9	1.6	1.6	-	3.1

【経年比較】

『良いことだと思う』は前々回調査（平成24年度）・前回調査（平成29年度）と比較してもほぼ横ばいとなっている。

図表3-3 男女共同参画社会の実現について（経年比較）

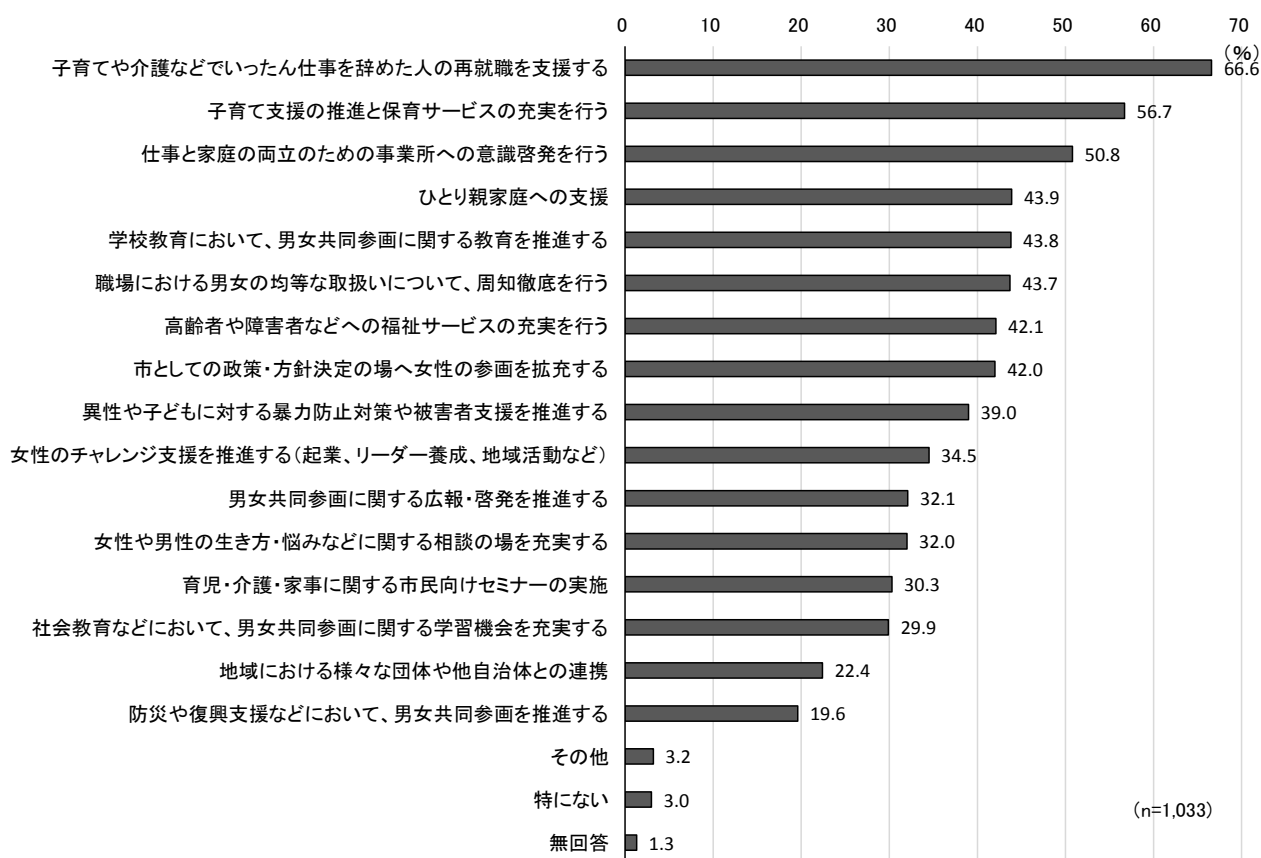


(2) 男女共同参画社会の実現に行政が力を入れるべきこと

問3(2)、問3(1)で「とても良いことだ」・「まあ良いことだ」・「どちらともいえない」を選んだ方に伺います。男女共同参画社会を実現するためには、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあてはまる数字すべてに○をつけてください。

男女共同参画社会を実現するために行政が力を入れていくべきことについては、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(66.6%)が最も高く、次いで「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」(56.7%)、「仕事と家庭の両立のための事業所への意識啓発を行う」(50.8%)となっている。

図表3-4 男女共同参画社会の実現に向けて



【性別、性・年代別】

全体の上位3項目を性別でみると、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は女性(71.0%)が男性(60.9%)を10.1ポイント上回っている。「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」は女性(59.0%)が男性(55.8%)を3.2ポイント上回っている。「仕事と家庭の両立のための事業所への意識啓発を行う」は女性(54.7%)が男性(46.5%)を8.2ポイント上回っている。

性・年代別では、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は女性の30歳代・50歳代でともに77.1%と高くなっている。「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」は女性の30歳代で68.7%、男性の20歳代以下で65.9%と高くなっている。「仕事と家庭の両立のための事業所への意識啓発を行う」は女性の50歳代で64.6%、30歳代で62.7%と高くなっている。

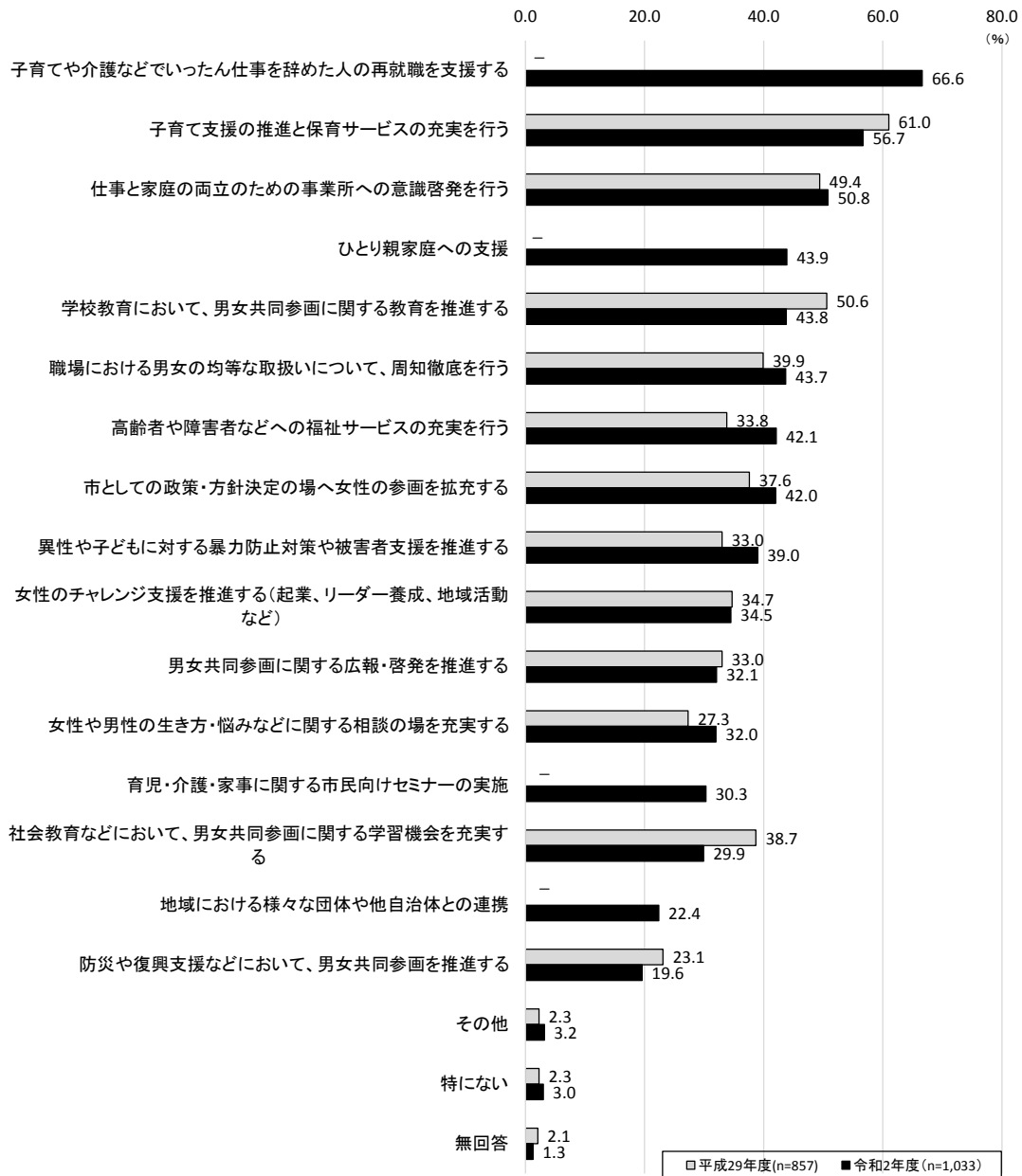
図表3-5 男女共同参画社会の実現に向けて(性別・性・年代別)

		(件、%)																						
	回答数(n)	め た 人 の 再 就 職 を 支 援 す る	子 育 て や 支 援 の 推 進 と 保 育 サ ー ビ ス の 充 実	意 識 啓 発 を 行 う	事 と 家 庭 の 両 立 の た め の 事 業 所 へ の 支 援	一 と り 親 家 庭 へ の 支 援	学 校 教 育 を 推 進 す る	職 場 に お け る 男 女 の 均 等 な 取 扱 い に つ い て 、 周 知 徹 底 を 行 う	高 齢 者 や 障 害 者 な ど へ の 福 祉 サ ー ビ ス の 充 実	市 と し て の 政 策 ・ 方 針 決 定 の 場 へ 女 性 の 参 画 を 拡 充 す る	被 害 者 や 子 ど も に 対 す る 暴 力 防 止 対 策 や 支 援 を 推 進 す る	異 業 ・ リ ー ダ ー の 支 援 を 推 進 す る (起 業 、 リ ー ダ ー の 支 援 を 推 進 す る 等)	女 性 の 参 画 に 関 す る 広 報 ・ 啓 発 を 推 進 す る	男 女 共 同 参 画 に 関 す る 広 報 ・ 啓 発 を 推 進 す る	女 性 や 男 性 の 生 き 方 ・ 悩 み な ど に 関 す る 相 談 の 場 を 充 実 す る	ミ ニ ナ ー の 実 施	育 児 ・ 介 護 ・ 家 事 に 関 す る 市 民 向 け の 学 習 機 会 を 充 実 す る	社 会 教 育 な ど に お い て 、 男 女 共 同 参 画 に 関 す る 学 習 機 会 を 充 実 す る	地 域 に お け る 様 々 な 団 体 や 他 自 治 体 と の 連 携	同 参 画 を 推 進 す る に お い て 、 男 女 共 同 参 画 に 関 す る 学 習 機 会 を 充 実 す る	防 災 や 復 興 支 援 な ど に お い て 、 男 女 共 同 参 画 を 推 進 す る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	1,055	66.6	56.7	50.8	43.9	43.8	43.7	42.1	42.0	39.0	34.5	32.1	32.0	30.3	29.9	22.4	19.6	3.2	3.0	1.3				
男性	計	391	60.9	55.8	46.5	45.3	42.5	43.7	33.0	42.7	35.8	34.3	37.1	30.7	26.1	29.4	22.0	19.9	3.8	3.3	0.5			
	20歳代以下	41	70.7	65.9	51.2	51.2	41.5	63.4	22.0	29.3	41.5	31.7	34.1	46.3	29.3	29.3	17.1	22.0	-	2.4				
	30歳代	48	64.6	58.3	43.8	29.2	35.4	29.2	14.6	22.9	33.3	18.8	20.8	41.7	18.8	14.6	25.0	12.5	8.3	4.2				
	40歳代	74	54.1	43.2	44.6	32.4	32.4	31.1	24.3	32.4	21.6	21.6	27.0	21.6	16.2	27.0	16.2	13.5	6.8	5.4				
	50歳代	71	59.2	56.3	47.9	52.1	42.3	42.3	33.8	40.8	36.6	39.4	40.8	35.2	21.1	23.9	18.3	15.5	7.0	2.8				
	60歳代	70	60.0	60.0	52.9	51.4	44.3	47.1	48.6	51.4	38.6	41.4	41.4	25.7	37.1	25.7	22.9	20.0	-	1.4				
	70歳代以上	83	65.1	59.0	43.4	54.2	55.4	54.2	43.4	65.1	45.8	44.6	51.8	26.5	33.7	48.2	31.3	32.5	1.2	3.6				
女性	計	558	71.0	59.0	54.7	42.7	45.5	44.4	47.3	41.4	39.8	34.4	28.0	32.3	32.8	29.9	21.5	18.8	2.3	2.7	1.4			
	20歳代以下	62	72.6	64.5	48.4	43.5	40.3	40.3	25.8	17.7	40.3	33.9	17.7	35.5	37.1	21.0	11.3	1.6	3.2	6.5				
	30歳代	83	77.1	68.7	62.7	42.2	45.8	38.6	38.6	31.3	37.3	42.2	20.5	28.9	21.7	26.5	24.1	12.0	4.8	2.4				
	40歳代	96	70.8	58.3	52.1	39.6	41.7	34.4	38.5	31.3	32.3	32.3	18.8	28.1	22.9	22.9	14.6	11.5	3.1	2.1				
	50歳代	96	77.1	59.4	64.6	51.0	46.9	51.0	53.1	43.8	38.5	35.4	29.2	30.2	32.3	30.2	21.9	17.7	4.2	-				
	60歳代	94	68.1	62.8	57.4	41.5	47.9	57.4	57.4	56.4	43.6	30.9	39.4	34.0	44.7	38.3	19.1	23.4	-	1.1				
	70歳代以上	114	68.4	50.9	47.4	43.0	51.8	46.5	63.2	57.0	48.2	35.1	36.0	40.4	40.4	37.7	34.2	37.7	-	5.3				

【経年比較】

前回調査（平成 29 年度）と比較すると、「高齢者や障害者などへの福祉サービスの充実を行う」が 8.3 ポイント、「異性や子どもに対する暴力防止対策や被害者支援を推進する」が 6.0 ポイント増加している。一方、「社会教育などにおいて、男女共同参画に関する学習機会を充実する」が 8.8 ポイント、「学校教育において、男女共同参画に関する教育を推進する」が 6.8 ポイント減少している。

図表 3-6 男女共同参画社会の実現に向けて（経年比較）



※前回調査（平成 29 年度）の設問は「男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか」

- ・「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「ひとり親家庭への支援」、「育児・介護・家事に関する市民向けセミナーの実施」、「地域における様々な団体や他自治体との連携」は今回調査（令和 2 年度）で追加
- ・「社会教育などにおいて、男女共同参画に関する学習機会を充実する」は、前回調査（平成 29 年度）では「社会教育などにおいて、男女平等・男女共同参画に関する学習機会を充実する」
- ・「学校教育において、男女共同参画に関する教育を推進する」は、前回調査（平成 29 年度）では「学校教育において、男女平等の教育を推進する」
- ・「高齢者や障害者などへの福祉サービスの充実を行う」は、前回調査（平成 29 年度）では「支援を必要とする高齢者や障害者などに対するサービスの利用を促進する」

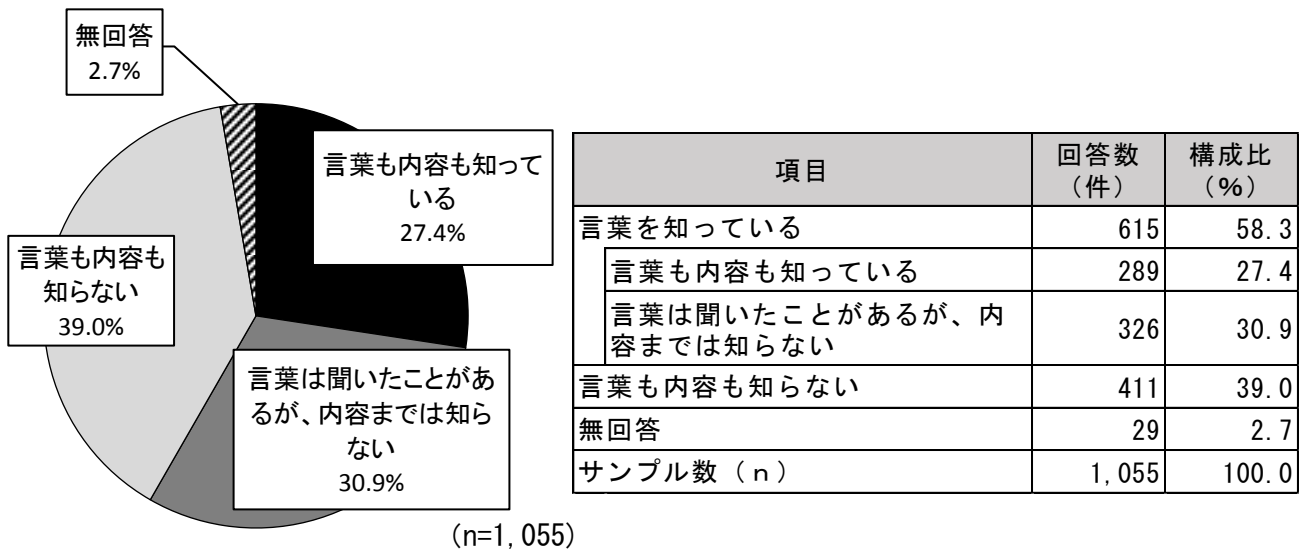
4. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度

問4. 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、「言葉も内容も知らない」が39.0%と構成比の中で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が30.9%、「言葉も内容も知っている」が27.4%となっている。また、『言葉を知っている（「言葉も内容も知っている」＋「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」）』は、58.3%となっている。

図表4-1 ワーク・ライフ・バランスの認知度



【性別、性・年代別】

性別では、『言葉を知っている』は男性（60.4%）が女性（55.2%）を5.2ポイント上回っている。「言葉も内容も知らない」は女性（42.4%）が男性（36.4%）を6.0ポイント上回っている。

性・年代別では、『言葉を知っている』は男性の20歳代以下と50歳代、女性の20歳代以下で70%を超えている。「言葉も内容も知らない」は女性の60歳代で49.5%と高くなっている。

図表 4-2 ワーク・ライフ・バランスの認知度（性別、性・年代別）

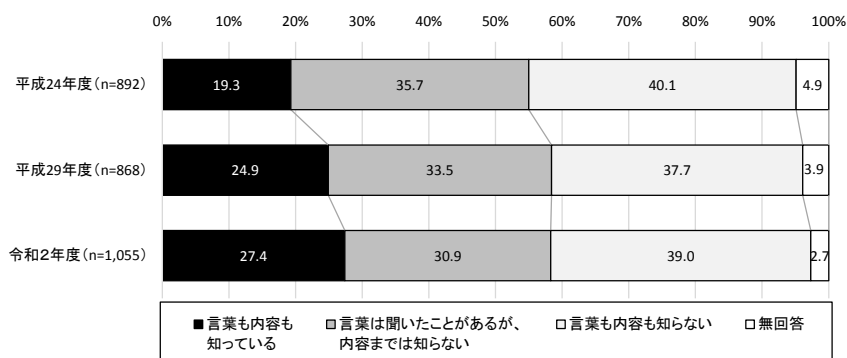
(件、%)

	回答数 (n)	言葉を知っている	言葉は聞いたことがあるが、 内容までは知らない		言葉も内容も知らない	無回答	
			言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことがあるが、 内容までは知らない			
全体	1,055	58.3	27.4	30.9	39.0	2.7	
男性	計	401	60.4	35.7	24.7	36.4	3.2
	20歳代以下	43	72.1	51.2	20.9	25.6	2.3
	30歳代	51	64.7	41.2	23.5	31.4	3.9
	40歳代	77	55.9	40.3	15.6	42.9	1.3
	50歳代	73	72.6	46.6	26.0	27.4	-
	60歳代	70	60.0	28.6	31.4	37.1	2.9
	70歳代以上	85	45.8	17.6	28.2	45.9	8.2
	女性	計	569	55.2	21.8	33.4	42.4
20歳代以下	63	71.4	34.9	36.5	28.6	-	
30歳代	83	51.8	27.7	24.1	48.2	-	
40歳代	96	58.4	29.2	29.2	39.6	2.1	
50歳代	98	57.1	25.5	31.6	40.8	2.0	
60歳代	97	43.3	12.4	30.9	49.5	7.2	
70歳代以上	127	55.9	11.0	44.9	41.7	2.4	

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から「言葉も内容も知っている」は増加傾向にある。また、前回調査（平成29年度）と比較すると、「言葉も内容も知っている」が2.5ポイント増加しているが、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が2.6ポイント減少しているため、『言葉を知っている』は横ばいとなっている。

図表 4-3 ワーク・ライフ・バランスの認知度（経年比較）

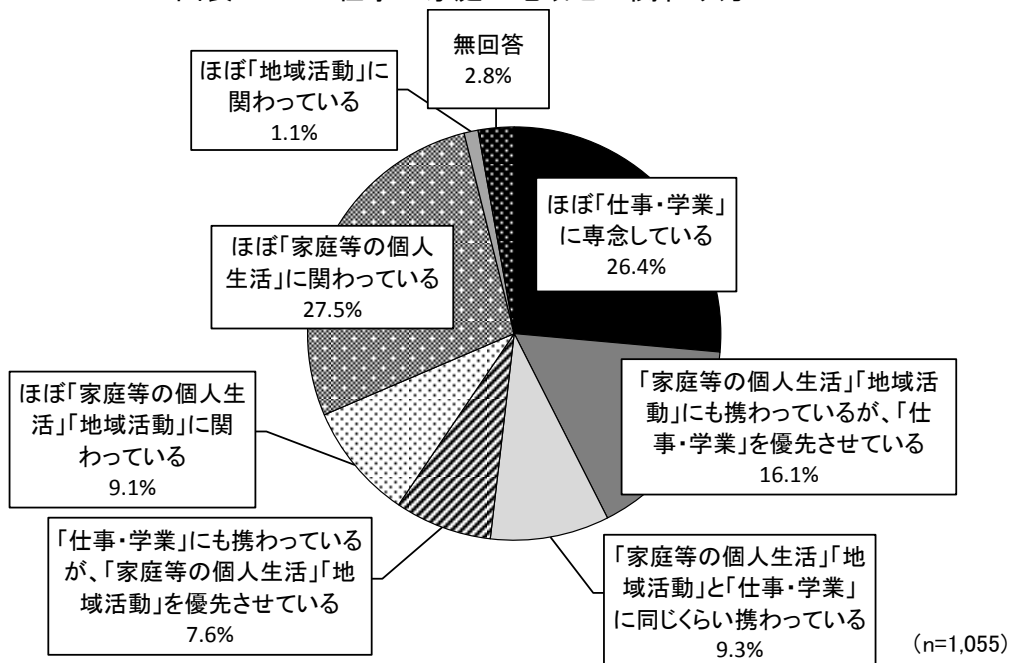


(2) 仕事・家庭・地域との関わり方

問5. あなたの現在の日常生活の中で、「仕事・学業」「家庭等の個人生活」「地域・ボランティア等の活動（地域活動）」への関わり方は、次の1～7のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

日常生活の中で、「仕事・学業」「家庭等の個人生活」「地域・ボランティア等の活動（地域活動）」への関わり方については、「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」（27.5%）が最も高く、次いで「ほぼ『仕事・学業』に専念している」（26.4%）、「『家庭等の個人生活』『地域活動』にも関わっているが、『仕事・学業』を優先させている」（16.1%）となっている。『主に仕事・学業をしている』（「ほぼ『仕事・学業』に専念している」+「『家庭等の個人生活』『地域活動』にも関わっているが、『仕事・学業』を優先させている」）は、42.5%となっている。

図表4-4 仕事・家庭・地域との関わり方



項目	回答数 (件)	構成比 (%)
主に仕事・学業をしている	449	42.5
ほぼ「仕事・学業」に専念している	279	26.4
「家庭等の個人生活」「地域活動」にも関わっているが、「仕事・学業」を優先させている	170	16.1
「家庭等の個人生活」「地域活動」と「仕事・学業」に同じくらい関わっている	98	9.3
「仕事・学業」にも関わっているが、「家庭等の個人生活」「地域活動」を優先させている	80	7.6
ほぼ「家庭等の個人生活」「地域活動」に関わっている	96	9.1
ほぼ「家庭等の個人生活」に関わっている	290	27.5
ほぼ「地域活動」に関わっている	12	1.1
無回答	30	2.8
サンプル数 (n)	1,055	100.0

【性別、性・年代別】

性別では、男性は『主に仕事・学業をしている』が61.1%と高く、女性（31.5%）を29.6ポイント上回っている。女性は、「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」が35.1%と最も高く、男性（15.5%）を19.6ポイント上回っている。

性・年代別では、『主に仕事・学業をしている』は男性の50歳代以下で70%を超えている。「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」は女性の70歳代以上で59.8%、60歳代で44.3%と高くなっている。

図表 4-5 仕事・家庭・地域との関わり方（性別、性・年代別）

		(件、%)									
	回答数 (n)	主に仕事・学業をしている	いほぼ「仕事・学業」に専念している			い動「家庭等の個人生活」に同じく	「仕事・学業」にも携わっている	活ほ「家庭等の個人生活」「地域	わほ「家庭等の個人生活」に関	ほほ「地域活動」に関わっている	無回答
			いほぼ「仕事・学業」に専念している	事動「家庭等の個人生活」に同じく	「仕事・学業」に専念している	い動「家庭等の個人生活」に同じく	「仕事・学業」にも携わっている	活ほ「家庭等の個人生活」「地域	わほ「家庭等の個人生活」に関	ほほ「地域活動」に関わっている	
全体		1,055	42.5	26.4	16.1	9.3	7.6	9.1	27.5	1.1	2.8
男性	計	401	61.1	37.4	23.7	8.0	5.0	6.2	15.5	2.2	2.0
	20歳代以下	43	72.1	55.8	16.3	16.3	7.0	-	2.3	-	2.3
	30歳代	51	80.4	39.2	41.2	7.8	9.8	-	2.0	-	-
	40歳代	77	81.8	55.8	26.0	6.5	2.6	-	6.5	-	2.6
	50歳代	73	79.4	43.8	35.6	9.6	2.7	1.4	5.5	-	1.4
	60歳代	70	51.4	31.4	20.0	7.1	10.0	8.6	20.0	2.9	-
	70歳代以上	85	17.6	9.4	8.2	3.5	1.2	21.2	43.5	8.2	4.7
女性	計	569	31.5	20.4	11.1	11.2	9.7	10.4	35.1	0.2	1.9
	20歳代以下	63	73.0	57.1	15.9	9.5	4.8	-	12.7	-	-
	30歳代	83	28.9	19.3	9.6	13.3	14.5	9.6	33.7	-	-
	40歳代	96	33.3	20.8	12.5	19.8	24.0	3.1	18.8	-	1.0
	50歳代	98	44.9	25.5	19.4	14.3	9.2	4.1	26.5	-	1.0
	60歳代	97	23.7	12.4	11.3	7.2	7.2	12.4	44.3	1.0	4.1
	70歳代以上	127	7.1	5.5	1.6	4.7	0.8	23.6	59.8	-	3.9

【経年比較】

前回調査（平成29年度）より増加しているものは、「ほぼ『仕事・学業に専念』している」（+1.3ポイント）と「『家庭等の個人生活』『地域活動』にも携わっているが、『仕事・学業』を優先させている」（+1.6ポイント）、「『家庭等の個人生活』『地域活動』と『仕事・学業』に同じくらい携わっている」（+1.7ポイント）となっている。一方、前回調査（平成29年度）より減少しているものは、「ほぼ『家庭等の個人生活』『地域活動』に関わっている」（△3.3ポイント）、「ほぼ『地域活動』に関わっている」（△1.7ポイント）となっている。

図表 4-6 仕事・家庭・地域との関わり方（経年比較）

四街道市					全 国			
(回答数)	H24	H29	R2	H29比	H24	H28	R1	
	(892)	(868)	(1,055)		(3,033)	(3,059)	(2,645)	
1 ほぼ「仕事・学業」に専念している	20.4	25.1	26.4	1.3				
2 「家庭等の個人生活」「地域活動」にも携わっているが、「仕事・学業」を優先させている	22.2	14.5	16.1	1.6	26.1	25.5	25.9	(ア)「仕事」を優先している
3 「家庭等の個人生活」「地域活動」と「仕事・学業」に同じくらい携わっている	8.1	7.6	9.3	1.7	21.1	21.6	21	(エ)「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
					3.7	3.2	3.1	(オ)「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
					5.2	5.3	5.1	(キ)「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
4 「仕事・学業」にも携わっているが、「家庭等の個人生活」「地域活動」を優先させている	6.5	7.0	7.6	0.6	6.8	8.0	8.1	(カ)「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
5 ほぼ「家庭等の個人生活」「地域活動」に関わっている	32.7	12.4	9.1	△ 3.3	32.8	30.5	30.3	(イ)「家庭生活」を優先している
6 ほぼ「家庭等の個人生活」に関わっている		27.6	27.5	△ 0.1				
7 ほぼ「地域活動」に関わっている		2.8	1.1	△ 1.7				
無回答	10.1	2.9	2.8	△ 0.1	1.6	1.3	1.9	わからない

※「ほぼ『家庭等の個人生活』『地域活動』に関わっている」、「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」、「ほぼ『地域活動』に関わっている」は、前々回調査（平成24年度）では「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」

※全国調査の設問は次のとおり

内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」『問10 (2) 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。』

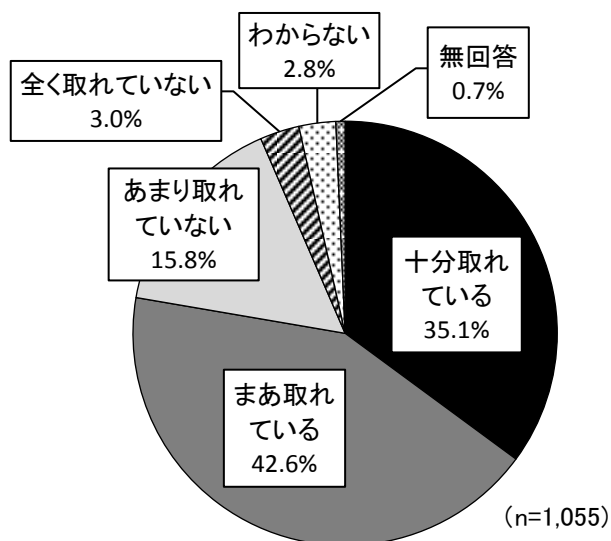
- (ア) 「家庭生活」を優先している
- (イ) 「仕事」を優先している
- (ウ) 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- (エ) 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- (オ) 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- (カ) 「地域・個人の生活」を優先している
- (キ) 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している

(3) 「家庭等の個人生活」のための時間

問5 (2) . 現在「家庭等の個人生活」のための時間は十分とれていると思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

「家庭等の個人生活」のための時間については、『取れている（「十分取れている」35.1%＋「まあ取れている」42.6%）』が77.7%と『取れていない（「全く取れていない」3.0%＋「あまり取れていない」15.8%）』の18.8%を大幅に上回っている。

図表4-7 「家庭等の個人生活」のための時間



項目	回答数 (件)	構成比 (%)
取れている	819	77.7
十分取れている	370	35.1
まあ取れている	449	42.6
取れていない	199	18.8
あまり取れていない	167	15.8
全く取れていない	32	3.0
わからない	30	2.8
無回答	7	0.7
サンプル数 (n)	1,055	100.0

【性別、性・年代別】

性別では、『取れている』は女性（79.4%）が男性（74.6%）を4.8ポイント上回っている。『取れていない』は男性（22.7%）が女性（17.2%）を5.5ポイント上回っている。

性・年代別では、『取れていない』は、男性の30歳代から50歳代と女性の20歳代以下で30%台と高くなっている。

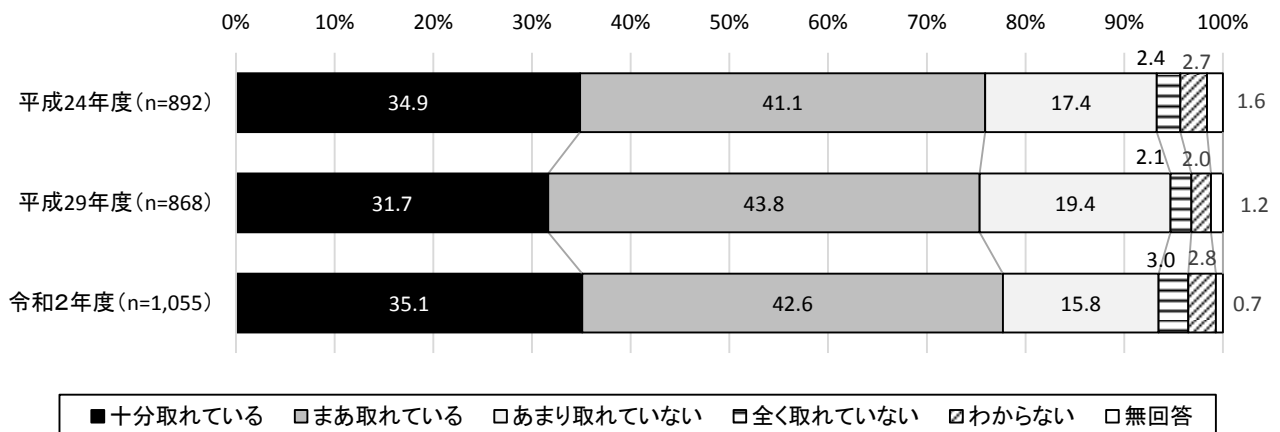
図表4-8 「家庭等の個人生活」のための時間（性別、性・年代別）

		(件、%)								
	回答数 (n)	取れている	十分	まあ	取れていない	あまり	全く	わからない	無回答	
			取れている	まあ取れている		取れていない	全く取れていない			
全体	1,055	77.7	35.1	42.6	18.8	15.8	3.0	2.8	0.7	
男性	計	401	74.6	30.2	44.4	22.7	18.5	4.2	2.2	0.5
	20歳代以下	43	76.7	37.2	39.5	20.9	20.9	-	2.3	-
	30歳代	51	56.8	7.8	49.0	37.2	29.4	7.8	5.9	-
	40歳代	77	62.4	22.1	40.3	37.7	29.9	7.8	-	-
	50歳代	73	69.9	13.7	56.2	30.1	20.5	9.6	-	-
	60歳代	70	82.8	41.4	41.4	14.3	14.3	-	1.4	1.4
	70歳代以上	85	92.9	52.9	40.0	2.4	2.4	-	3.5	1.2
	計	569	79.4	37.6	41.8	17.2	14.9	2.3	2.8	0.5
女性	計	486	74.6	35.1	42.6	18.8	15.8	3.0	2.8	0.7
	20歳代以下	63	57.2	27.0	30.2	31.8	28.6	3.2	11.1	-
	30歳代	83	75.9	31.3	44.6	20.5	16.9	3.6	3.6	-
	40歳代	96	74.0	27.1	46.9	24.0	21.9	2.1	1.0	1.0
	50歳代	98	74.5	29.6	44.9	24.5	21.4	3.1	1.0	-
	60歳代	97	87.7	42.3	45.4	8.3	6.2	2.1	3.1	1.0
	70歳代以上	127	93.7	55.9	37.8	4.7	3.9	0.8	0.8	0.8
	計	569	79.4	37.6	41.8	17.2	14.9	2.3	2.8	0.5

【経年比較】

前回調査（平成29年度）と比較すると、『取れている』が2.2ポイント増加し、『取れていない』が2.7ポイント減少している。

図表4-9 「家庭等の個人生活」のための時間（経年比較）

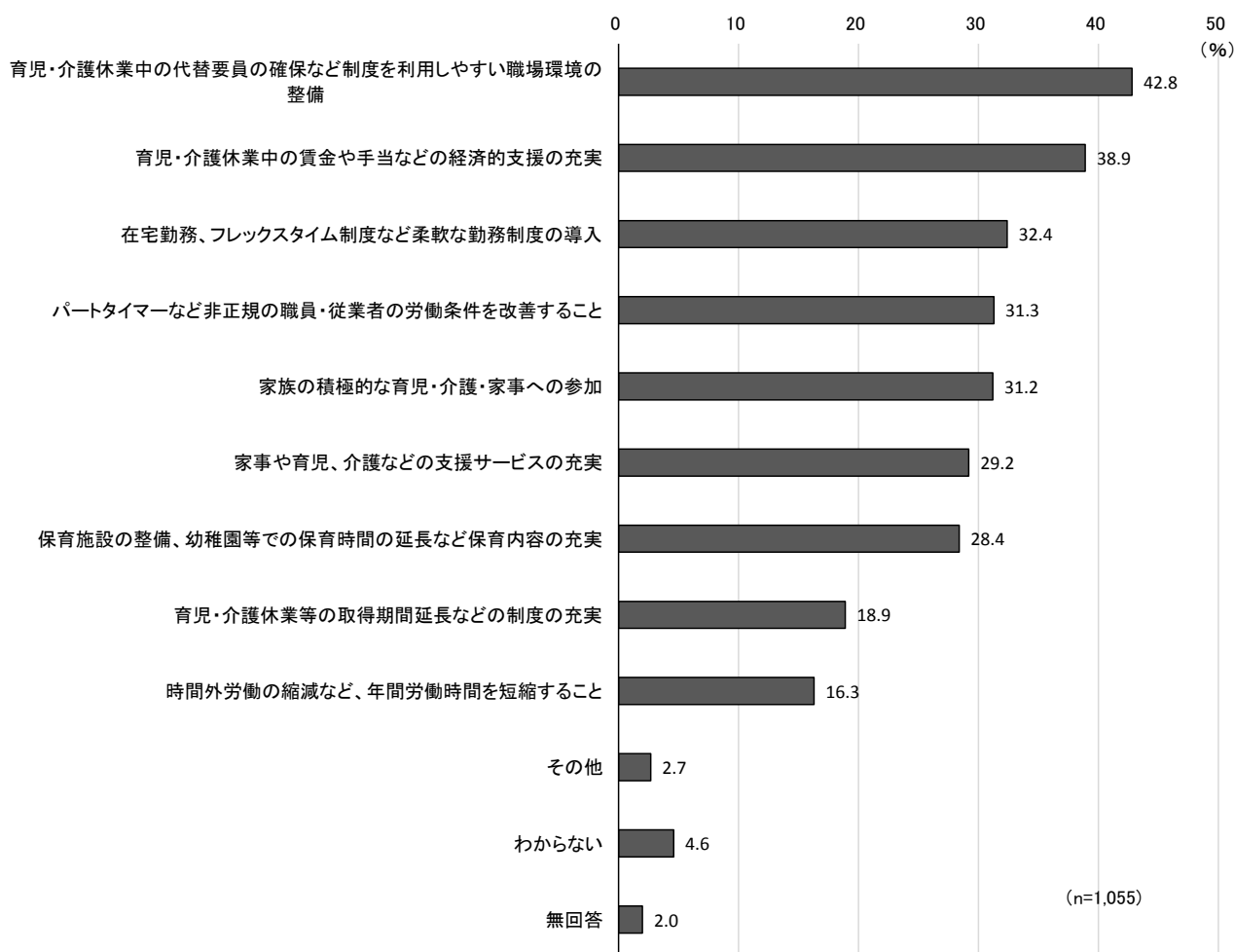


(4) 働きやすい環境づくり

問6. 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境づくりが必要だと思いますか。次の中からあてはまる数字を3つまで選んで○をつけてください。

仕事と家庭の両立のための環境づくりについては、「育児・介護休業中の代替要員の確保など制度を利用しやすい職場環境の整備」が42.8%と最も高く、次いで「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実」が38.9%、「在宅勤務、フレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入」が32.4%となっている。

図表 4-10 仕事と家庭の両立に必要な環境づくり（全体）



【性別、性・年代別】

全体の上位3項目を性別で見ると、「育児・介護休業中の代替要員の確保など制度を利用しやすい職場環境の整備」は、男性（43.6%）と女性（43.4%）が同水準となっている。「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実」は、男性（42.9%）が女性（36.2%）を6.7ポイント上回っている。「在宅勤務、フレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入」は、男性（36.4%）が女性（30.8%）を5.6ポイント上回っている。また、「家族の積極的な育児・介護・家事への参加」は女性（39.7%）が男性（19.5%）より20.2ポイント高く、男女の差が大きくなっている。

性・年代別では、「育児・介護休業中の代替要員の確保など制度を利用しやすい職場環境の整備」は女性の50歳代で53.1%と高くなっている。「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実」は、男性の30歳代以下で半数を超えている。「在宅勤務、フレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入」は、男性の20歳代以下で55.8%と高くなっている。

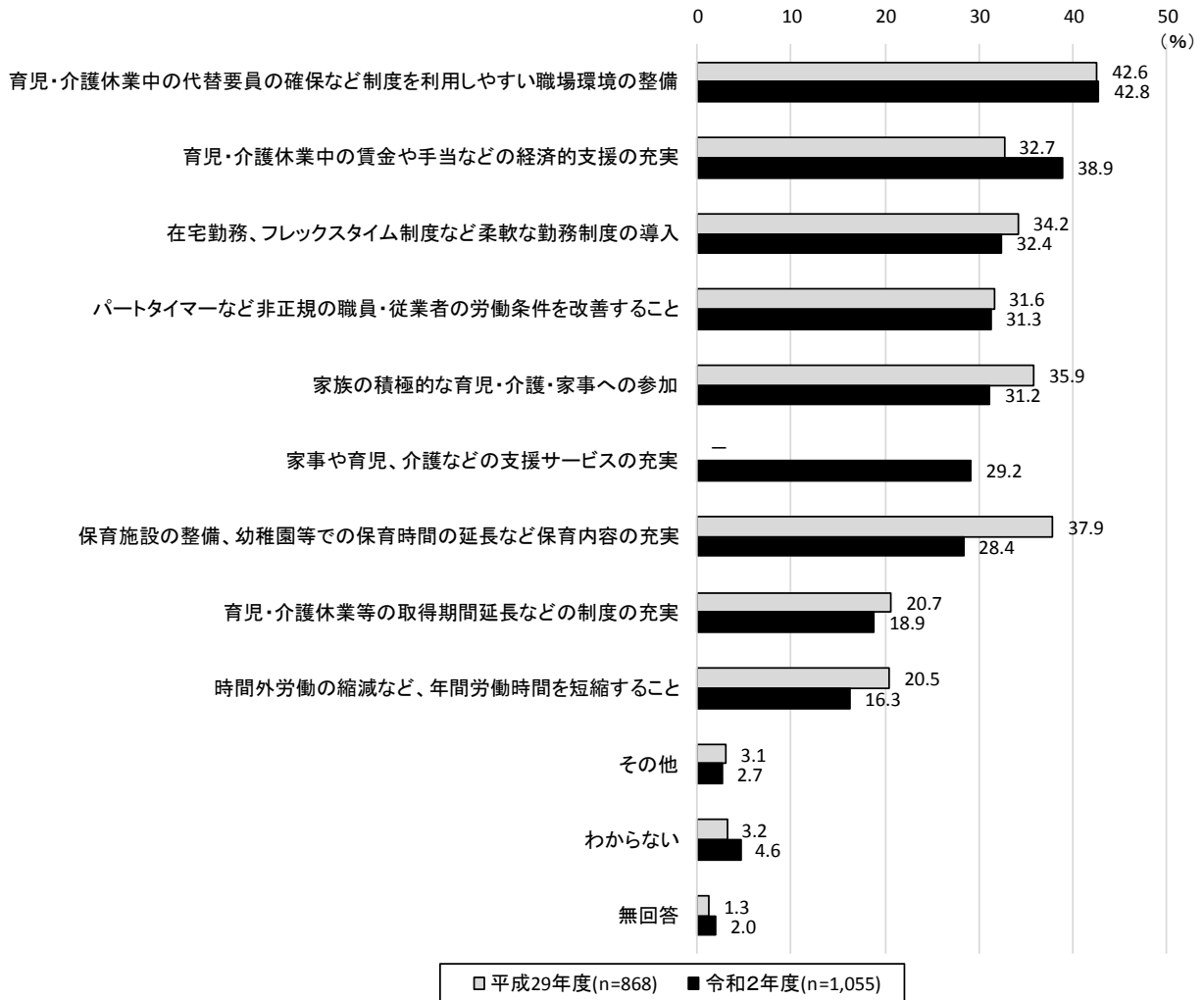
図表4-11 仕事と家庭の両立に必要な環境づくり（性別、性別・年代別）

		(件、%)												
	回答数 (n)	育児・介護休業中の代替要員の確保など制度的支援の充実	育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実	在宅勤務、フレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入	パートタイマーなど非正規の職員・従業員の労働条件を改善すること	家族の積極的な育児・介護・家事への参加	家事や育児、介護などの支援サービスの充実	保育施設の整備、幼稚園等での保育時間の延長など保育内容の充実	育児・介護休業等の取得期間延長などの制度の充実	時間を短縮すること	その他	わからない	無回答	
全体	1,055	42.8	38.9	32.4	31.3	31.2	29.2	28.4	18.9	16.3	2.7	4.6	2.0	
男性	計	401	43.6	42.9	36.4	30.2	19.5	24.2	33.4	19.5	17.0	3.2	4.2	1.0
	20歳代以下	43	51.2	55.8	55.8	16.3	20.9	20.9	14.0	25.6	32.6	9.3	-	-
	30歳代	51	45.1	51.0	39.2	11.8	15.7	21.6	31.4	21.6	23.5	9.8	9.8	-
	40歳代	77	40.3	40.3	40.3	28.6	22.1	10.4	28.6	15.6	15.6	1.3	7.8	1.3
	50歳代	73	41.1	41.1	37.0	32.9	19.2	32.9	35.6	19.2	17.8	1.4	1.4	1.4
	60歳代	70	44.3	35.7	37.1	35.7	17.1	30.0	40.0	18.6	11.4	1.4	1.4	-
	70歳代以上	85	43.5	42.4	20.0	42.4	21.2	28.2	42.4	20.0	10.6	-	4.7	2.4
女性	計	569	43.4	36.2	30.8	31.8	39.7	33.2	24.4	18.8	16.2	2.3	3.7	1.1
	20歳代以下	63	44.4	42.9	30.2	19.0	28.6	27.0	38.1	33.3	36.5	-	4.8	-
	30歳代	83	49.4	39.8	42.2	33.7	43.4	21.7	25.3	25.3	25.3	3.6	2.4	-
	40歳代	96	34.4	37.5	41.7	30.2	46.9	24.0	15.6	14.6	10.4	6.3	4.2	-
	50歳代	98	53.1	37.8	34.7	34.7	30.6	39.8	22.4	15.3	11.2	1.0	2.0	-
	60歳代	97	37.1	33.0	20.6	41.2	48.5	43.3	29.9	16.5	6.2	1.0	2.1	-
	70歳代以上	127	44.1	30.7	20.5	29.1	37.8	37.8	21.3	14.2	16.5	1.6	6.3	4.7

【経年比較】

前回調査（平成29年度）と比較すると、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実」が6.2ポイント増加し、「保育施設の整備、幼稚園等での保育時間の延長など保育内容の充実」が9.5ポイント減少している。

図表 4-12 仕事と家庭の両立に必要な環境づくり（経年比較）



※「家事や育児、介護などの支援サービスの充実」は今回調査（令和2年度）で追加
 ・「パートタイマーなど非正規の職員・従業者の労働条件を改善すること」は、前回調査（平成29年度）では「パートタイマーなど非正規雇用の労働条件を改善すること」
 ・「家族の積極的な育児・介護・家事への参加」は、前回調査（平成29年度）では「家族など周囲の理解と協力があること」

(5) 家事等の分担

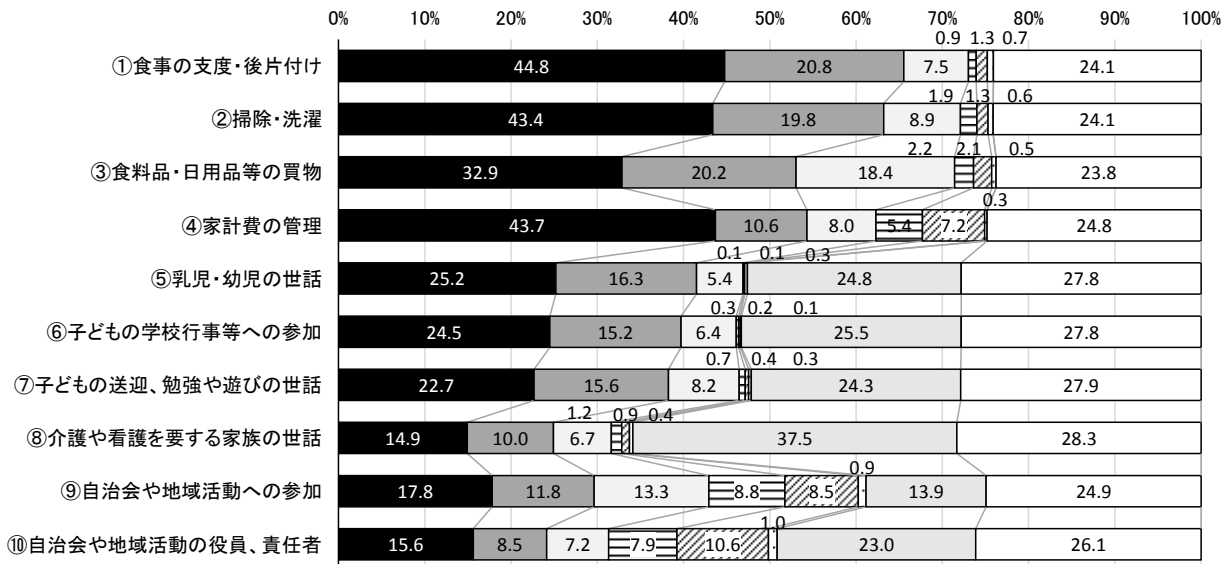
問7. (1) 実態、(2) 理想 ①～⑩の家事等をどなたがしていますか。(またはどなたがしていましたか。) ①～⑩のそれぞれの項目について、次の中からあてはまる数字に1ずつつ〇をつけてください。

【実態】

家事等の分担(実態)については、すべての項目で『妻が行う(「ほとんど妻」+「どちらかといえば妻」)』が最も高くなっている。

項目で比較すると、『妻が行う』は、「①食事の支度・後片付け」(65.6%)で最も高く、次いで「②掃除・洗濯」(63.2%)、「④家計費の管理」(54.3%)となっている。また、「夫婦とも同じ程度」は、「③食料品・日用品の買い物」(18.4%)が最も高く、『夫が行う(「ほとんど夫」+「どちらかといえば夫」)』は、「⑩自治会や地域活動の役員、責任者」(18.5%)が最も高くなっている。

図表4-13 家事等分担【実態】(全体)



■ほとんど妻 □どちらかといえば妻 □夫婦とも同じ程度 □どちらかといえば夫 □ほとんど夫 □夫婦以外の人 □該当なし □無回答

(n=1,055)

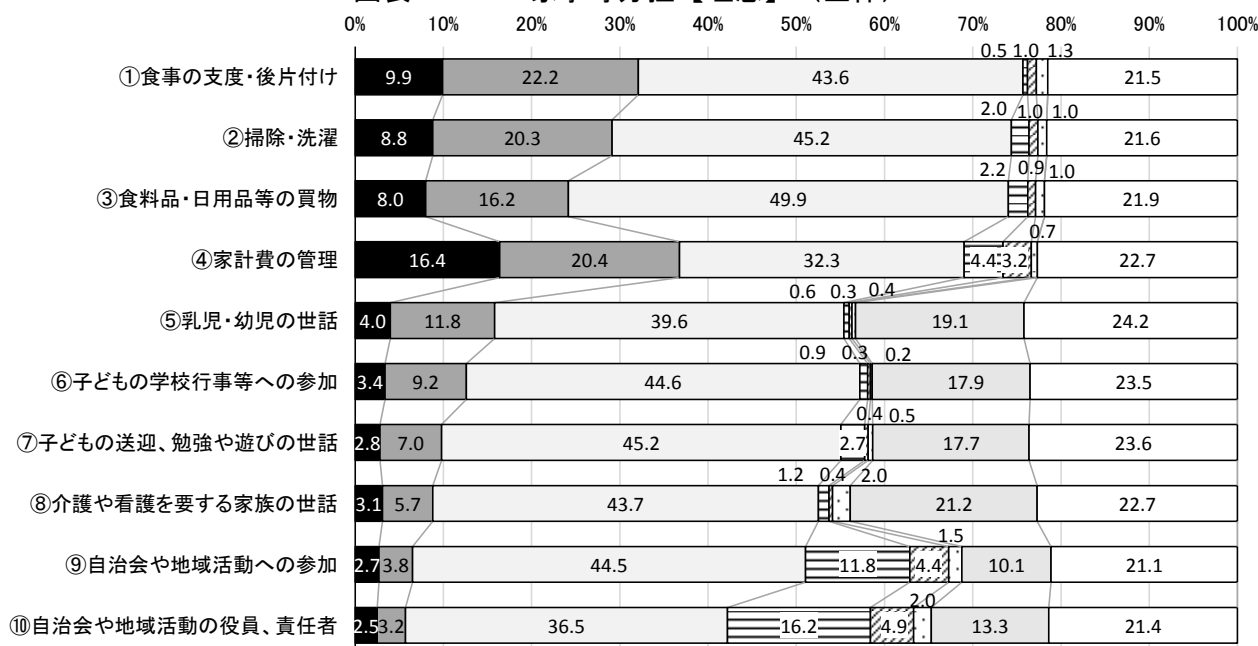
家事等	どなたが?	どなたが?										サンプル数(n)
		妻が行う	ほとんど妻	どちらかといえば妻	夫婦とも同じ程度	夫が行う	どちらかといえば夫	ほとんど夫	夫婦以外の人	該当なし	無回答	
①食事の支度・後片付け	回答数(件)	692	473	219	79	23	9	14	7		254	1,055
	構成比(%)	65.6	44.8	20.8	7.5	2.2	0.9	1.3	0.7		24.1	100.0
②掃除・洗濯	回答数(件)	667	458	209	94	34	20	14	6		254	1,055
	構成比(%)	63.2	43.4	19.8	8.9	3.2	1.9	1.3	0.6		24.1	100.0
③食料品・日用品等の買い物	回答数(件)	560	347	213	194	45	23	22	5		251	1,055
	構成比(%)	53.1	32.9	20.2	18.4	4.3	2.2	2.1	0.5		23.8	100.0
④家計費の管理	回答数(件)	573	461	112	84	133	57	76	3		262	1,055
	構成比(%)	54.3	43.7	10.6	8.0	12.6	5.4	7.2	0.3		24.8	100.0
⑤乳児・幼児の世話	回答数(件)	438	266	172	57	2	1	1	3	262	293	1,055
	構成比(%)	41.5	25.2	16.3	5.4	0.2	0.1	0.1	0.3	24.8	27.8	100.0
⑥子どもの学校行事等への参加	回答数(件)	419	259	160	68	5	3	2	1	269	293	1,055
	構成比(%)	39.7	24.5	15.2	6.4	0.5	0.3	0.2	0.1	25.5	27.8	100.0
⑦子どもの送迎、勉強や遊びの世話	回答数(件)	405	240	165	86	11	7	4	3	256	294	1,055
	構成比(%)	38.3	22.7	15.6	8.2	1.1	0.7	0.4	0.3	24.3	27.9	100.0
⑧介護や看護を要する家族の世話	回答数(件)	262	157	105	71	23	13	10	4	396	299	1,055
	構成比(%)	24.9	14.9	10.0	6.7	2.1	1.2	0.9	0.4	37.5	28.3	100.0
⑨自治会や地域活動への参加	回答数(件)	313	188	125	140	183	93	90	9	147	263	1,055
	構成比(%)	29.6	17.8	11.8	13.3	17.3	8.8	8.5	0.9	13.9	24.9	100.0
⑩自治会や地域活動の役員、責任者	回答数(件)	255	165	90	76	195	83	112	11	243	275	1,055
	構成比(%)	24.1	15.6	8.5	7.2	18.5	7.9	10.6	1.0	23.0	26.1	100.0

【理想】

家事等の分担（理想）については、「④家計費の管理」を除いたすべての項目で「夫婦とも同じ程度」が最も高くなっている。また、「④家計費の管理」は『妻が行う（「ほとんど妻」＋「どちらかといえば妻」）』が最も高くなっている。

項目で比較すると、「夫婦とも同じ程度」は、「③料品・日用品等の買物」（49.9%）で最も高く、次いで「②掃除・洗濯」（45.2%）、「⑦子どもの送迎、勉強や遊びの世話」（45.2%）となっている。また、『妻が行う』は、「④家計費の管理」（36.8%）が最も高く、『夫が行う（「ほとんど夫」＋「どちらかといえば夫」）』は、「⑩自治会や地域活動の役員、責任者」（21.1%）が最も高くなっている。

図表 4-14 家事等分担【理想】（全体）



■ほとんど妻 □どちらかといえば妻 □夫婦とも同じ程度 □どちらかといえば夫 □ほとんど夫 □夫婦以外の人 □該当なし □無回答

(n=1,055)

家事等	どなたが?	どなたが?							夫婦以外の人	該当なし	無回答	サンプル数 (n)
		妻が行う	ほとんど妻	どちらかといえば妻	夫婦とも同じ程度	夫が行う	どちらかといえば夫	ほとんど夫				
① 食事の支度・後片付け	回答数 (件)	338	104	234	460	16	5	11	14	227	1,055	
	構成比 (%)	32.1	9.9	22.2	43.6	1.5	0.5	1.0	1.3	21.5	100.0	
② 掃除・洗濯	回答数 (件)	307	93	214	477	32	21	11	11	228	1,055	
	構成比 (%)	29.1	8.8	20.3	45.2	3	2.0	1.0	1.0	21.6	100.0	
③ 食料品・日用品等の買物	回答数 (件)	255	84	171	526	32	23	9	11	231	1,055	
	構成比 (%)	24.2	8.0	16.2	49.9	3.1	2.2	0.9	1.0	21.9	100.0	
④ 家計費の管理	回答数 (件)	388	173	215	341	80	46	34	7	239	1,055	
	構成比 (%)	36.8	16.4	20.4	32.3	7.6	4.4	3.2	0.7	22.7	100.0	
⑤ 乳児・幼児の世話	回答数 (件)	167	42	125	418	9	6	3	4	202	1,055	
	構成比 (%)	15.8	4.0	11.8	39.6	0.9	0.6	0.3	0.4	19.1	100.0	
⑥ 子どもの学校行事等への参加	回答数 (件)	133	36	97	471	12	9	3	2	189	1,055	
	構成比 (%)	12.6	3.4	9.2	44.6	1.2	0.9	0.3	0.2	17.9	100.0	
⑦ 子どもの送迎、勉強や遊びの世話	回答数 (件)	104	30	74	477	33	29	4	5	187	1,055	
	構成比 (%)	9.8	2.8	7.0	45.2	3.1	2.7	0.4	0.5	17.7	100.0	
⑧ 介護や看護を要する家族の世話	回答数 (件)	93	33	60	461	17	13	4	21	224	1,055	
	構成比 (%)	8.8	3.1	5.7	43.7	1.6	1.2	0.4	2.0	21.2	100.0	
⑨ 自治会や地域活動への参加	回答数 (件)	69	29	40	470	170	124	46	16	107	1,055	
	構成比 (%)	6.5	2.7	3.8	44.5	16.2	11.8	4.4	1.5	10.1	100.0	
⑩ 自治会や地域活動の役員、責任者	回答数 (件)	60	26	34	385	223	171	52	21	140	1,055	
	構成比 (%)	5.7	2.5	3.2	36.5	21.1	16.2	4.9	2.0	13.3	100.0	

① 食事の支度・後片付け

食事の支度・後片付けの実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」44.8%＋「どちらかといえば妻」20.8%）』（65.6%）が、「夫婦とも同じ程度」（7.5%）を大幅に上回っている。また、『夫が行う（「ほとんど夫」1.3%＋「どちらかといえば夫」0.9%）』は2.2%となっている。

食事の支度・後片付けの理想では、「夫婦とも同じ程度」が43.6%と最も高くなっている。

【性別、性・年代別】

実態における性別では、男女ともに『妻が行う』が最も高く、女性（68.7%）が男性（61.8%）を6.9ポイント上回っている。

理想における性別では、男女ともに「夫婦とも同じ程度」が最も高く、女性（48.0%）が男性（39.4%）を8.6ポイント上回っている。

実態における性・年代別では、『妻が行う』は男性の60歳代以上と女性の30歳代・50歳代以上で70%台と高くなっている。

理想における性・年代別では、男性は20歳代以下・40歳代で「夫婦とも同じ程度」が最も高いが、その他の年代は『妻が行う』が最も高くなっている。女性は70歳代以上を除くすべての年代で「夫婦とも同じ程度」が最も高く、40歳代以下で半数を超えている。また、女性の70歳代以上は『妻が行う』と「夫婦とも同じ程度」が同水準となっている。

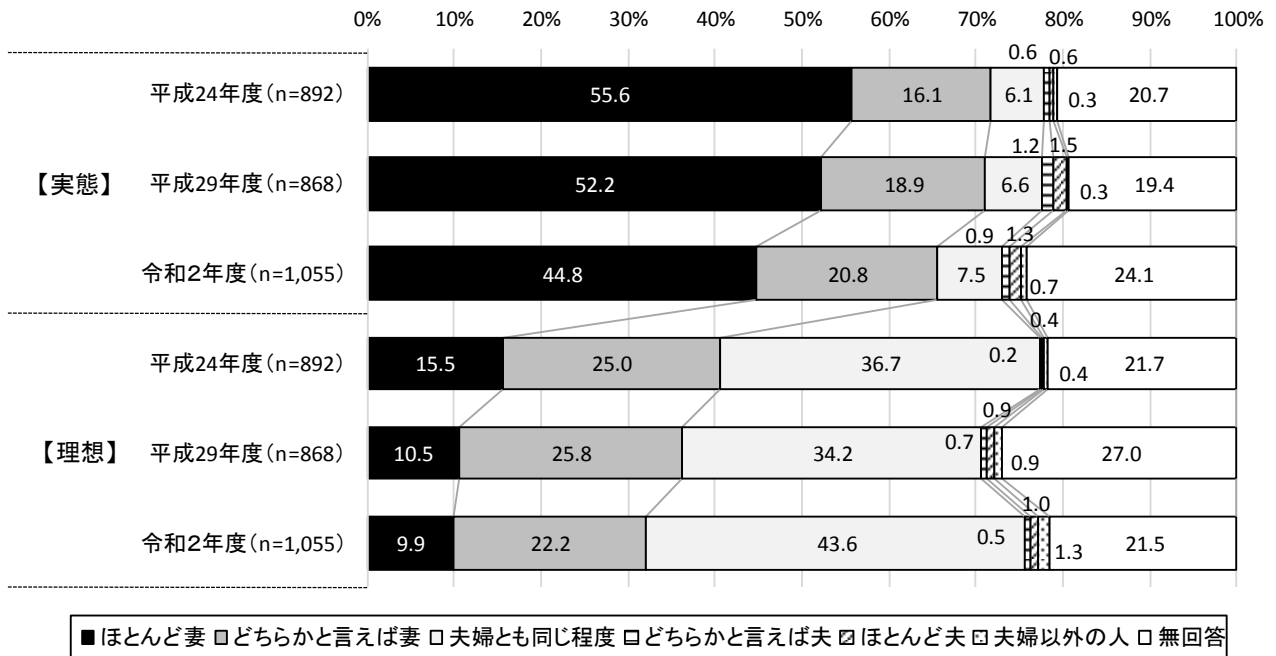
図表 4-15 ①食事の支度・後片付け（性別、性・年代別）

		(件、%)										
		回答数 (n)	妻が行う	夫婦とも同じ程度		夫が行う	夫婦以外の人		無回答			
				ほとんど妻	どちらかといえば妻		いどちらか	ほとんど夫				
実態	全体	1,055	65.6	44.8	20.8	7.5	2.2	0.9	1.3	0.7	24.1	
	計	401	61.8	37.4	24.4	8.5	2.7	0.5	2.2	1.0	25.9	
	男性	20歳代以下	43	20.9	9.3	11.6	2.3	-	-	-	-	76.7
		30歳代	51	58.9	37.3	21.6	11.8	2.0	2.0	-	2.0	25.5
		40歳代	77	68.9	41.6	27.3	1.3	5.2	1.3	3.9	1.3	23.4
		50歳代	73	58.9	46.6	12.3	11.0	1.4	-	1.4	1.4	27.4
		60歳代	70	72.9	38.6	34.3	10.0	1.4	-	1.4	1.4	14.3
		70歳代以上	85	71.8	40.0	31.8	12.9	4.7	-	4.7	-	10.6
	女性	計	569	68.7	50.4	18.3	6.7	1.6	0.9	0.7	0.4	22.7
	20歳代以下	63	20.6	11.1	9.5	12.7	-	-	-	-	-	66.7
	30歳代	83	72.3	47.0	25.3	6.0	-	-	-	1.2	20.5	
	40歳代	96	68.7	55.2	13.5	5.2	4.2	2.1	2.1	1.0	20.8	
	50歳代	98	79.6	59.2	20.4	7.1	2.0	1.0	1.0	-	11.2	
	60歳代	97	79.4	61.9	17.5	6.2	1.0	1.0	-	-	13.4	
70歳代以上	127	72.4	53.5	18.9	5.5	1.6	0.8	0.8	-	20.5		
理想	全体	1,055	32.1	9.9	22.2	43.6	1.5	0.5	1.0	1.3	21.5	
	計	401	35.6	12.2	23.4	39.4	2.5	1.0	1.5	1.5	20.9	
	男性	20歳代以下	43	25.6	4.7	20.9	60.5	-	-	-	2.3	11.6
		30歳代	51	39.3	11.8	27.5	37.3	4.0	2.0	2.0	-	19.6
		40歳代	77	32.5	13.0	19.5	49.4	-	-	-	2.6	15.6
		50歳代	73	43.8	9.6	34.2	38.4	1.4	-	1.4	2.7	13.7
		60歳代	70	35.7	17.1	18.6	31.4	5.8	2.9	2.9	-	27.1
		70歳代以上	85	34.1	14.1	20.0	29.4	3.6	1.2	2.4	1.2	31.8
	女性	計	569	29.2	6.9	22.3	48.0	0.6	0.2	0.4	1.2	21.1
	20歳代以下	63	19.1	1.6	17.5	61.9	3.2	-	3.2	3.2	12.7	
	30歳代	83	30.1	4.8	25.3	62.7	1.2	1.2	-	1.2	4.8	
	40歳代	96	27.1	3.1	24.0	59.4	-	-	-	2.1	11.5	
	50歳代	98	34.7	4.1	30.6	48.0	-	-	-	2.0	15.3	
	60歳代	97	31.9	10.3	21.6	41.2	-	-	-	-	26.8	
70歳代以上	127	29.1	13.4	15.7	29.1	-	-	-	-	41.7		

【経年比較】

実態・理想とも、前々回調査（平成24年度）から『妻が行う』は減少傾向にある。また、実態において、「夫婦とも同じ程度」が増加傾向にある。

図表 4-16 ①食事の支度・後片付け（経年比較）



② 掃除・洗濯

掃除・洗濯の実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」43.4%＋「どちらかといえば妻」19.8%）』（63.2%）が「夫婦とも同じ程度」（8.9%）を大幅に上回っている。また、『夫が行う（「ほとんど夫」1.3%＋「どちらかといえば夫」1.9%）』は3.2%となっている。

掃除・洗濯の理想では、「夫婦とも同じ程度」が45.2%と最も高くなっている。

【性別、性・年代別】

実態における性別では、男女ともに『妻が行う』が最も高く、女性（68.4%）が男性（56.8%）を11.6ポイント上回っている。

理想における性別では、男女ともに「夫婦とも同じ程度」が最も高く、女性（48.0%）が男性（41.6%）を6.4ポイント上回っている。

実態における性・年代別では、『妻が行う』は男性の70歳代以上、女性の40歳代以上で70%台と高くなっている。

理想における性・年代別では、男性の意見が年代で分かれており、20歳代以下・40歳代・60歳代は「夫婦とも同じ程度」が最も高く、30歳代・50歳代・70歳代以上は『妻が行う』が最も高くなっている。女性は70歳代以上を除くすべての年代で「夫婦とも同じ程度」が最も高く、若い年代ほど高くなっている。また、女性の70歳代以上は『妻が行う』が31.5%と最も高くなっている。

図表 4-17 ②掃除・洗濯（性別、性・年代別）

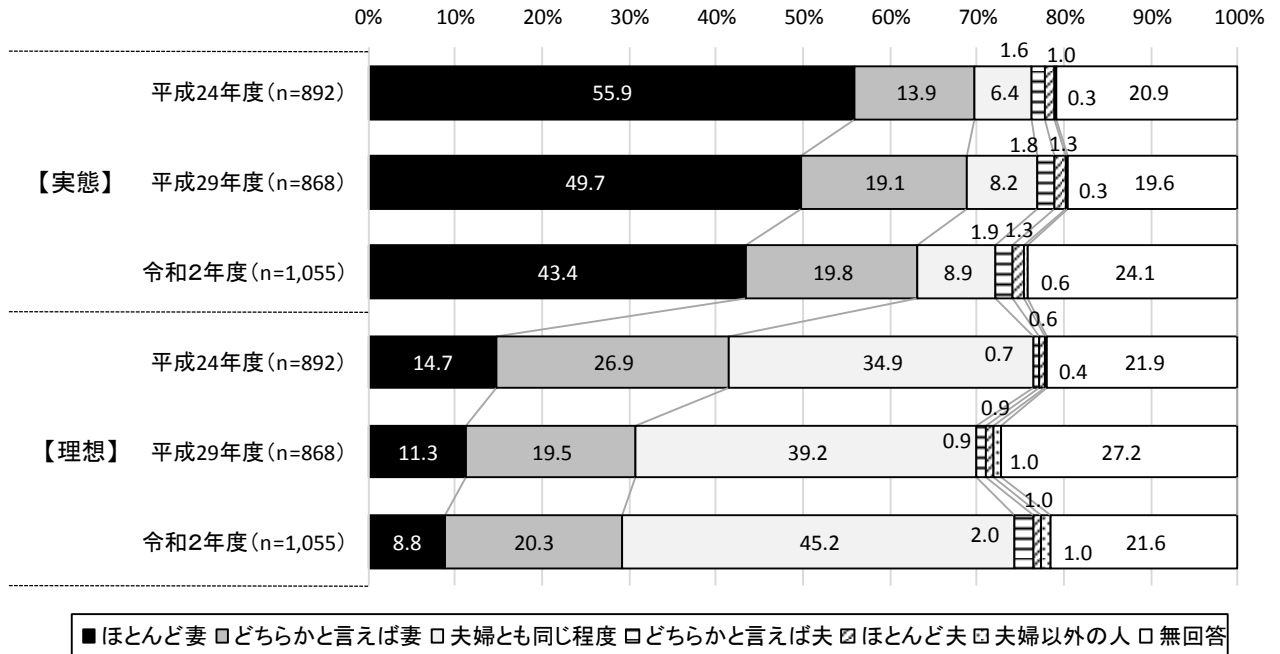
(件、%)

	回答数 (n)	実態			理想			夫婦以外の 人	無回答	
		妻が行う	ほとんど妻	どちらか といえば妻	夫婦とも 同じ	夫が行う	どちらか といえば夫			ほとんど夫
全体	1,055	63.2	43.4	19.8	8.9	3.2	1.9	1.3	0.6	24.1
計	401	56.8	35.9	20.9	11.2	5.4	2.7	2.7	0.7	25.7
男性										
20歳代以下	43	16.3	9.3	7.0	4.7	2.3	-	2.3	-	76.7
30歳代	51	54.9	39.2	15.7	11.8	7.9	5.9	2.0	-	25.5
40歳代	77	58.5	36.4	22.1	13.0	5.2	3.9	1.3	-	23.4
50歳代	73	61.7	42.5	19.2	6.8	2.8	1.4	1.4	1.4	27.4
60歳代	70	57.1	31.4	25.7	17.1	8.6	4.3	4.3	2.9	14.3
70歳代以上	85	72.9	44.7	28.2	11.8	5.9	1.2	4.7	-	9.4
計	569	68.4	48.7	19.7	7.2	1.4	1.2	0.2	0.4	22.7
女性										
20歳代以下	63	22.2	7.9	14.3	9.5	1.6	1.6	-	-	66.7
30歳代	83	66.3	50.6	15.7	8.4	2.4	2.4	-	2.4	20.5
40歳代	96	72.9	52.1	20.8	7.3	-	-	-	-	19.8
50歳代	98	78.5	56.1	22.4	9.2	1.0	1.0	-	-	11.2
60歳代	97	78.3	57.7	20.6	6.2	2.1	2.1	-	-	13.4
70歳代以上	127	73.2	53.5	19.7	3.9	1.6	0.8	0.8	-	21.3
理想										
全体	1,055	29.1	8.8	20.3	45.2	3.0	2.0	1.0	1.0	21.6
計	401	31.7	10.5	21.2	41.6	4.2	2.7	1.5	1.5	20.9
男性										
20歳代以下	43	18.7	4.7	14.0	62.8	4.6	2.3	2.3	2.3	11.6
30歳代	51	37.3	15.7	21.6	33.3	7.8	7.8	-	2.0	19.6
40歳代	77	29.9	9.1	20.8	49.4	2.6	1.3	1.3	2.6	15.6
50歳代	73	42.4	12.3	30.1	41.1	1.4	1.4	-	1.4	13.7
60歳代	70	24.2	7.1	17.1	40.0	8.6	4.3	4.3	-	27.1
70歳代以上	85	32.9	12.9	20.0	31.8	2.4	1.2	1.2	1.2	31.8
計	569	29.2	6.9	22.3	48.0	0.6	0.2	0.4	1.2	21.1
女性										
20歳代以下	63	12.7	1.6	11.1	69.8	3.2	1.6	1.6	1.6	12.7
30歳代	83	25.3	2.4	22.9	61.4	7.2	4.8	2.4	1.2	4.8
40歳代	96	27.1	7.3	19.8	59.4	-	-	-	2.1	11.5
50歳代	98	27.6	3.1	24.5	56.1	1.0	1.0	-	-	15.3
60歳代	97	26.8	8.2	18.6	43.3	2.1	2.1	-	-	27.8
70歳代以上	127	31.5	13.4	18.1	25.2	0.8	0.8	-	-	42.5

【経年比較】

実態・理想とも、前々回調査（平成24年度）から『妻が行う』は減少傾向にあり、「夫婦とも同じ程度」は増加傾向にある。

図表 4-18 ②掃除・洗濯（経年比較）



③ 食料品・日用品等の買物

食料品・日用品等の買物の実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」32.9%＋「どちらかといえば妻」20.2%）』（53.1%）が「夫婦とも同じ程度」（18.4%）を大幅に上回っている。また、『夫が行う（「ほとんど夫」2.1%＋「どちらかといえば夫」2.2%）』は4.3%となっている。食料品・日用品等の買物の理想では、「夫婦とも同じ程度」が49.9%と最も高くなっている。

【性別、性・年代別】

実態における性別では、男女ともに『妻が行う』が最も高く、女性（58.2%）が男性（44.6%）を13.6ポイント上回っている。

理想における性別では、男女ともに「夫婦とも同じ程度」が最も高く、女性（51.0%）と男性（49.9%）が同水準となっている。

実態における性・年代別では、『妻が行う』は女性の50歳代で74.5%と高くなっている。

理想における性・年代別では、男女ともにすべての年代で「夫婦とも同じ程度」が最も高く、男性の20歳代以下・40歳代・50歳代と女性の50歳代以下で半数を超えている。

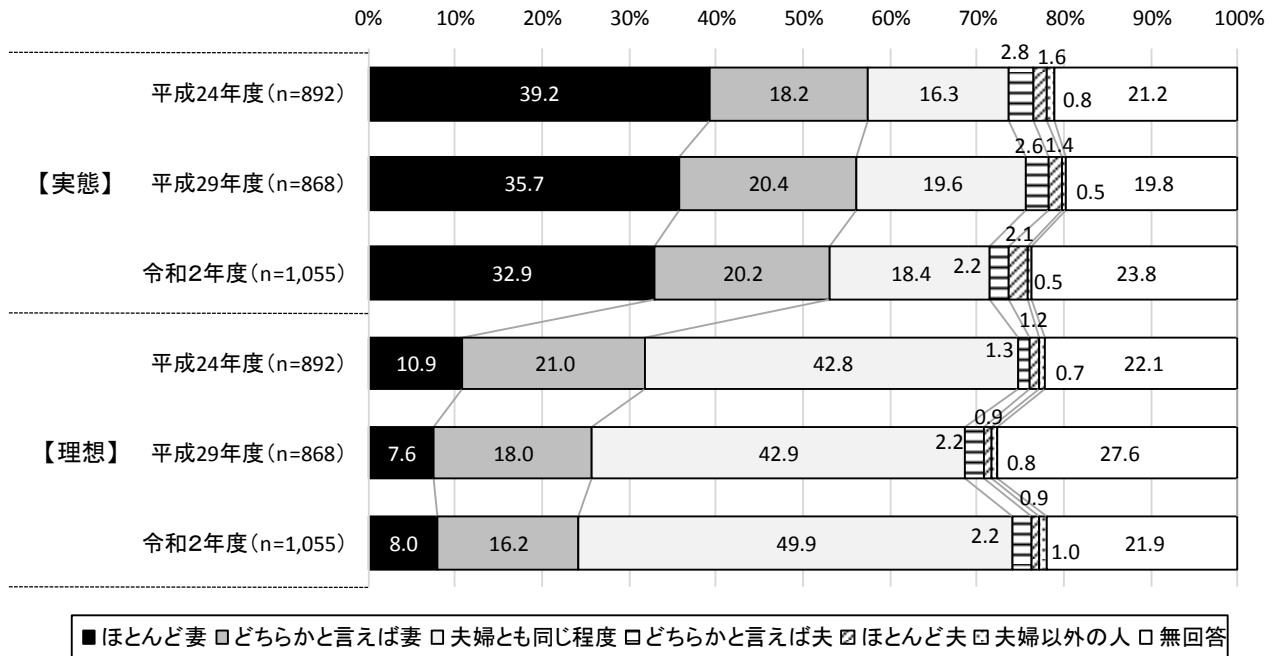
図表 4-19 ③食料品・日用品等の買物（性別、性・年代別）

		(件、%)										
		回答数 (n)	妻が 行う	ほと んど 妻	いど ちら かと 妻	程 度 夫 婦 と も 同 じ	夫 が 行 う	いど ちら かと 夫	ほと んど 夫	夫 婦 以 外 の 人	無 回 答	
実 態	全体	1,055	53.1	32.9	20.2	18.4	4.3	2.2	2.1	0.5	23.8	
	計	401	44.6	22.9	21.7	23.7	5.2	2.7	2.5	0.7	25.7	
	20歳代以下	43	14.0	7.0	7.0	7.0	2.3	2.3	-	-	76.7	
	30歳代	51	49.0	25.5	23.5	17.6	7.8	3.9	3.9	-	25.5	
	40歳代	77	49.4	28.6	20.8	19.5	6.5	3.9	2.6	1.3	23.4	
	50歳代	73	50.7	26.0	24.7	16.4	4.1	2.7	1.4	1.4	27.4	
	60歳代	70	47.2	18.6	28.6	31.4	5.8	2.9	2.9	1.4	14.3	
	70歳代以上	85	47.1	25.9	21.2	38.8	4.7	1.2	3.5	-	9.4	
	計	569	58.2	39.4	18.8	15.1	4.0	1.9	2.1	0.4	22.3	
	20歳代以下	63	20.6	12.7	7.9	6.3	6.4	4.8	1.6	-	66.7	
	30歳代	83	57.8	37.3	20.5	14.5	4.8	1.2	3.6	2.4	20.5	
	40歳代	96	65.6	50.0	15.6	10.4	4.2	2.1	2.1	-	19.8	
	50歳代	98	74.5	42.9	31.6	12.2	2.0	1.0	1.0	-	11.2	
	60歳代	97	57.8	39.2	18.6	25.8	3.1	2.1	1.0	-	13.4	
70歳代以上	127	59.0	43.3	15.7	16.5	4.7	1.6	3.1	-	19.7		
理 想	全体	1,055	24.2	8.0	16.2	49.9	3.1	2.2	0.9	1.0	21.9	
	計	401	23.2	9.0	14.2	49.9	4.5	3.0	1.5	1.2	21.2	
	20歳代以下	43	16.3	4.7	11.6	65.1	4.7	4.7	-	2.3	11.6	
	30歳代	51	27.5	11.8	15.7	45.1	7.8	7.8	-	-	19.6	
	40歳代	77	26.0	10.4	15.6	53.2	2.6	-	2.6	2.6	15.6	
	50歳代	73	21.9	8.2	13.7	60.3	1.4	1.4	-	1.4	15.1	
	60歳代	70	25.7	5.7	20.0	38.6	8.6	4.3	4.3	-	27.1	
	70歳代以上	85	21.2	11.8	9.4	42.4	3.6	2.4	1.2	1.2	31.8	
	計	569	24.3	6.5	17.8	51.0	2.2	1.8	0.4	0.9	21.8	
	20歳代以下	63	25.4	1.6	23.8	60.3	-	-	-	1.6	12.7	
	30歳代	83	25.3	2.4	22.9	65.1	3.6	2.4	1.2	1.2	4.8	
	40歳代	96	28.2	6.3	21.9	54.2	5.2	4.2	1.0	2.1	10.4	
	50歳代	98	22.5	4.1	18.4	61.2	1.0	1.0	-	-	15.3	
	60歳代	97	20.6	7.2	13.4	48.5	1.0	1.0	-	-	29.9	
70歳代以上	127	24.4	13.4	11.0	29.9	1.6	1.6	-	0.8	43.3		

【経年比較】

実態・理想とも、前々回調査（平成24年度）から『妻が行う』は減少傾向にある。また、理想において、「夫婦とも同じ程度」が増加傾向にある。

図表 4-20 ③食料品・日用品等の買物（経年比較）



④ 家計費の管理

家計費の管理の実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」43.7%+「どちらかといえば妻」10.6%）』（54.3%）が「夫婦とも同じ程度」（8.0%）を上回っている。また、『夫が行う（「ほとんど夫」7.2%+「どちらかといえば夫」5.4%）』は12.6%となっている。

家計費の管理の理想では、『妻が行う』が36.8%と最も高く、「夫婦とも同じ程度」が32.3%となっている。

【性別、性・年代別】

実態における性別では、男女ともに『妻が行う』が最も高く、女性（57.1%）が男性（49.9%）を7.2ポイント上回っている。

理想における性別では、男女ともに『妻が行う』が最も高く、男性（37.2%）と女性（36.2%）が同水準となっている。

実態における性・年代別では、『妻が行う』は男性の70歳代以上と女性の50歳代で70%を超えている。

理想における性・年代別では、『妻が行う』は男性の50歳代・70歳代以上と女性の40歳代で40%台と高くなっている。「夫婦とも同じ程度」は男性の20歳代以下と女性の30歳代以下で40%台と高くなっている。

図表 4-21 ④家計費の管理（性別、性・年代別）

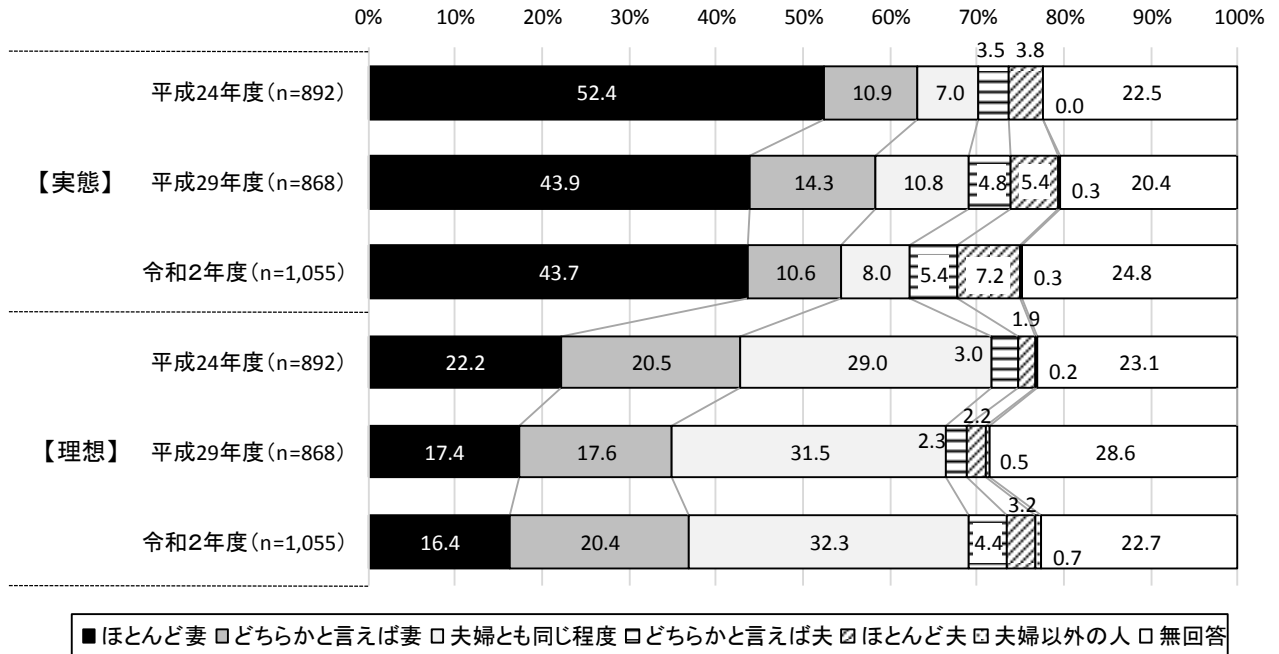
(件、%)

	回答数 (n)	妻が 行う	ほと んど 妻	い ど ち ら か と い え ば 妻	程 度 夫 婦 と も 同 じ	夫 が 行 う	い ど ち ら か と い え ば 夫	ほ と ん ど 夫	夫 婦 以 外 の 人	無 回 答	
実 態	全体	1,055	54.3	43.7	10.6	8.0	12.6	5.4	7.2	0.3	24.8
	計	401	49.9	40.9	9.0	8.0	15.9	6.7	9.2	0.5	25.7
	20歳代以下	43	11.7	7.0	4.7	9.3	2.3	-	2.3	-	76.7
	30歳代	51	37.3	27.5	9.8	7.8	29.4	17.6	11.8	-	25.5
	40歳代	77	53.3	46.8	6.5	6.5	16.9	3.9	13.0	-	23.4
	50歳代	73	47.9	43.8	4.1	6.8	16.4	8.2	8.2	1.4	27.4
	60歳代	70	55.8	42.9	12.9	8.6	20.0	7.1	12.9	1.4	14.3
	70歳代以上	85	70.6	56.5	14.1	9.4	10.6	4.7	5.9	-	9.4
	計	569	57.1	46.6	10.5	8.4	10.7	4.7	6.0	0.2	23.6
	20歳代以下	63	19.0	12.7	6.3	9.5	4.8	3.2	1.6	-	66.7
	30歳代	83	49.3	37.3	12.0	10.8	18.0	6.0	12.0	1.2	20.5
	40歳代	96	57.3	49.0	8.3	11.5	11.4	3.1	8.3	-	19.8
	50歳代	98	71.4	55.1	16.3	7.1	9.2	5.1	4.1	-	12.2
	60歳代	97	67.0	57.7	9.3	7.2	10.3	7.2	3.1	-	15.5
70歳代以上	127	61.4	51.2	10.2	6.3	10.2	3.9	6.3	-	22.0	
理 想	全体	1,055	36.8	16.4	20.4	32.3	7.6	4.4	3.2	0.7	22.7
	計	401	37.2	17.0	20.2	32.7	8.0	4.0	4.0	1.0	21.2
	20歳代以下	43	34.9	11.6	23.3	48.8	2.3	2.3	-	2.3	11.6
	30歳代	51	31.4	15.7	15.7	31.4	17.6	13.7	3.9	-	19.6
	40歳代	77	35.1	22.1	13.0	39.0	9.1	1.3	7.8	1.3	15.6
	50歳代	73	43.8	12.3	31.5	35.6	5.5	1.4	4.1	1.4	13.7
	60歳代	70	31.4	10.0	21.4	30.0	11.4	5.7	5.7	-	27.1
	70歳代以上	85	42.4	25.9	16.5	20.0	3.6	2.4	1.2	1.2	32.9
	計	569	36.2	15.3	20.9	33.2	7.4	4.9	2.5	0.4	22.8
	20歳代以下	63	31.7	7.9	23.8	41.3	11.1	9.5	1.6	1.6	14.3
	30歳代	83	37.3	12.0	25.3	42.2	15.6	7.2	8.4	-	4.8
	40歳代	96	41.7	19.8	21.9	36.5	10.5	6.3	4.2	1.0	10.4
	50歳代	98	37.8	18.4	19.4	39.8	6.1	5.1	1.0	-	16.3
	60歳代	97	35.0	13.4	21.6	30.9	2.1	2.1	-	-	32.0
70歳代以上	127	33.8	16.5	17.3	18.9	3.2	2.4	0.8	-	44.1	

【経年比較】

実態・理想とも、前々回調査（平成24年度）から「ほとんど妻」が減少傾向にある。また、理想において、「夫婦とも同じ程度」が増加傾向にある。

図表 4-22 ④家計費の管理（経年比較）



⑤ 乳児・幼児の世話

乳児・幼児の世話の実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」25.2%+「どちらかといえば妻」16.3%）』（41.5%）が「夫婦とも同じ程度」（5.4%）を大幅に上回っている。また、『夫が行う（「ほとんど夫」0.1%+「どちらかといえば夫」0.1%）』は0.2%となっている。

乳児・幼児の世話の理想では、「夫婦とも同じ程度」が39.6%と最も高くなっている。

【性別、性・年代別】

実態における性別では、男女ともに『妻が行う』が最も高く、女性（45.0%）が男性（38.1%）を6.9ポイント上回っている。

理想における性別では、男女ともに「夫婦とも同じ程度」が最も高く、女性（45.0%）が男性（34.7%）を10.3ポイント上回っている。

実態における性・年代別では、『妻が行う』は男性の30歳代・40歳代と女性の30歳代から50歳代で半数を超えている。

理想における性・年代別では、「夫婦とも同じ程度」は女性の20歳代以下で71.4%、30歳代で69.9%、男性の20歳代以下で65.1%と、年齢が若いほど高くなっている。

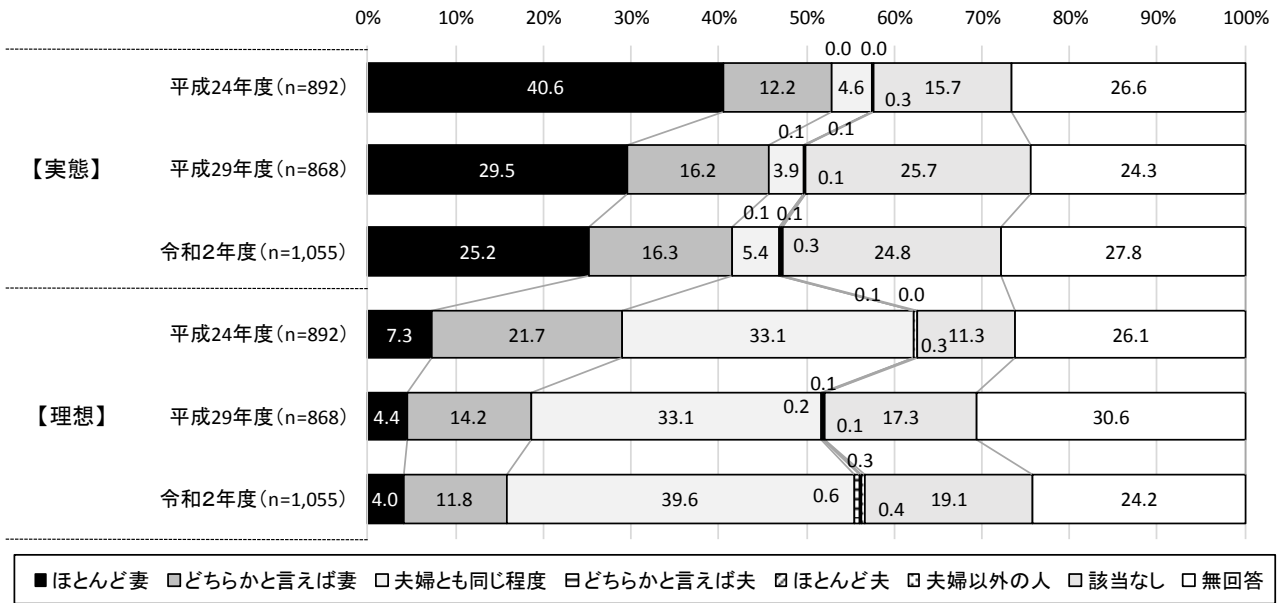
図表 4-23 ⑤乳児・幼児の世話（性別、性・年代別）

		(件、%)										
		回答数 (n)	妻が 行う	ほと んど 妻	いど ちら かと 妻	程 度 夫 婦 と も 同 じ	夫 が 行 う	いど ちら かと 夫	ほと んど 夫	夫 婦 以 外 の 人	該 当 な し	無 回 答
実 態	全体	1,055	41.5	25.2	16.3	5.4	0.2	0.1	0.1	0.3	24.8	27.8
	計	401	38.1	20.9	17.2	7.7	0.2	-	0.2	0.5	25.4	27.9
	20歳代以下	43	16.3	2.3	14.0	2.3	-	-	-	-	4.7	76.7
	30歳代	51	52.9	33.3	19.6	11.8	-	-	-	-	9.8	25.5
	40歳代	77	52.0	22.1	29.9	9.1	-	-	-	-	15.6	23.4
	50歳代	73	41.1	26.0	15.1	1.4	-	-	-	1.4	28.8	27.4
	60歳代	70	41.5	22.9	18.6	8.6	1.4	-	1.4	1.4	30.0	17.1
	70歳代以上	85	22.4	16.5	5.9	11.8	-	-	-	-	48.2	17.6
	計	569	45.0	29.0	16.0	3.9	-	-	-	0.2	24.8	26.2
	20歳代以下	63	17.4	7.9	9.5	1.6	-	-	-	-	14.3	66.7
	30歳代	83	60.2	33.7	26.5	8.4	-	-	-	-	10.8	20.5
	40歳代	96	53.2	36.5	16.7	5.2	-	-	-	-	21.9	19.8
	50歳代	98	51.1	32.7	18.4	5.1	-	-	-	-	30.6	13.3
	60歳代	97	48.5	35.1	13.4	3.1	-	-	-	1.0	30.9	16.5
70歳代以上	127	34.6	23.6	11.0	0.8	-	-	-	-	32.3	32.3	
理 想	全体	1,055	15.8	4.0	11.8	39.6	0.9	0.6	0.3	0.4	19.1	24.2
	計	401	19.9	6.2	13.7	34.7	0.7	0.5	0.2	0.5	21.9	22.2
	20歳代以下	43	21.0	4.7	16.3	65.1	-	-	-	-	4.7	9.3
	30歳代	51	23.5	7.8	15.7	49.0	-	-	-	2.0	5.9	19.6
	40歳代	77	16.9	5.2	11.7	48.1	1.3	1.3	-	-	19.5	14.3
	50歳代	73	30.1	6.8	23.3	32.9	-	-	-	1.4	21.9	13.7
	60歳代	70	21.4	10.0	11.4	22.9	2.8	1.4	1.4	-	24.3	28.6
	70歳代以上	85	10.6	3.5	7.1	9.4	-	-	-	-	41.2	38.8
	計	569	13.0	2.8	10.2	45.0	0.9	0.5	0.4	0.4	16.9	23.9
	20歳代以下	63	12.7	1.6	11.1	71.4	1.6	1.6	-	-	1.6	12.7
	30歳代	83	16.9	3.6	13.3	69.9	2.4	-	2.4	-	6.0	4.8
	40歳代	96	15.6	3.1	12.5	53.1	2.1	2.1	-	1.0	16.7	11.5
	50歳代	98	8.2	-	8.2	43.9	-	-	-	1.0	29.6	17.3
	60歳代	97	13.4	4.1	9.3	37.1	-	-	-	-	20.6	28.9
70歳代以上	127	12.6	3.9	8.7	18.1	-	-	-	-	18.9	50.4	

【経年比較】

実態・理想とも、前々回調査（平成24年度）から『妻が行う』が減少傾向にある。

図表 4-24 ⑤乳児・幼児の世話（経年比較）



⑥ 子どもの学校行事等への参加

子どもの学校行事等への参加の実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」24.5%+「どちらかといえば妻」15.2%）』（39.7%）が「夫婦とも同じ程度」（6.4%）を大幅に上回っている。また、『夫が行う（「ほとんど夫」0.2%+「どちらかといえば夫」0.3%）』は0.5%となっている。

子どもの学校行事等への参加の理想では、「夫婦とも同じ程度」が44.6%と最も高くなっている。

【性別、性・年代別】

実態における性別では、男女ともに『妻が行う』が最も高く、女性（44.1%）が男性（34.4%）を9.7ポイント上回っている。

理想における性別では、男女ともに「夫婦とも同じ程度」が最も高く、女性（47.5%）が男性（43.6%）を3.9ポイント上回っている。

実態における性・年代別では、『妻が行う』は男性の40歳代、女性の40歳代・50歳代で半数を超えている。

理想における性・年代別では、「夫婦とも同じ程度」は女性の20歳代以下で74.6%、男性の20歳代以下で72.1%と、年齢が若いほど高くなっている。

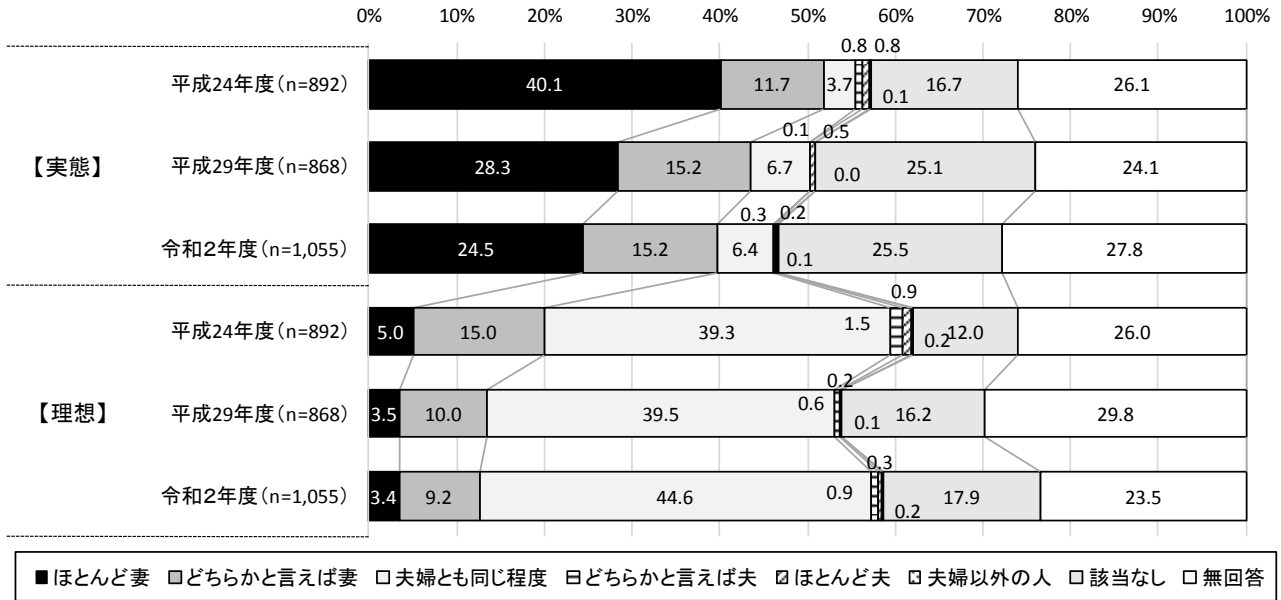
図表 4-25 ⑥子どもの学校行事等への参加（性別、性・年代別）

		(件、%)											
		回答数 (n)	妻が行う	ほとんど妻		どちらか い え ば 妻	夫婦とも 同じ	夫 が 行 う	どちらか い え ば 夫		夫 婦 以 外 の 人	該 当 な し	無 回 答
				ほとんど妻	い え ば 妻				い え ば 夫	ほ と ん ど 夫			
実態	全体	1,055	39.7	24.5	15.2	6.4	0.5	0.3	0.2	0.1	25.5	27.8	
	計	401	34.4	16.2	18.2	9.2	1.0	0.5	0.5	0.2	27.2	27.9	
	男性	20歳代以下	43	4.7	4.7	-	4.7	-	-	-	-	14.0	76.7
		30歳代	51	37.3	15.7	21.6	13.7	2.0	-	2.0	-	21.6	25.5
		40歳代	77	54.6	24.7	29.9	10.4	1.3	1.3	-	-	10.4	23.4
		50歳代	73	35.6	19.2	16.4	6.8	1.4	1.4	-	1.4	27.4	27.4
		60歳代	70	37.2	14.3	22.9	11.4	1.4	-	1.4	-	32.9	17.1
		70歳代以上	85	25.9	14.1	11.8	8.2	-	-	-	-	48.2	17.6
	女性	計	569	44.1	30.6	13.5	4.7	-	-	-	-	25.0	26.2
	20歳代以下	63	12.6	6.3	6.3	1.6	-	-	-	-	-	19.0	66.7
	30歳代	83	49.4	31.3	18.1	9.6	-	-	-	-	-	19.3	21.7
	40歳代	96	55.3	43.8	11.5	7.3	-	-	-	-	-	17.7	19.8
	50歳代	98	54.1	34.7	19.4	7.1	-	-	-	-	-	25.5	13.3
	60歳代	97	49.5	32.0	17.5	3.1	-	-	-	-	-	32.0	15.5
70歳代以上	127	35.5	27.6	7.9	0.8	-	-	-	-	-	31.5	32.3	
理想	全体	1,055	12.6	3.4	9.2	44.6	1.2	0.9	0.3	0.2	17.9	23.5	
	計	401	14.0	4.0	10.0	43.6	0.4	0.2	0.2	0.2	20.4	21.2	
	男性	20歳代以下	43	13.9	2.3	11.6	72.1	-	-	-	-	4.7	9.3
		30歳代	51	13.7	5.9	7.8	58.8	-	-	-	-	7.8	19.6
		40歳代	77	18.2	3.9	14.3	57.1	1.3	1.3	-	-	11.7	11.7
		50歳代	73	16.4	2.7	13.7	47.9	-	-	-	1.4	20.5	13.7
		60歳代	70	11.4	4.3	7.1	34.3	1.4	-	1.4	-	24.3	28.6
		70歳代以上	85	10.6	4.7	5.9	11.8	-	-	-	-	41.2	36.5
	女性	計	569	11.8	3.0	8.8	47.5	1.4	1.2	0.2	0.2	16.0	23.2
	20歳代以下	63	7.9	1.6	6.3	74.6	1.6	1.6	-	-	-	3.2	12.7
	30歳代	83	18.1	2.4	15.7	66.3	2.4	2.4	-	-	-	8.4	4.8
	40歳代	96	17.7	4.2	13.5	59.4	1.0	-	1.0	-	-	11.5	10.4
	50歳代	98	6.1	1.0	5.1	49.0	1.0	1.0	-	1.0	26.5	16.3	
	60歳代	97	11.3	3.1	8.2	38.1	2.1	2.1	-	-	20.6	27.8	
70歳代以上	127	10.2	4.7	5.5	20.5	0.8	0.8	-	-	18.9	49.6		

【経年比較】

実態・理想とも、前々回調査（平成24年度）から『妻が行う』が減少傾向にある。また、理想において「夫婦ともに同じ程度」が増加傾向にある。

図表 4-26 ⑥子どもの学校行事等への参加（経年比較）

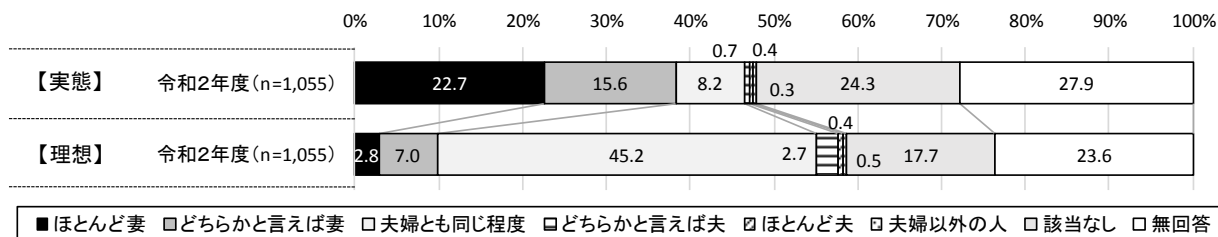


⑦ 子どもの送迎、勉強や遊びの世話

子どもの送迎、勉強や遊びの世話の実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」22.7%＋「どちらかといえば妻」15.6%）』（38.3%）が「夫婦とも同じ程度」（8.2%）を大幅に上回っている。また、『夫が行う（「ほとんど夫」0.4%＋「どちらかといえば夫」0.7%）』は1.1%となっている。

子どもの送迎、勉強や遊びの世話の理想では、「夫婦とも同じ程度」が45.2%と最も高くなっている。

図表 4-27 ⑦子どもの送迎、勉強や遊びの世話



※「子どもの送迎、勉強や遊びの世話」は今回調査（令和2年度）で追加

【性別、性・年代別】

実態における性別では、男女ともに『妻が行う』が最も高く、女性（43.0%）が男性（33.2%）を9.8ポイント上回っている。

理想における性別では、男女ともに「夫婦とも同じ程度」が最も高く、女性（49.4%）が男性（42.4%）を7.0ポイント上回っている。

実態における性・年代別では、『妻が行う』は女性の30歳代・40歳代で半数を超えている。

理想における性・年代別では、「夫婦とも同じ程度」は女性の20歳代以下で73.0%、30歳代で69.9%、男性の20歳代以下で69.8%と、おおむね年齢が若いほど高くなっている。

図表 4-28 ⑦子どもの送迎、勉強や遊びの世話（性別、性・年代別）

		(件、%)											
		回答数 (n)	妻が行う	どちらか		夫婦とも同じ	夫が行う	どちらか		夫婦以外の人	該当なし	無回答	
				ほとんど妻	いづらかと			いづらか夫	ほとんど夫				
実態	全体	1,055	38.3	22.7	15.6	8.2	1.1	0.7	0.4	0.3	24.3	27.9	
	計	401	33.2	15.2	18.0	11.2	2.2	1.5	0.7	0.5	25.2	27.7	
	男性	20歳代以下	43	7.0	4.7	2.3	7.0	-	-	-	-	9.3	76.7
		30歳代	51	47.1	21.6	25.5	11.8	2.0	2.0	-	-	13.7	25.5
		40歳代	77	45.5	24.7	20.8	16.9	3.9	2.6	1.3	1.3	9.1	23.4
		50歳代	73	37.0	15.1	21.9	8.2	-	-	-	1.4	26.0	27.4
		60歳代	70	41.4	14.3	27.1	7.1	2.9	-	2.9	-	31.4	17.1
		70歳代以上	85	17.6	9.4	8.2	14.1	2.4	2.4	-	-	49.4	16.5
	計	569	43.0	28.6	14.4	6.2	0.2	0.2	-	0.2	24.1	26.4	
	女性	20歳代以下	63	12.6	6.3	6.3	1.6	-	-	-	-	19.0	66.7
		30歳代	83	56.6	28.9	27.7	8.4	-	-	-	-	13.3	21.7
		40歳代	96	54.2	42.7	11.5	9.4	-	-	-	-	16.7	19.8
		50歳代	98	49.0	34.7	14.3	10.2	1.0	1.0	-	-	26.5	13.3
		60歳代	97	46.4	32.0	14.4	6.2	-	-	-	-	32.0	15.5
70歳代以上		127	33.8	22.0	11.8	0.8	-	-	-	0.8	31.5	33.1	
計	1,055	9.8	2.8	7	45.2	3.1	2.7	0.4	0.5	17.7	23.6		
理想	全体	1,055	9.8	2.8	7	45.2	3.1	2.7	0.4	0.5	17.7	23.6	
	計	401	12.9	3.7	9.2	42.4	2.7	2.2	0.5	0.7	19.7	21.4	
	男性	20歳代以下	43	9.3	2.3	7.0	69.8	7.0	7.0	-	-	4.7	9.3
		30歳代	51	19.6	5.9	13.7	52.9	-	-	-	2.0	5.9	19.6
		40歳代	77	20.8	5.2	15.6	50.6	3.9	2.6	1.3	1.3	11.7	11.7
		50歳代	73	13.7	2.7	11.0	53.4	-	-	-	1.4	17.8	13.7
		60歳代	70	14.3	5.7	8.6	30.0	2.8	1.4	1.4	-	24.3	28.6
		70歳代以上	85	2.4	1.2	1.2	16.5	2.4	2.4	-	-	41.2	37.6
	計	569	7.6	2.3	5.3	49.4	3.4	3.2	0.2	0.4	16.0	23.4	
	女性	20歳代以下	63	7.9	1.6	6.3	73.0	3.2	3.2	-	-	3.2	12.7
		30歳代	83	9.6	3.6	6.0	69.9	7.2	7.2	-	-	8.4	4.8
		40歳代	96	5.2	2.1	3.1	68.8	3.1	2.1	1.0	1.0	11.5	10.4
		50歳代	98	3.1	-	3.1	50.0	2.0	2.0	-	1.0	27.6	16.3
		60歳代	97	8.3	3.1	5.2	39.2	4.1	4.1	-	-	19.6	28.9
70歳代以上		127	11.0	3.1	7.9	18.9	1.6	1.6	-	-	18.9	49.6	

⑧ 介護や看護を要する家族の世話

介護や看護を要する家族の世話の実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」14.9%＋「どちらかといえば妻」10.0%）』（24.9%）が「夫婦とも同じ程度」（6.7%）を上回っている。また、『夫が行う（「ほとんど夫」0.9%＋「どちらかといえば夫」1.2%）』は2.1%となっている。

介護や看護を要する家族の世話の理想では、「夫婦とも同じ程度」が43.7%と最も高くなっている。

【性別、性・年代別】

実態における性別では、『妻が行う』は女性（29.3%）が男性（17.2%）を12.1ポイント上回っている。

理想における性別では、男女ともに「夫婦とも同じ程度」が最も高く、女性（47.6%）が男性（41.4%）を6.2ポイント上回っている。

実態における性・年代別では、『妻が行う』は女性の50歳代・60歳代で40%台と高くなっている。

理想における性・年代別では、「夫婦とも同じ程度」は女性の20歳代以下で68.3%、男性の20歳代以下で55.8%と、おおむね年齢が若いほど高くなっている。

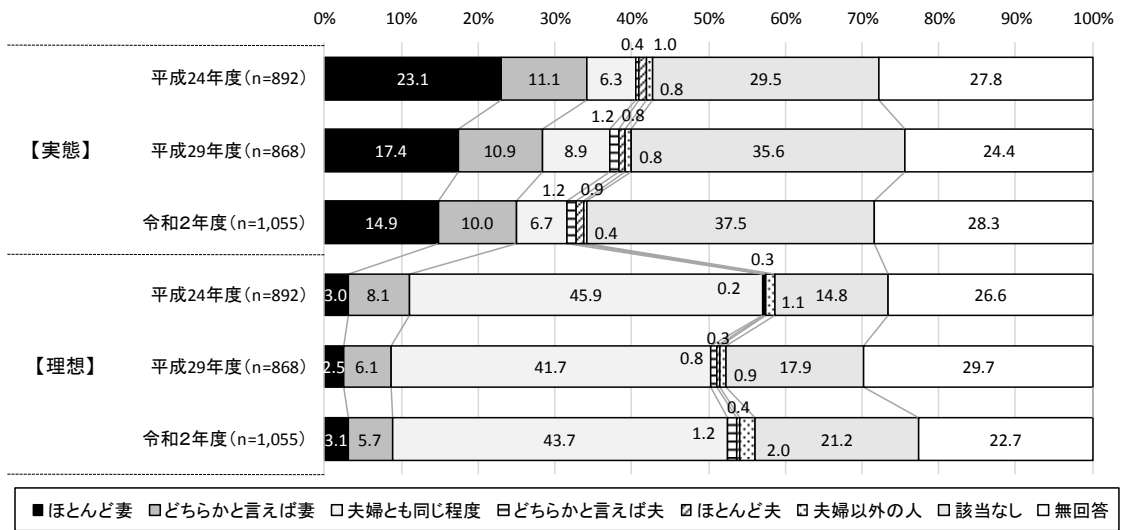
図表 4-29 ⑧介護や看護を要する家族の世話（性別、性・年代別）

		(件、%)											
		回答数 (n)	妻が行う	どちらか		夫婦とも 同じ程度	夫が行う	どちらか		夫婦以外 の人	該当なし	無回答	
				ほとんど妻	とどちらか			い	ほとんど夫				
実態	全体	1,055	24.9	14.9	10.0	6.7	2.1	1.2	0.9	0.4	37.5	28.3	
	計	401	17.2	7.0	10.2	8.7	3.9	1.7	2.2	0.5	41.6	27.9	
	男性	20歳代以下	43	-	-	-	4.7	-	-	-	-	18.6	76.7
		30歳代	51	2.0	2.0	-	3.9	-	-	-	-	66.7	27.5
		40歳代	77	16.9	5.2	11.7	9.1	1.3	1.3	-	-	49.4	23.4
		50歳代	73	23.3	9.6	13.7	4.1	5.4	2.7	2.7	1.4	37.0	28.8
		60歳代	70	32.9	14.3	18.6	14.3	7.2	2.9	4.3	-	30.0	15.7
		70歳代以上	85	17.7	7.1	10.6	11.8	7.1	2.4	4.7	1.2	45.9	16.5
	女性	計	569	29.3	20.0	9.3	5.8	1.1	0.9	0.2	0.4	36.0	27.4
	20歳代以下	63	4.8	3.2	1.6	1.6	-	-	-	-	-	27.0	66.7
	30歳代	83	21.7	14.5	7.2	2.4	-	-	-	-	-	51.8	24.1
	40歳代	96	26.0	20.8	5.2	9.4	-	-	-	-	-	43.8	20.8
	50歳代	98	43.9	29.6	14.3	9.2	1.0	1.0	-	-	-	32.7	13.3
	60歳代	97	41.2	24.7	16.5	6.2	3.1	2.1	1.0	-	-	33.0	16.5
70歳代以上	127	27.6	20.5	7.1	4.7	1.6	1.6	-	0.8	-	30.7	34.6	
理想	全体	1,055	8.8	3.1	5.7	43.7	1.6	1.2	0.4	2.0	21.2	22.7	
	計	401	8.5	3.0	5.5	41.4	2.0	1.5	0.5	2.7	24.4	20.9	
	男性	20歳代以下	43	11.6	2.3	9.3	55.8	7.0	7.0	-	7.0	9.3	9.3
		30歳代	51	2.0	2.0	-	51.0	-	-	-	2.0	25.5	19.6
		40歳代	77	10.4	2.6	7.8	45.5	3.9	2.6	1.3	3.9	24.7	11.7
		50歳代	73	12.3	2.7	9.6	50.7	-	-	-	1.4	21.9	13.7
		60歳代	70	10.0	4.3	5.7	40.0	2.8	1.4	1.4	-	21.4	25.7
		70歳代以上	85	4.7	3.5	1.2	18.8	-	-	-	2.4	36.5	37.6
	女性	計	569	8.1	3.0	5.1	47.6	1.3	1.1	0.2	1.8	18.8	22.5
	20歳代以下	63	6.4	1.6	4.8	68.3	1.6	1.6	-	3.2	7.9	12.7	
	30歳代	83	3.6	1.2	2.4	54.2	3.6	3.6	-	2.4	30.1	6.0	
	40歳代	96	6.2	3.1	3.1	53.1	1.0	1.0	-	3.1	25.0	11.5	
	50歳代	98	6.2	3.1	3.1	55.1	1.0	-	1.0	1.0	20.4	16.3	
	60歳代	97	8.3	3.1	5.2	47.4	1.0	1.0	-	-	15.5	27.8	
70歳代以上	127	14.9	4.7	10.2	25.2	-	-	-	1.6	13.4	44.9		

【経年比較】

実態において、前々回調査（平成24年度）から『妻が行う』が減少傾向にある。

図表 4-30 ⑧介護や看護を要する家族の世話（経年比較）



⑨ 自治会や地域活動への参加

自治会や地域活動への参加の実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」17.8%＋「どちらかといえば妻」11.8%）』が29.6%、『夫が行う（「ほとんど夫」8.5%＋「どちらかといえば夫」8.8%）』が17.3%と、差（12.3ポイント）が比較的小さい項目となっている。また、「夫婦とも同じ程度」は13.3%となっている。

自治会や地域活動への参加の理想では、「夫婦とも同じ程度」が44.5%と最も高くなっている。

【性別、性・年代別】

実態における性別では、男性は『夫が行う』（23.2%）が最も高く、女性は『妻が行う』（33.3%）が最も高くなっている。

理想における性別では、男女ともに「夫婦とも同じ程度」が最も高く、男性（44.4%）と女性（46.0%）が同水準となっている。

実態における性・年代別では、『妻が行う』は女性の60歳代で47.4%と高く、『夫が行う』は男性の70歳代以上で45.9%と高くなっている。

理想における性・年代別では、男女ともにすべての年代で「夫婦とも同じ程度」が最も高く、男性の30歳代以下・50歳代と女性の50歳代以下で半数を超えている。

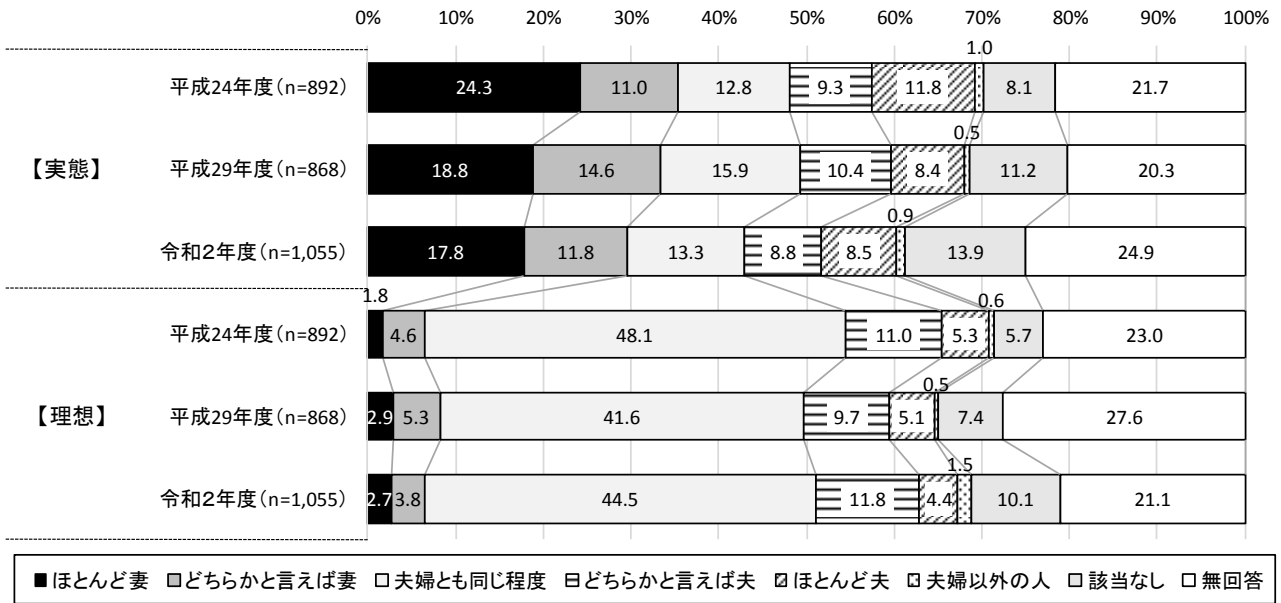
図表 4-31 ⑨自治会や地域活動への参加（性別、性・年代別）

		(件、%)											
		回答数 (n)	妻が行う	どちらか		夫婦とも同じ	夫が行う	どちらか		夫婦以外の人	該当なし	無回答	
				ほとんど妻	えら			えら	ほとんど夫				
実態	全体	1,055	29.6	17.8	11.8	13.3	17.3	8.8	8.5	0.9	13.9	24.9	
	計	401	22.7	9.0	13.7	14.2	23.2	10.2	13.0	0.7	13.2	25.9	
	男性	20歳代以下	43	2.3	-	2.3	4.7	2.3	-	2.3	-	14.0	76.7
		30歳代	51	11.8	5.9	5.9	11.8	13.7	5.9	7.8	2.0	35.3	25.5
		40歳代	77	31.2	16.9	14.3	22.1	13.0	5.2	7.8	-	10.4	23.4
		50歳代	73	30.1	8.2	21.9	13.7	16.4	8.2	8.2	1.4	11.0	27.4
		60歳代	70	31.5	12.9	18.6	11.4	32.8	21.4	11.4	1.4	8.6	14.3
		70歳代以上	85	18.8	5.9	12.9	16.5	45.9	14.1	31.8	-	8.2	10.6
		計	569	33.3	22.8	10.5	13.4	13.3	7.9	5.4	0.9	15.3	23.7
	女性	20歳代以下	63	3.2	-	3.2	1.6	-	-	-	-	28.6	66.7
		30歳代	83	30.1	21.7	8.4	10.8	10.8	4.8	6.0	1.2	24.1	22.9
		40歳代	96	36.5	27.1	9.4	17.7	8.4	4.2	4.2	1.0	16.7	19.8
		50歳代	98	39.8	28.6	11.2	19.4	15.3	9.2	6.1	1.0	12.2	12.2
		60歳代	97	47.4	25.8	21.6	14.4	14.4	10.3	4.1	1.0	8.2	14.4
70歳代以上		127	32.3	25.2	7.1	11.8	22.0	12.6	9.4	0.8	10.2	22.8	
計		1,055	6.5	2.7	3.8	44.5	16.2	11.8	4.4	1.5	10.1	21.1	
理想	全体	1,055	6.5	2.7	3.8	44.5	16.2	11.8	4.4	1.5	10.1	21.1	
	計	401	8.7	2.5	6.2	44.4	13.4	8.2	5.2	2.7	10.7	20.0	
	男性	20歳代以下	43	7.0	2.3	4.7	62.8	4.7	4.7	-	2.3	14.0	9.3
		30歳代	51	3.9	3.9	-	51.0	7.9	5.9	2.0	3.9	13.7	19.6
		40歳代	77	15.6	5.2	10.4	45.5	7.8	2.6	5.2	7.8	11.7	11.7
		50歳代	73	12.3	2.7	9.6	52.1	10.9	6.8	4.1	1.4	9.6	13.7
		60歳代	70	8.6	-	8.6	32.9	24.3	18.6	5.7	1.4	7.1	25.7
		70歳代以上	85	3.6	1.2	2.4	32.9	20.0	9.4	10.6	-	10.6	32.9
		計	569	4.4	2.3	2.1	46.0	18.1	14.4	3.7	0.9	9.3	21.3
	女性	20歳代以下	63	3.2	1.6	1.6	58.7	12.7	12.7	-	-	12.7	12.7
		30歳代	83	3.6	3.6	-	56.6	20.5	15.7	4.8	1.2	13.3	4.8
		40歳代	96	1.0	-	1.0	51.0	21.9	18.8	3.1	3.1	12.5	10.4
		50歳代	98	2.0	1.0	1.0	55.1	16.3	12.2	4.1	1.0	10.2	15.3
		60歳代	97	3.1	2.1	1.0	45.4	19.6	16.5	3.1	-	4.1	27.8
70歳代以上		127	11.0	4.7	6.3	23.6	16.5	11.0	5.5	-	6.3	42.5	

【経年比較】

実態において、前々回調査（平成24年度）から『妻が行う』が減少傾向にある。

図表4-32 ⑨自治会や地域活動への参加（経年比較）



⑩ 自治会や地域活動の役員、責任者

自治会や地域活動の役員、責任者の実態では、『妻が行う（「ほとんど妻」15.6%＋「どちらかといえば妻」8.5%）』が24.1%、『夫が行う（「ほとんど夫」10.6%＋「どちらかといえば夫」7.9%）』が18.5%と、差（5.6ポイント）が最も小さい項目となっている。また、「夫婦とも同じ程度」は7.2%となっている。

自治会や地域活動の役員、責任者の理想では、「夫婦とも同じ程度」が36.5%と最も高くなっている。また、『夫が行う』（21.1%）が『妻が行う』（5.7%）を上回っている。

【性別、性・年代別】

実態における性別では、男性は『夫が行う』（21.9%）が最も高く、女性は『妻が行う』（26.5%）が最も高くなっている。

理想における性別では、男女ともに「夫婦とも同じ程度」が最も高く、男性（37.7%）と女性（36.7%）が同水準となっている。

実態における性・年代別では、『夫が行う』は男性の60歳代以上で30%台と高く、『妻が行う』は女性の40歳代から60歳代で30%台と高くなっている。

理想における性・年代別では、男女ともに60歳代以下で「夫婦とも同じ程度」が最も高くなっている。

図表4-33 ⑩自治会や地域活動の役員、責任者（性別、性・年代別）

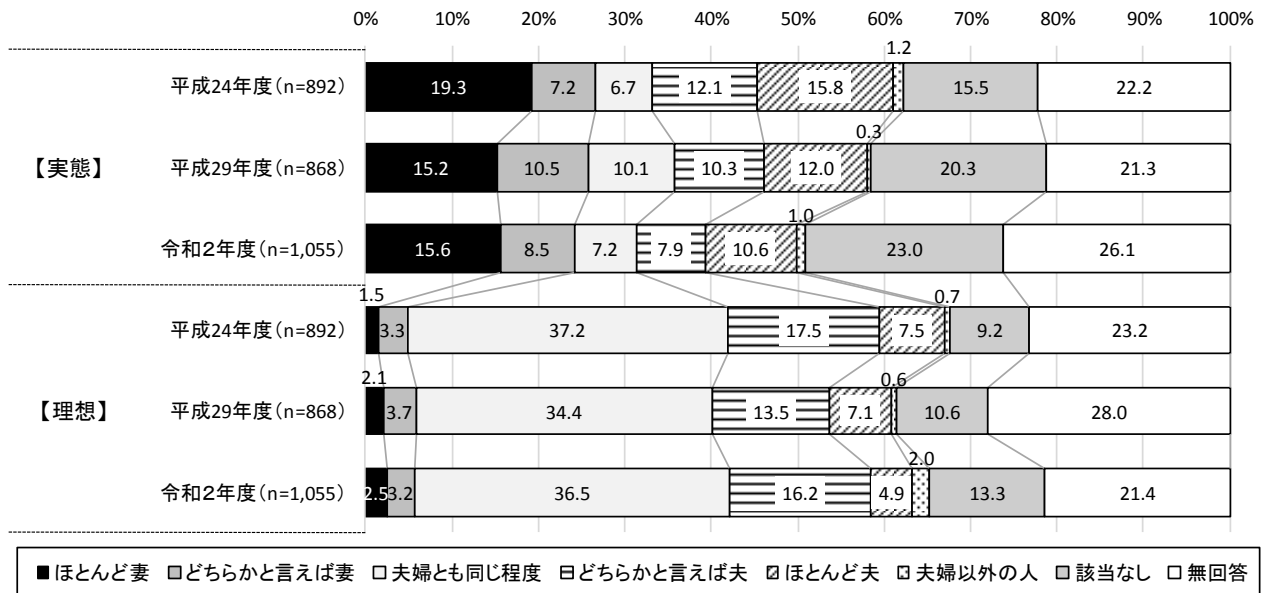
(件、%)

	回答数 (n)	妻が行う	ほとんど妻	どちらかといえば妻	夫婦とも同じ程度	夫が行う	どちらかといえば夫	ほとんど夫	夫婦以外の 人	該当なし	無回答		
実態	全体	1,055	24.1	15.6	8.5	7.2	18.5	7.9	10.6	1.0	23.0	26.1	
	計	401	19.5	10.0	9.5	7.2	21.9	7.7	14.2	0.7	24.2	26.4	
	男性	20歳代以下	43	-	-	-	4.7	-	-	-	-	18.6	76.7
		30歳代	51	9.8	5.9	3.9	2.0	13.7	5.9	7.8	2.0	47.1	25.5
		40歳代	77	29.9	20.8	9.1	11.7	14.3	5.2	9.1	-	20.8	23.4
		50歳代	73	21.9	9.6	12.3	8.2	19.2	11.0	8.2	1.4	21.9	27.4
		60歳代	70	27.1	11.4	15.7	2.9	34.3	10.0	24.3	1.4	18.6	15.7
		70歳代以上	85	17.7	7.1	10.6	10.6	36.5	9.4	27.1	-	23.5	11.8
	計	569	26.5	18.6	7.9	7.2	16.7	7.7	9.0	1.2	23.4	25.0	
	女性	20歳代以下	63	1.6	1.6	-	1.6	-	-	-	-	30.2	66.7
		30歳代	83	19.3	15.7	3.6	3.6	10.8	3.6	7.2	1.2	41.0	24.1
		40歳代	96	34.4	24.0	10.4	10.4	12.5	5.2	7.3	1.0	21.9	19.8
		50歳代	98	33.7	23.5	10.2	12.2	21.4	7.1	14.3	1.0	19.4	12.2
		60歳代	97	36.1	23.7	12.4	7.2	23.7	13.4	10.3	3.1	15.5	14.4
70歳代以上		127	25.2	18.1	7.1	5.5	21.2	10.2	11.0	0.8	19.7	27.6	
理想	全体	1,055	5.7	2.5	3.2	36.5	21.1	16.2	4.9	2.0	13.3	21.4	
	計	401	8.2	2.5	5.7	37.7	16.7	11.7	5.0	3.2	14.2	20.0	
	男性	20歳代以下	43	7.0	2.3	4.7	55.8	9.3	9.3	-	4.7	14.0	9.3
		30歳代	51	3.9	3.9	-	49.0	9.8	7.8	2.0	3.9	13.7	19.6
		40歳代	77	15.6	5.2	10.4	40.3	9.1	5.2	3.9	9.1	14.3	11.7
		50歳代	73	10.9	2.7	8.2	41.1	19.2	15.1	4.1	1.4	13.7	13.7
		60歳代	70	7.1	-	7.1	28.6	24.3	15.7	8.6	1.4	12.9	25.7
		70歳代以上	85	3.6	1.2	2.4	23.5	23.5	15.3	8.2	-	16.5	32.9
	計	569	3.3	1.9	1.4	36.7	24.6	19.7	4.9	1.4	12.7	21.3	
	女性	20歳代以下	63	4.8	1.6	3.2	49.2	20.6	19.0	1.6	-	12.7	12.7
		30歳代	83	2.4	2.4	-	43.4	25.3	20.5	4.8	2.4	21.7	4.8
		40歳代	96	1.0	-	1.0	40.6	29.2	22.9	6.3	3.1	15.6	10.4
		50歳代	98	2.0	2.0	-	45.9	20.4	14.3	6.1	2.0	14.3	15.3
		60歳代	97	2.0	1.0	1.0	34.0	29.9	25.8	4.1	-	6.2	27.8
70歳代以上		127	7.0	3.9	3.1	19.7	21.2	15.7	5.5	0.8	8.7	42.5	

【経年比較】

実態において、前々回調査（平成24年度）から『妻が行う』と『夫が行う』はともに減少傾向にあり、「該当なし」が増加傾向にある。

図表4-34 ⑩自治会や地域活動の役員、責任者（経年比較）



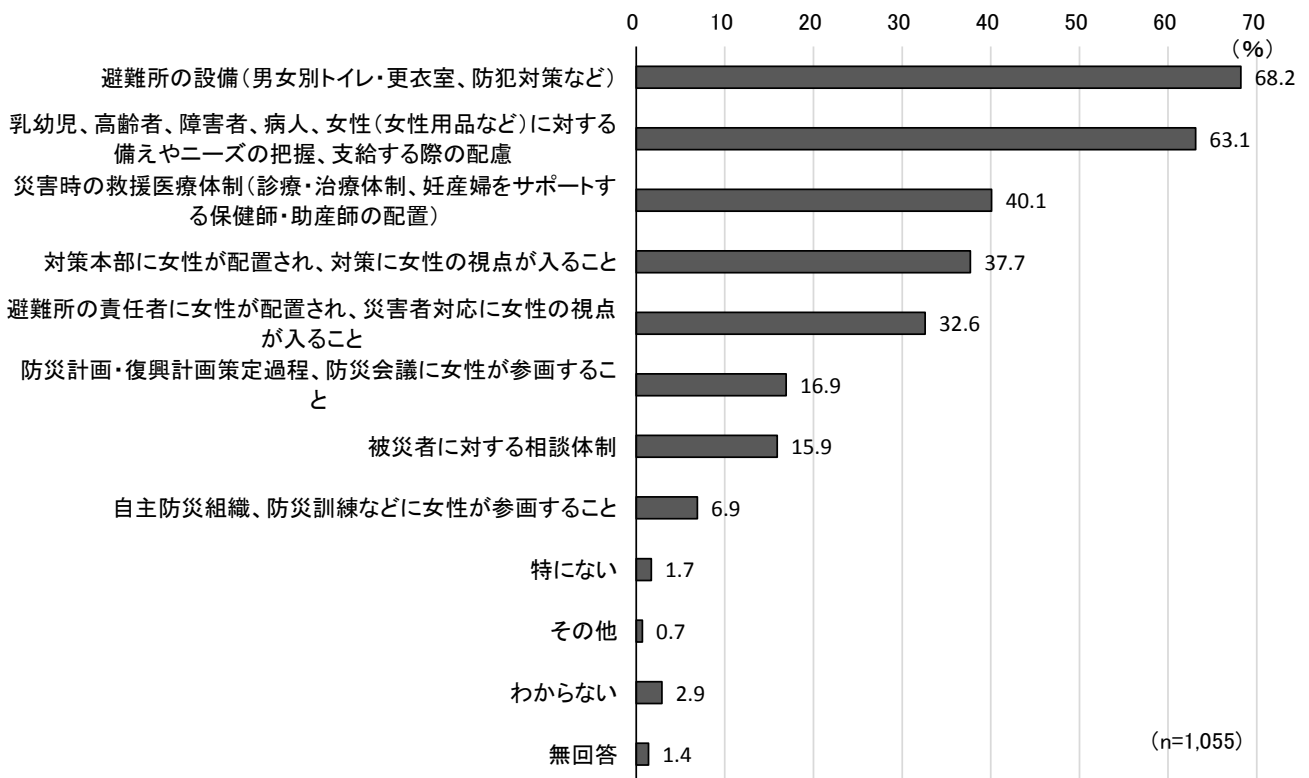
5. 防災・災害復興対策について

(1) 女性の視点での防災・災害復興対策

問8. あなたは、防災・災害復興対策で女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。次の中からあてはまる数字を3つまで選んで○をつけてください。

女性の視点に配慮した防災・災害復興対策については、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室・防犯対策など）」が68.2%と最も高く、次いで「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が63.1%、「災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」が40.1%となっている。

図表5-1 女性の視点で取り組む防災・災害復興対策



【性別、性・年代別】

全体の上位3項目を性別で見ると、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策など）」は、男性（69.8%）と女性（68.7%）が同水準となっている。「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」は、女性（68.2%）が男性（56.6%）を11.6ポイント上回っている。「災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」は、男性（40.9%）と女性（39.9%）が同水準となっている。

性・年代別では、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策など）」は男性の30歳代で78.4%、40歳代で77.9%、女性の40歳代で77.1%と高くなっている。「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」は、女性の60歳代以下で約70%と高くなっている。「災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」は、男性の20歳代以下で51.2%と高くなっている。

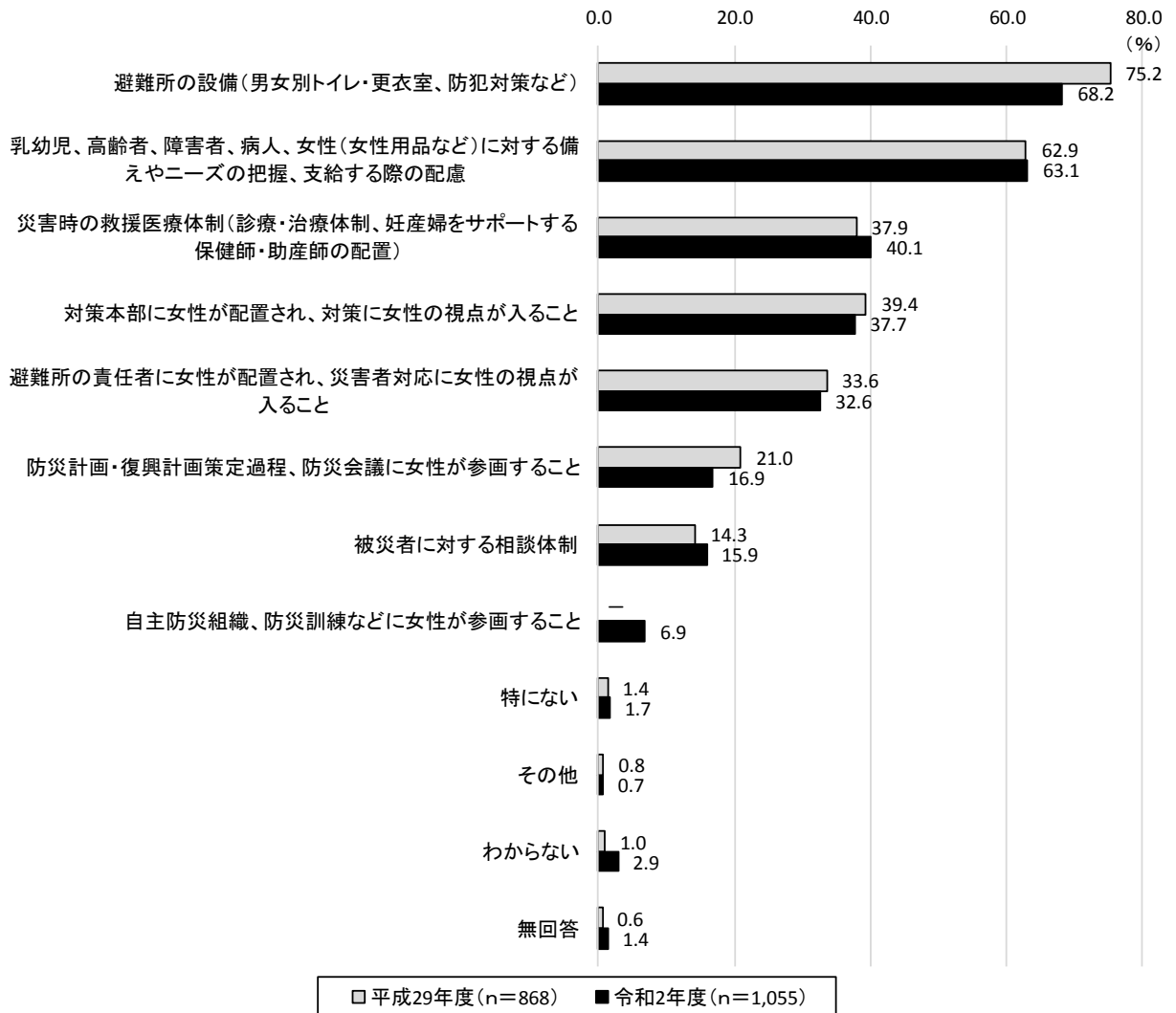
図表 5-2 女性の視点で取り組む防災・災害復興対策（性別、性・年代別）

		(件、%)												
	回答数 (n)	避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策など）	乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）	対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること	避難所の責任者に女性が配置され、災害者対応に女性の視点が入ること	防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること	被災者に対する相談体制	自主防災組織、防災訓練などに女性が参画すること	特になし	その他	わからない	無回答	
全体	1,055	68.2	63.1	40.1	37.7	32.6	16.9	15.9	6.9	1.7	0.7	2.9	1.4	
男性	計	401	69.8	56.6	40.9	39.9	30.2	18.7	14.2	7.7	1.5	1.2	2.0	2.0
	20歳代以下	43	67.4	62.8	51.2	41.9	34.9	9.3	4.7	-	4.7	2.3	-	2.3
	30歳代	51	78.4	56.9	37.3	31.4	31.4	15.7	13.7	13.7	2.0	2.0	3.9	-
	40歳代	77	77.9	62.3	28.6	45.5	28.6	11.7	13.0	6.5	1.3	1.3	1.3	1.3
	50歳代	73	65.8	54.8	41.1	38.4	37.0	21.9	19.2	6.8	-	-	1.4	-
	60歳代	70	70.0	51.4	47.1	41.4	28.6	27.1	11.4	7.1	1.4	-	4.3	1.4
	70歳代以上	85	62.4	54.1	43.5	38.8	24.7	22.4	18.8	9.4	1.2	2.4	1.2	5.9
	計	569	68.7	68.2	39.9	36.2	35.9	15.1	16.5	6.0	1.2	0.2	2.8	0.4
女性	20歳代以下	63	58.7	76.2	44.4	34.9	31.7	11.1	9.5	6.3	3.2	-	7.9	-
	30歳代	83	74.7	72.3	48.2	39.8	37.3	14.5	7.2	7.2	1.2	-	2.4	-
	40歳代	96	77.1	69.8	28.1	36.5	39.6	18.8	7.3	5.2	1.0	-	2.1	1.0
	50歳代	98	67.3	69.4	32.7	39.8	44.9	14.3	16.3	1.0	-	-	2.0	-
	60歳代	97	69.1	75.3	45.4	35.1	29.9	12.4	21.6	3.1	-	1.0	-	-
	70歳代以上	127	64.6	54.3	43.3	32.3	33.1	16.5	28.3	11.0	2.4	-	3.1	0.8
	計	569	68.7	68.2	39.9	36.2	35.9	15.1	16.5	6.0	1.2	0.2	2.8	0.4

【経年比較】

前回調査（平成29年度）と比較すると、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策など）」が7.0ポイント、「防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること」が4.1ポイント減少している。

図表 5-3 女性の視点で取り組む防災・災害復興対策（経年比較）



※「自主防災組織・防災訓練などに女性が参画すること」は今回調査（令和2年度）で追加

6. 女性の就業のあり方や現状について

(1) 女性の就業のあり方

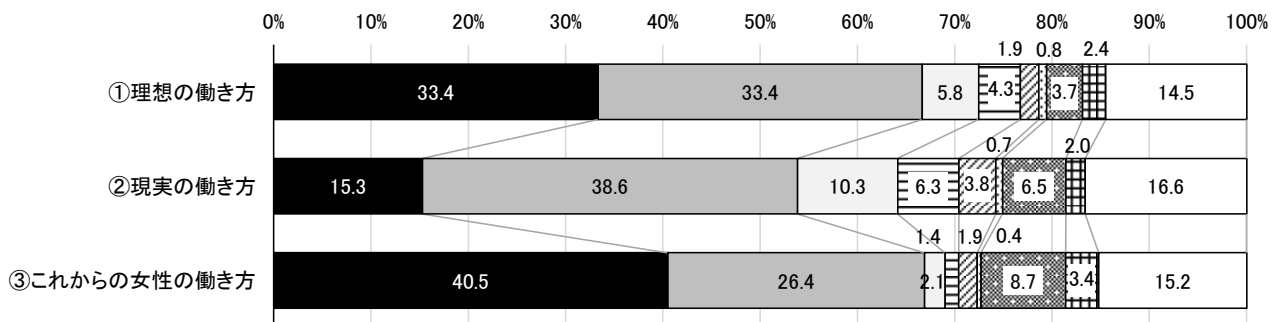
問9. 女性（男性の場合は「妻・パートナー」）の働き方として、①理想の働き方、②現実の働き方、③これからの女性の働き方について、A～Hの就業形態であればまる数字を次の中から1つずつ選んで○をつけてください。

女性の理想の働き方については、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」と「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」がともに33.4%で最も高くなっている。

女性の現実の働き方については、「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」が38.6%と最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」が15.3%となっている。

これからの女性の働き方については、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」が40.5%と最も高く、次いで「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」が26.4%となっている。

図表6-1 女性の働き方について（全体）



- 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける
- 妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く
- 妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は家事や子育てに専念する
- 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する
- 結婚後または子育てが落ち着いてから、初めて仕事を持つ
- ずっと仕事を持たない
- わからない
- その他
- 無回答

(n=1,055)

働き方	就業形態	結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける	妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く	妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は家事や子育てに専念する	結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する	結婚後または子育てが落ち着いてから、初めて仕事を持つ	ずっと仕事を持たない	わからない	その他	無回答	サンプル数 (n)
		①理想の働き方	回答数 (件)	352	352	61	45	20	8	39	25
	構成比 (%)	33.4	33.4	5.8	4.3	1.9	0.8	3.7	2.4	14.5	100.0
②現実の働き方	回答数 (件)	161	407	109	66	40	7	69	21	175	1,055
	構成比 (%)	15.3	38.6	10.3	6.3	3.8	0.7	6.5	2.0	16.6	100.0
③これからの女性の働き方	回答数 (件)	427	279	22	15	20	4	92	36	160	1,055
	構成比 (%)	40.5	26.4	2.1	1.4	1.9	0.4	8.7	3.4	15.2	100.0

【性別、性・年代別】

女性の理想の働き方における性別では、男性は「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」が34.4%と最も高く、女性は「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」が36.0%と最も高くなっている。

女性の現実の働き方における性別では、男女ともに「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」が最も高くなっている。

これからの女性の働き方における性別では、男女ともに「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」が最も高く、女性（45.5%）が男性（34.7%）を10.8ポイント上回っている。

女性の理想の働き方における性・年代別では、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」は女性の20歳代以下・40歳代・50歳代で40%台と高くなっている。

女性の現実の働き方における性・年代別では、「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」は、男性の50歳代と女性の40歳代で半数を超えている。

これからの女性の働き方における性・年代別では、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」は女性の40歳代・60歳代で半数を超えている。「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」はどの年代も男性の方が女性より高くなっており、特に男性20歳代以下は46.5%と高くなっている。

図表6-2 女性の働き方について（性別、性・年代別）

(件、%)

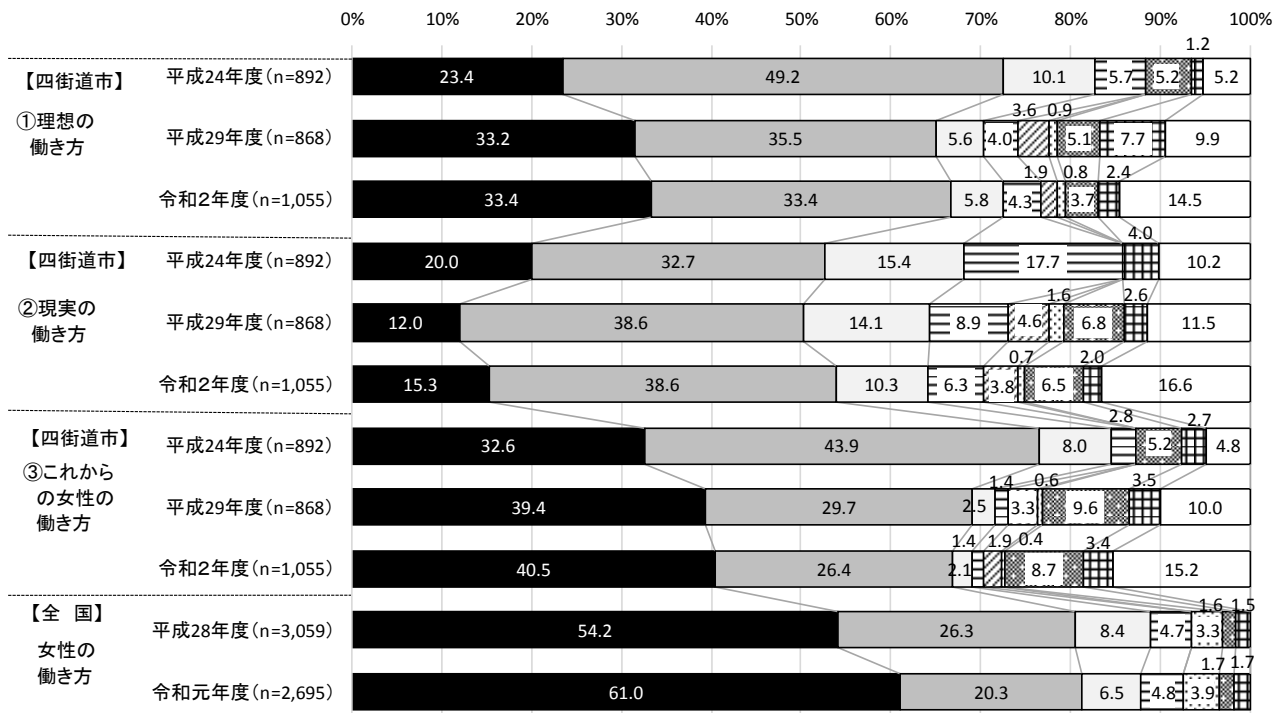
	回答数 (n)	結婚や仕事を 持ち続ける	結婚や出産を 辞め、子育て を続ける	妊娠・出産を機 に専念する	妊娠・出産を機 に専念する	妊娠・出産を機 に専念する	結婚するまでは 専念する	結婚後または初 めて仕事を	結婚後または初 めて仕事を	ずっと仕事を 持たない	わからない	その他	無回答
		ず	落	に	に	す	結	持	結	ず	わ	そ	無
理想の働き方	全体	1,055	33.4	33.4	5.8	4.3	1.9	0.8	3.7	2.4	14.5		
	計	401	31.9	34.4	5.5	3.7	2.0	1.2	4.5	3.7	13.0		
	20歳代以下	43	30.2	39.5	-	4.7	-	4.7	2.3	7.0	11.6		
	30歳代	51	27.5	39.2	3.9	2.0	-	2.0	5.9	11.8	7.8		
	40歳代	77	33.8	32.5	5.2	2.6	3.9	1.3	7.8	3.9	9.1		
	50歳代	73	38.4	32.9	8.2	5.5	4.1	-	2.7	2.7	5.5		
	60歳代	70	37.1	25.7	4.3	4.3	1.4	-	5.7	1.4	20.0		
	70歳代以上	85	24.7	38.8	8.2	3.5	1.2	1.2	1.2	-	21.2		
	計	569	36.0	33.6	6.0	4.7	1.6	0.5	2.6	1.8	13.2		
	20歳代以下	63	41.3	34.9	11.1	3.2	-	-	6.3	-	3.2		
	30歳代	83	36.1	39.8	9.6	6.0	-	-	-	3.6	4.8		
	40歳代	96	43.8	29.2	4.2	6.3	2.1	2.1	2.1	1.0	9.4		
	50歳代	98	44.9	31.6	2.0	6.1	1.0	-	3.1	2.0	9.2		
	60歳代	97	38.1	35.1	4.1	3.1	1.0	-	1.0	2.1	15.5		
70歳代以上	127	20.5	31.5	7.1	3.9	3.9	0.8	3.9	1.6	26.8			
現実の働き方	全体	1,055	15.3	38.6	10.3	6.3	3.8	0.7	6.5	2	16.6		
	計	401	11.2	39.9	14.2	7.2	3.5	1.0	6.5	2.2	14.2		
	20歳代以下	43	4.7	32.6	25.6	2.3	2.3	2.3	18.6	2.3	9.3		
	30歳代	51	23.5	45.1	11.8	-	-	-	5.9	5.9	7.8		
	40歳代	77	7.8	42.9	14.3	3.9	3.9	2.6	9.1	3.9	11.7		
	50歳代	73	9.6	50.7	16.4	6.8	-	1.4	2.7	2.7	9.6		
	60歳代	70	14.3	35.7	7.1	15.7	2.9	-	4.3	-	20.0		
	70歳代以上	85	9.4	31.8	14.1	10.6	9.4	-	2.4	-	22.4		
	計	569	18.6	40.4	7.7	6.0	3.0	0.5	6.3	1.8	15.6		
	20歳代以下	63	23.8	34.9	7.9	4.8	-	-	20.6	-	7.9		
	30歳代	83	25.3	48.2	13.3	1.2	-	-	6.0	-	6.0		
	40歳代	96	25.0	52.1	1.0	4.2	3.1	-	4.2	2.1	8.3		
	50歳代	98	18.4	45.9	12.2	7.1	1.0	1.0	1.0	-	13.3		
	60歳代	97	15.5	32.0	9.3	10.3	7.2	1.0	1.0	4.1	19.6		
70歳代以上	127	10.2	30.7	4.7	7.1	4.7	0.8	9.4	3.1	29.1			
これからの女性の働き方	全体	1,055	40.5	26.4	2.1	1.4	1.9	0.4	8.7	3.4	15.2		
	計	401	34.7	33.4	4.0	1.5	1.7	0.5	7.7	3.0	13.5		
	20歳代以下	43	11.6	46.5	2.3	-	4.7	2.3	18.6	4.7	9.3		
	30歳代	51	35.3	35.3	2.0	2.0	-	-	7.8	7.8	9.8		
	40歳代	77	32.5	37.7	1.3	1.3	1.3	1.3	10.4	2.6	11.7		
	50歳代	73	46.6	31.5	5.5	2.7	1.4	-	4.1	2.7	5.5		
	60歳代	70	41.4	27.1	2.9	-	1.4	-	2.9	2.9	21.4		
	70歳代以上	85	32.9	28.2	8.2	2.4	2.4	-	5.9	-	20.0		
	計	569	45.5	23.0	1.1	1.4	1.9	0.4	8.6	4.2	13.9		
	20歳代以下	63	42.9	20.6	3.2	3.2	-	-	19.0	4.8	6.3		
	30歳代	83	48.2	25.3	-	1.2	-	-	12.0	6.0	7.2		
	40歳代	96	54.2	22.9	2.1	-	-	-	8.3	4.2	8.3		
	50歳代	98	49.0	22.4	1.0	-	1.0	-	4.1	6.1	16.3		
	60歳代	97	54.6	18.6	-	1.0	2.1	-	6.2	4.1	13.4		
70歳代以上	127	28.3	26.8	0.8	3.1	6.3	1.6	7.1	1.6	24.4			

【経年比較】

女性の理想の働き方・これからの女性の働き方とも、前々回調査（平成24年度）から「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事をもち続ける」が増加傾向にあり、「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」が減少傾向にある。また、全国調査においても同様の傾向にある。

女性の現実の働き方では、前々回調査（平成24年度）から「妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は家事や子育てに専念する」と「結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する」が減少傾向にある。

図表 6-3 女性の働き方について（経年比較）



- 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事をもち続ける 【(エ)子供ができて、ずっと仕事を続ける方がよい】
 - 妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く 【(オ)子供ができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい】
 - 妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は家事や子育てに専念する 【(ウ)子供ができるまでは、職業をもつ方がよい】
 - 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する 【(イ)結婚するまでは職業をもつ方がよい】
 - ☑結婚後または子育てが落ち着いてから、初めて仕事を持つ
 - ずっと仕事を持たない 【(ア)女性は職業をもたない方がよい】
 - ☑わからない 【わからない】
 - その他 【その他】
 - 無回答
- 【 】内は全国調査の選択肢

※全国調査の設問は次のとおり

内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」『Q 4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。この中から1つだけお答えください。』

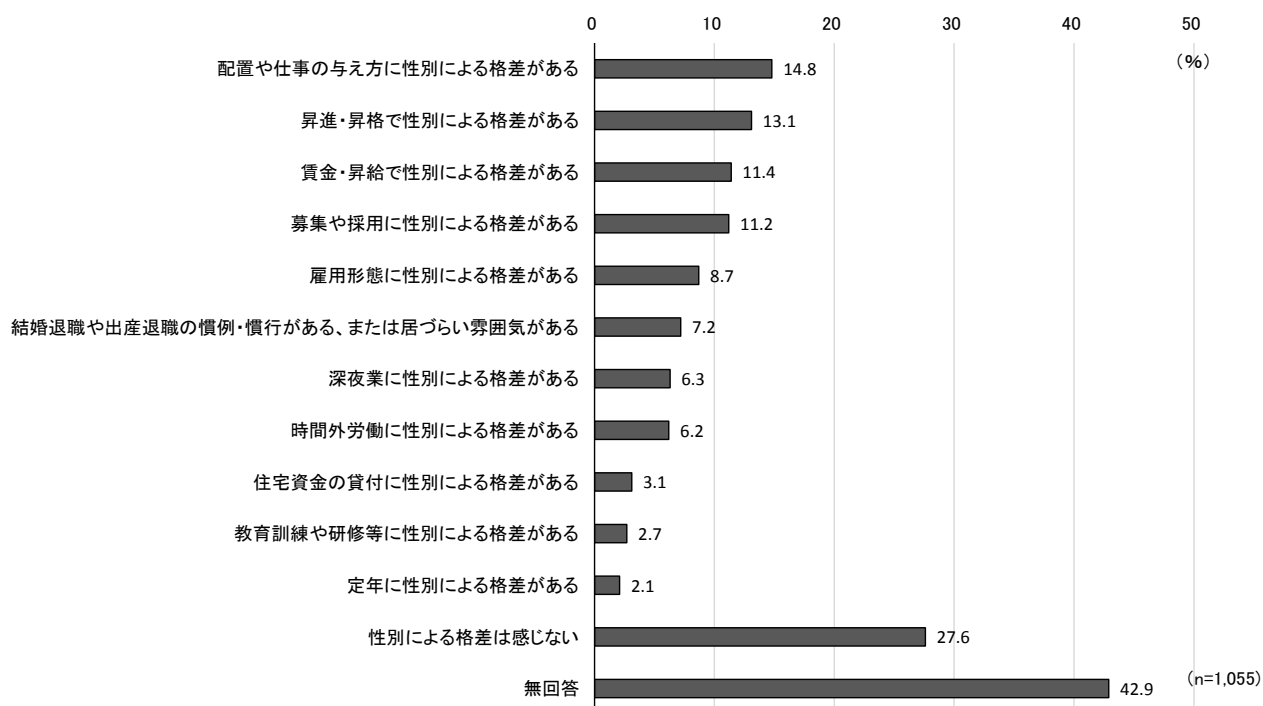
- (ア) 女性は職業をもたない方がよい
- (イ) 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- (ウ) 子供ができるまでは、職業をもつ方がよい
- (エ) 子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい
- (オ) 子供ができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない

(2) 職場における性別による格差

問10. 現在、仕事をされている方に伺います。（現在、仕事をされていない方は問11へお進みください。）職場で次のようなことがありますか。（あると感じますか。）次の中からあてはまる数字すべてに○をつけてください。

職場での性別による格差については、「性別による格差は感じない」が27.6%と最も高くなっている。一方、性別格差があるという項目のうちでは、「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」が14.8%と最も高く、次いで「昇進・昇格で性別による格差がある」が13.1%、「賃金・昇給で性別による格差がある」が11.4%となっている。

図表 6-4 職場での性別による格差（全体）



※無回答には仕事をしていない人を含む

【性別、性・年代別】

性別では、「性別による格差は感じない」は、男性（28.4%）と女性（28.5%）が同水準となっている。「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」は、男性（22.4%）が女性（10.2%）を12.2ポイント上回っている。「昇進・昇格で性別による格差がある」は、男性（16.0%）が女性（11.4%）を4.6ポイント上回っている。「賃金・昇給で性別による格差がある」は、男性（12.7%）と女性（10.9%）が同水準となっている。

性・年代別では、「性別による格差は感じない」は、女性の40歳代で45.8%と高くなっている。「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」は男性の30歳代・50歳代で30%台と高くなっている。「昇進・昇格で性別による格差がある」は、男性の50歳代で30%台と高くなっている。「賃金・昇給で性別による格差がある」は、男性の50歳代で27.4%と他の性・年代より高くなっている。

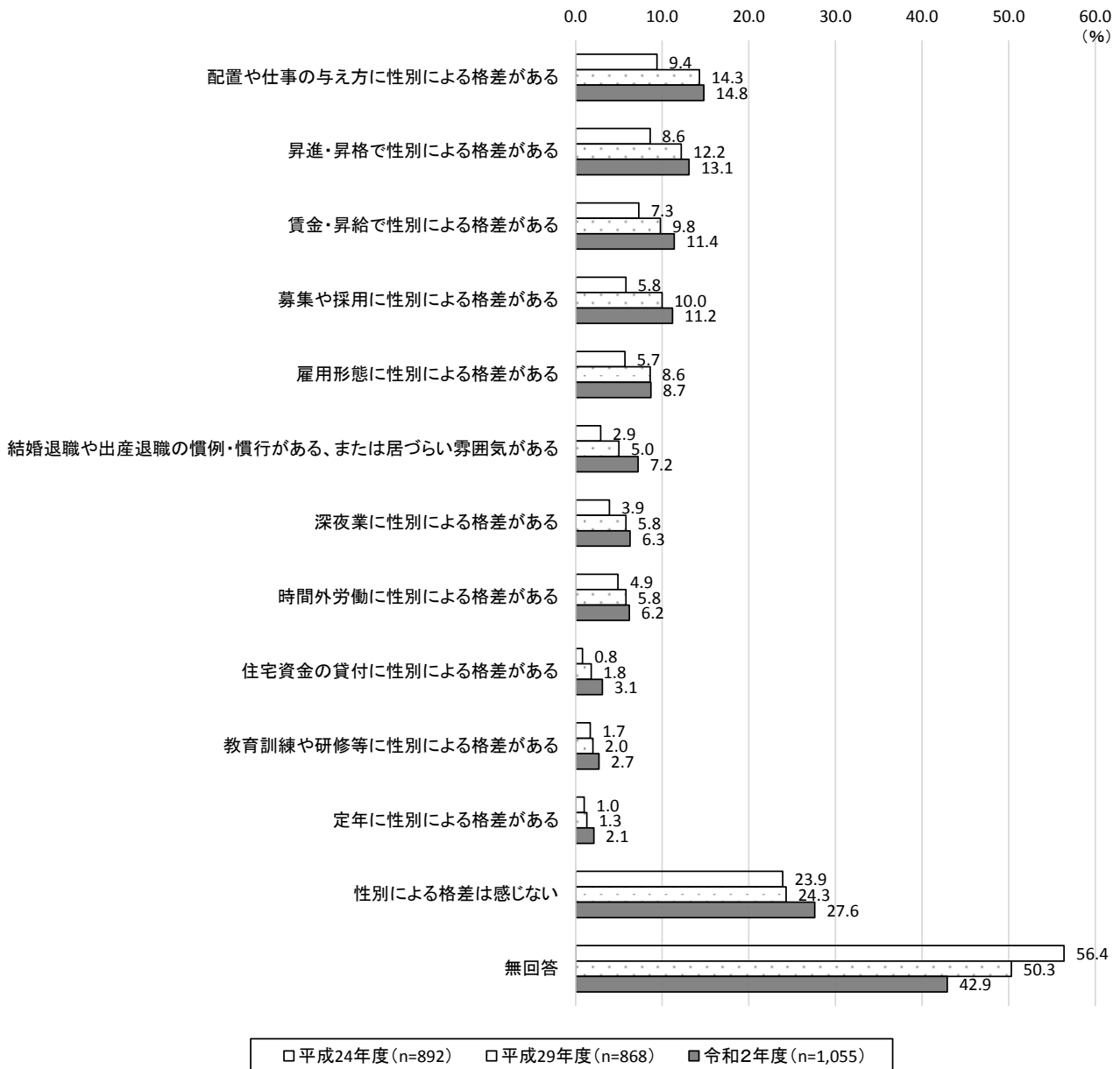
図表 6-5 職場での性別による格差（性別、性・年代別）

		(件、%)													
	回答数 (n)	配置や仕事の与え方に性別による格差がある	昇進・昇格で性別による格差がある	賃金・昇給で性別による格差がある	募集や採用に性別による格差がある	雇用形態に性別による格差がある	結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある	深夜業に性別による格差がある	時間外労働に性別による格差がある	住宅資金の貸付に性別による格差がある	教育訓練や研修等に性別による格差がある	定年に性別による格差がある	性別による格差は感じない	無回答	
全体	1,055	14.8	13.1	11.4	11.2	8.7	7.2	6.3	6.2	3.1	2.7	2.1	27.6	42.9	
男性	計	401	22.4	16.0	12.7	14.7	13.0	8.2	11.0	11.7	3.0	3.5	2.7	28.4	31.7
	20歳代以下	43	23.3	7.0	2.3	9.3	9.3	4.7	4.7	4.7	-	2.3	4.7	32.6	39.5
	30歳代	51	37.3	11.8	7.8	17.6	13.7	13.7	13.7	17.6	-	5.9	-	39.2	3.9
	40歳代	77	26.0	22.1	15.6	18.2	14.3	5.2	18.2	13.0	1.3	2.6	2.6	32.5	13.0
	50歳代	73	35.6	31.5	27.4	26.0	24.7	17.8	12.3	20.5	6.8	6.8	5.5	30.1	11.0
	60歳代	70	17.1	15.7	14.3	12.9	12.9	7.1	14.3	12.9	7.1	2.9	2.9	30.0	32.9
	70歳代以上	85	3.5	4.7	4.7	4.7	3.5	2.4	2.4	2.4	1.2	1.2	1.2	12.9	77.6
	計	569	10.2	11.4	10.9	9.0	6.0	6.0	3.3	2.8	3.2	2.3	1.6	28.5	48.7
女性	20歳代以下	63	17.5	14.3	9.5	12.7	4.8	7.9	3.2	3.2	1.6	3.2	1.6	38.1	30.2
	30歳代	83	9.6	9.6	8.4	9.6	3.6	8.4	2.4	2.4	-	2.4	1.2	30.1	43.4
	40歳代	96	16.7	19.8	19.8	12.5	8.3	6.3	4.2	4.2	5.2	2.1	4.2	45.8	18.8
	50歳代	98	12.2	20.4	14.3	12.2	10.2	9.2	5.1	4.1	8.2	3.1	2.0	38.8	29.6
	60歳代	97	8.2	7.2	10.3	7.2	7.2	4.1	4.1	3.1	2.1	4.1	1.0	23.7	62.9
	70歳代以上	127	2.4	1.6	3.9	3.1	2.4	2.4	1.6	0.8	1.6	-	-	5.5	87.4
	計	569	10.2	11.4	10.9	9.0	6.0	6.0	3.3	2.8	3.2	2.3	1.6	28.5	48.7

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から性別格差があるというすべての項目で増加傾向にある。また、「性別による格差は感じない」は、前々回調査（平成24年度）が23.9%、前回調査（平成29年度）が24.3%、本調査（令和2年度）が27.6%と増加傾向にある。

図表 6-6 職場での性別による格差（経年比較）



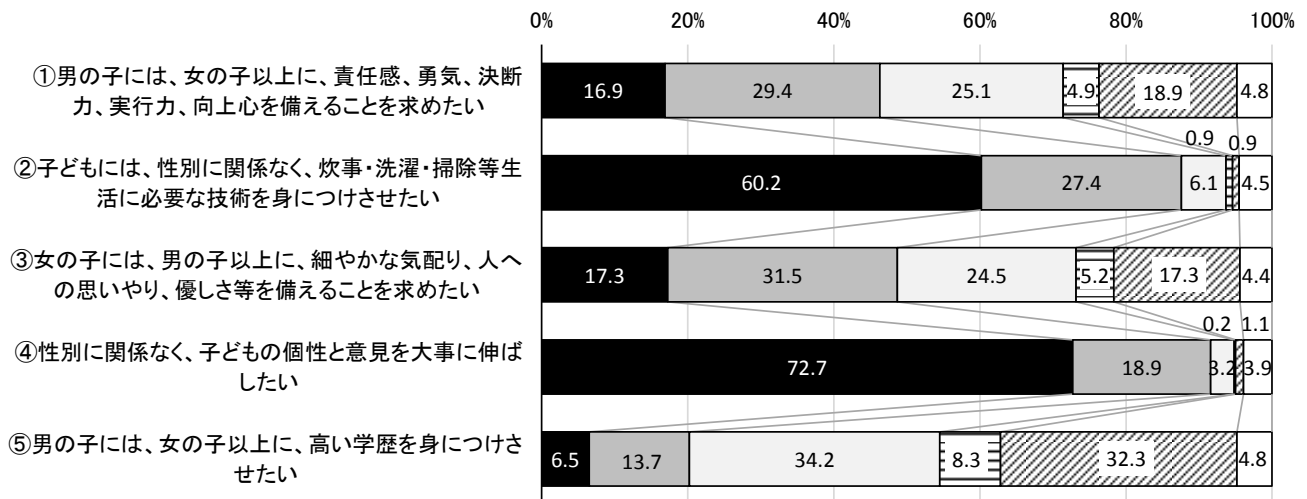
7. 子どもの性別による子育てのあり方について

(1) 子どもの性別と子育てのあり方

問11. 子どもの性別や子育てのあり方についてどう思いますか。次の①～⑤それぞれの項目について、あてはまる数字に1つつ〇をつけてください。

子どもの性別や子育てのあり方については、『思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）』は、「④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい」（91.6%）で最も高く、次いで「②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい」（87.6%）となっている。また、『思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）』は、「⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい」（40.6%）で最も高くなっている。

図表 7-1 子どもの性別による子育てのあり方について（全体）



■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらとも言えない □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

(n=1,055)

項目	近いもの	思う						無回答	サンプル数 (n)	
		思う	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらとも言えない	思わない	どちらかといえばそう思わない			
①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい	回答数 (件)	488	178	310	265	251	52	199	51	1,055
	構成比 (%)	46.3	16.9	29.4	25.1	23.8	4.9	18.9	4.8	100.0
②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい	回答数 (件)	924	635	289	64	20	10	10	47	1,055
	構成比 (%)	87.6	60.2	27.4	6.1	1.8	0.9	0.9	4.5	100.0
③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい	回答数 (件)	514	182	332	258	237	55	182	46	1,055
	構成比 (%)	48.8	17.3	31.5	24.5	22.5	5.2	17.3	4.4	100.0
④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい	回答数 (件)	966	767	199	34	14	2	12	41	1,055
	構成比 (%)	91.6	72.7	18.9	3.2	1.3	0.2	1.1	3.9	100.0
⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい	回答数 (件)	214	69	145	361	429	88	341	51	1,055
	構成比 (%)	20.2	6.5	13.7	34.2	40.6	8.3	32.3	4.8	100.0

- ① 男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい『思う（「そう思う」16.9%＋「どちらかといえばそう思う」29.4%）』（46.3%）が、『思わない（「そう思わない」18.9%＋「どちらかといえばそう思わない」4.9%）』（23.8%）を上回っている。また、「どちらとも言えない」は25.1%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、男女ともに『思う』が最も高く、男性（52.4%）が女性（42.5%）を9.9ポイント上回っている。

性・年代別では、『思う』は男性40歳代で58.5%と高くなっている。

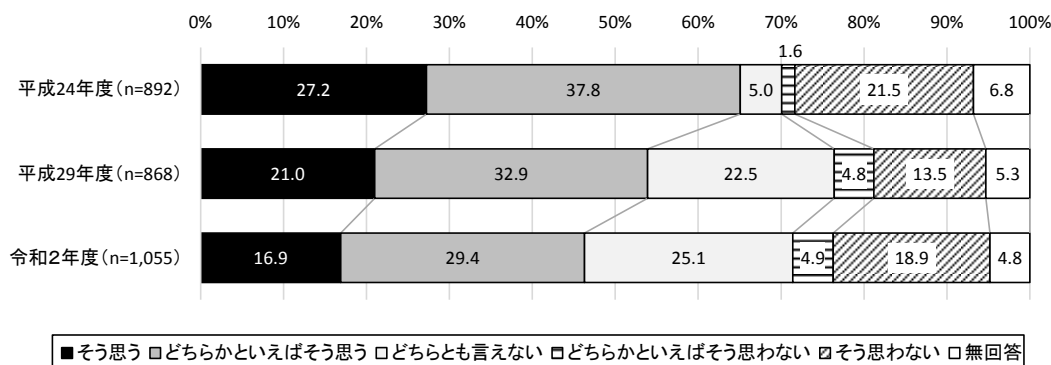
図表7-2 ①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい（性別、性・年代別）

	回答数（n）	思う	思う		どちらとも言えない	思わない	思わない		無回答
			そう思う	どちらかといえば			どちらかといえば	そう思わない	
全体	1,055	46.3	16.9	29.4	25.1	23.8	4.9	18.9	4.8
男性	401	52.4	22.7	29.7	20.2	23.0	3.0	20.0	4.5
20歳代以下	43	44.2	23.3	20.9	16.3	34.9	4.7	30.2	4.7
30歳代	51	53.0	21.6	31.4	15.7	29.5	2.0	27.5	2.0
40歳代	77	58.5	24.7	33.8	27.3	13.0	-	13.0	1.3
50歳代	73	54.7	20.5	34.2	20.5	20.5	4.1	16.4	4.1
60歳代	70	44.3	21.4	22.9	15.7	32.9	4.3	28.6	7.1
70歳代以上	85	54.1	24.7	29.4	22.4	16.4	3.5	12.9	7.1
女性	569	42.5	13.0	29.5	27.8	26.4	6.9	19.5	3.3
20歳代以下	63	36.5	9.5	27.0	31.7	31.8	4.8	27.0	-
30歳代	83	45.7	8.4	37.3	24.1	27.7	6.0	21.7	2.4
40歳代	96	39.6	9.4	30.2	29.2	30.2	9.4	20.8	1.0
50歳代	98	40.8	10.2	30.6	28.6	27.5	7.1	20.4	3.1
60歳代	97	35.1	12.4	22.7	29.9	29.9	10.3	19.6	5.2
70歳代以上	127	52.7	22.8	29.9	25.2	16.5	3.9	12.6	5.5

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から『思う』は減少傾向にある。前回調査（平成29年度）と比較すると「そう思わない」は5.4ポイント増加している。

図表7-3 ①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい（経年比較）



② 子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい

『思う（「そう思う」60.2%＋「どちらかといえばそう思う」27.4%）』（87.6%）が、『思わない（「そう思わない」0.9%＋「どちらかといえばそう思わない」0.9%）』（1.8%）を大幅に上回っている。

【性別、性・年代別】

性別では、男女ともに『思う』が最も高く、女性（92.3%）が男性（83.8%）を8.5ポイント上回っている。

性・年代別では、『思う』は女性の20歳代以下で96.9%、40歳代で95.9%と高くなっている。

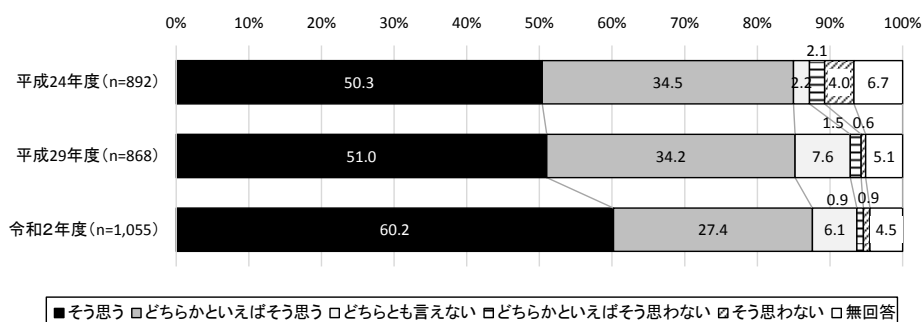
図表7-4 ②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい（性別、性・年代別）

		(件、%)								
		回答数 (n)	思う	そう思う	どちらか といえば	い ど ち ら か と も 言 え な い	思 わ な い	ど ち ら か と い え ば 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
全体		1,055	87.6	60.2	27.4	6.1	1.8	0.9	0.9	4.5
男性		401	83.8	52.6	31.2	9.2	2.5	1.0	1.5	4.5
	計	401	83.8	52.6	31.2	9.2	2.5	1.0	1.5	4.5
	20歳代以下	43	93.0	48.8	44.2	2.3	-	-	-	4.7
	30歳代	51	86.2	78.4	7.8	5.9	5.9	-	5.9	2.0
	40歳代	77	88.3	59.7	28.6	7.8	2.6	-	2.6	1.3
	50歳代	73	86.3	42.5	43.8	6.8	2.7	2.7	-	4.1
	60歳代	70	78.5	51.4	27.1	14.3	-	-	-	7.1
	70歳代以上	85	76.5	42.4	34.1	12.9	3.6	2.4	1.2	7.1
女性		569	92.3	67.5	24.8	3.3	1.4	0.9	0.5	3.0
	計	569	92.3	67.5	24.8	3.3	1.4	0.9	0.5	3.0
	20歳代以下	63	96.9	81.0	15.9	3.2	-	-	-	-
	30歳代	83	93.9	86.7	7.2	2.4	1.2	1.2	-	2.4
	40歳代	96	95.9	79.2	16.7	3.1	-	-	-	1.0
	50歳代	98	91.8	62.2	29.6	3.1	2.0	1.0	1.0	3.1
	60歳代	97	90.7	57.7	33.0	4.1	2.1	2.1	-	3.1
	70歳代以上	127	88.2	51.2	37.0	3.9	2.4	0.8	1.6	5.5

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から「そう思う」が増加傾向にある。

図表7-5 ②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい（経年比較）



③ 女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい『思う（「そう思う」17.3%＋「どちらかといえばそう思う」31.5%）』（48.8%）が、『思わない（「そう思わない」17.3%＋「どちらかといえばそう思わない」5.2%）』（22.5%）を上回っている。また、「どちらとも言えない」は24.5%となっている。

【性別、性・年代別】

性別では、男女ともに『思う』が最も高く、男性（52.4%）が女性（46.0%）を6.4ポイント上回っている。

性・年代別では、『思う』は男性の40歳代以上と女性の50歳代・70歳代以上で50%台となっている。20歳代以下は男女ともに『思わない』が最も高くなっている。

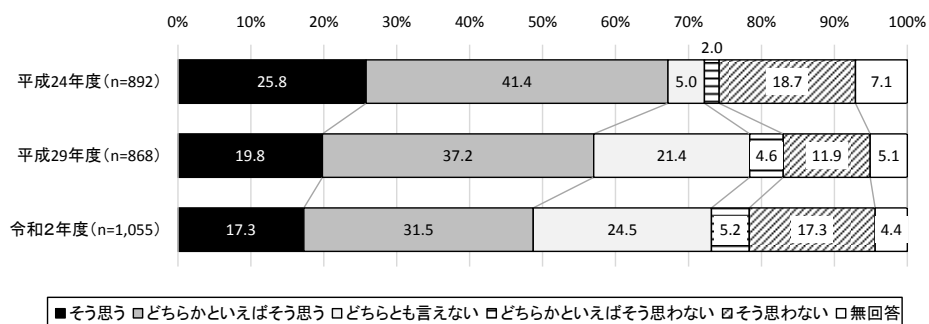
図表 7-6 ③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい（性別、性・年代別）

	回答数 (n)	(件、%)							無回答
		思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも言えない	思わない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	
全体	1,055	48.8	17.3	31.5	24.5	22.5	5.2	17.3	4.4
男性	401	52.4	18.7	33.7	21.4	21.4	3.7	17.7	4.7
20歳代以下	43	34.9	14.0	20.9	18.6	41.9	4.7	37.2	4.7
30歳代	51	45.1	13.7	31.4	21.6	31.4	3.9	27.5	2.0
40歳代	77	54.6	19.5	35.1	26.0	18.2	1.3	16.9	1.3
50歳代	73	58.9	13.7	45.2	26.0	11.0	1.4	9.6	4.1
60歳代	70	50.0	17.1	32.9	17.1	25.7	7.1	18.6	7.1
70歳代以上	85	58.8	28.2	30.6	18.8	14.1	4.7	9.4	8.2
女性	569	46.0	15.8	30.2	26.0	25.0	6.7	18.3	3.0
20歳代以下	63	36.5	7.9	28.6	25.4	38.1	12.7	25.4	-
30歳代	83	37.4	14.5	22.9	28.9	31.3	7.2	24.1	2.4
40歳代	96	37.5	12.5	25.0	32.3	29.1	8.3	20.8	1.0
50歳代	98	51.0	9.2	41.8	24.5	21.4	4.1	17.3	3.1
60歳代	97	46.4	15.5	30.9	26.8	23.7	9.3	14.4	3.1
70歳代以上	127	59.0	28.3	30.7	20.5	15.0	2.4	12.6	5.5

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から『思う』が減少傾向にあり、「どちらとも言えない」が増加傾向にある。

図表 7-7 ③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい（経年比較）



④ 性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい

『思う（「そう思う」72.7%＋「どちらかといえばそう思う」18.9%）』（91.6%）が、『思わない（「そう思わない」1.1%＋「どちらかといえばそう思わない」0.2%）』（1.3%）を大幅に上回っている。

【性別、性・年代別】

性別では、男女ともに『思う』が最も高く、女性（95.5%）が男性（88.0%）を7.5ポイント上回っている。

性・年代別では、『思う』は女性の20歳代以下で100.0%、40歳代で99.0%と高くなっている。

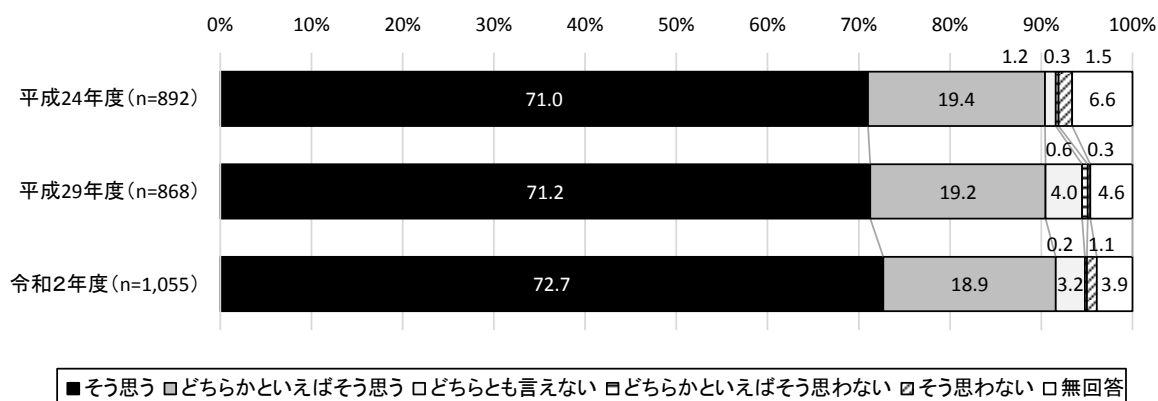
図表7-8 ④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい（性別・性年代別）

	回答数 (n)	思う	い			そう			無回答	
			どちらか とも言えな	い	どちらか といえ	思わな	い	思わな		
全体	1,055	91.6	72.7	18.9	3.2	1.3	0.2	1.1	3.9	
計	401	88.0	65.6	22.4	5.7	2.2	0.2	2.0	4.0	
男性	20歳代以下	43	86.0	58.1	27.9	7.0	2.3	-	2.3	4.7
	30歳代	51	90.2	66.7	23.5	2.0	5.9	-	5.9	2.0
	40歳代	77	87.0	61.0	26.0	6.5	5.2	1.3	3.9	1.3
	50歳代	73	84.9	68.5	16.4	11.0	-	-	-	4.1
	60歳代	70	88.6	64.3	24.3	2.9	1.4	-	1.4	7.1
	70歳代以上	85	90.6	70.6	20.0	4.7	-	-	-	4.7
女性	569	95.5	79.3	16.2	1.4	0.7	0.2	0.5	2.5	
計	63	100.0	85.7	14.3	-	-	-	-	-	
20歳代以下	83	95.2	79.5	15.7	-	2.4	1.2	1.2	2.4	
30歳代	96	99.0	79.2	19.8	-	-	-	-	1.0	
40歳代	98	95.9	78.6	17.3	1.0	-	-	-	3.1	
50歳代	97	94.9	82.5	12.4	3.1	-	-	-	2.1	
60歳代	127	91.3	74.8	16.5	3.1	1.6	-	1.6	3.9	
70歳代以上										

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から『思う』が約9割と高い割合でほぼ横ばいとなっている。

図表7-9 ④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい（経年比較）



⑤ 男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい

『思わない（「そう思わない」32.3%＋「どちらかといえばそう思わない」8.3%）』が40.6%と最も高く、『思う（「そう思う」6.5%＋「どちらかといえばそう思う」13.7%）』（20.2%）を上回っている。また、「どちらとも言えない」は34.2%と構成比の中で最も高くなっている。

【性別、性・年代別】

性別では、男女ともに『思わない』が最も高く、男性（41.9%）と女性（41.4%）が同水準となっている。

性・年代別では、『思わない』は男性の30歳代で60.8%、20歳代以下で58.1%と高くなっている。

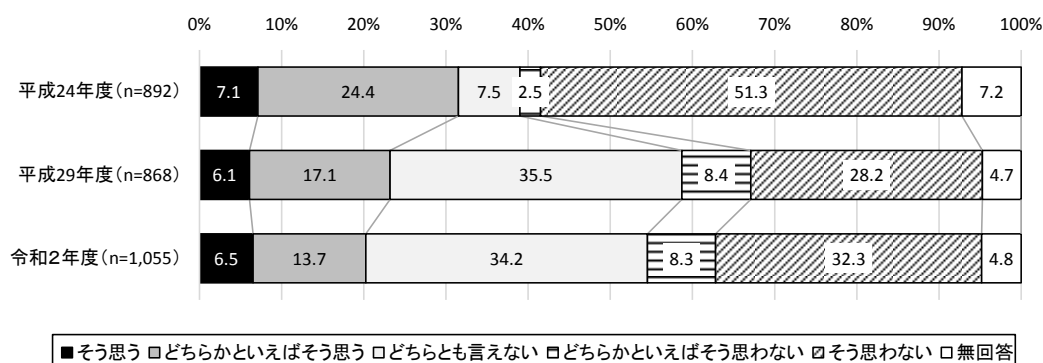
図表 7-10 ⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい（性別、性・年代別）

		(件、%)								
	回答数 (n)	思う	そう 思う	そう ど ちら か と い え ば	い ど ち ら と も 言 え な い	思 わ な い	そ う ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答	
全体	1,055	20.2	6.5	13.7	34.2	40.6	8.3	32.3	4.8	
男性	計	401	19.9	7.7	12.2	33.2	41.9	6.0	35.9	5.0
	20歳代以下	43	16.3	7.0	9.3	20.9	58.1	9.3	48.8	4.7
	30歳代	51	15.7	2.0	13.7	17.6	60.8	5.9	54.9	5.9
	40歳代	77	24.7	10.4	14.3	39.0	35.1	2.6	32.5	1.3
	50歳代	73	26.0	9.6	16.4	34.2	35.6	8.2	27.4	4.1
	60歳代	70	10.0	2.9	7.1	32.9	50.0	10.0	40.0	7.1
	70歳代以上	85	22.4	10.6	11.8	42.4	28.3	2.4	25.9	7.1
	女性	計	569	21.3	6.2	15.1	33.9	41.4	10.5	30.9
20歳代以下	63	11.1	4.8	6.3	34.9	52.4	15.9	36.5	1.6	
30歳代	83	22.9	2.4	20.5	28.9	45.8	7.2	38.6	2.4	
40歳代	96	18.8	7.3	11.5	38.5	41.6	13.5	28.1	1.0	
50歳代	98	18.4	4.1	14.3	40.8	37.8	8.2	29.6	3.1	
60歳代	97	15.4	1.0	14.4	35.1	46.4	11.3	35.1	3.1	
70歳代以上	127	34.7	14.2	20.5	27.6	31.4	9.4	22.0	6.3	

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）から『思う』が減少傾向にある。

図表 7-11 ⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい（経年比較）



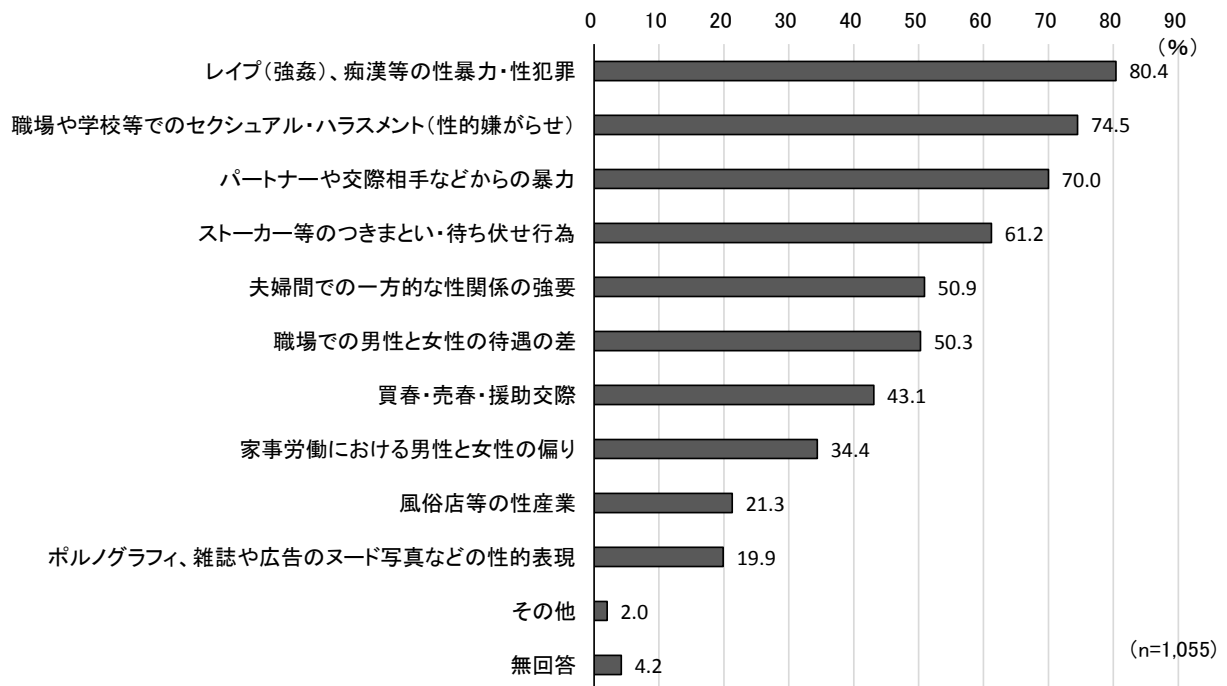
8. 人権について

(1) 人権が侵害されていると感じるとき

問12. 「人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。次の中からあてはまる数字すべてに○をつけてください。

人権侵害については、「レイプ（強姦）、痴漢等の性暴力・性犯罪」（80.4%）が最も高く、次いで「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」（74.5%）、「パートナーや交際相手からの暴力」（70.0%）となっている。

図表 8-1 人権が侵害されていると感じる場合（全体）



【性別、性・年代別】

全体の上位3項目を性別で見ると、「レイプ(強姦)、痴漢等の性暴力・性犯罪」は、男性(80.5%)と女性(81.4%)が同水準となっている。「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」は、男性(74.8%)と女性(75.2%)が同水準となっている。「パートナーや交際相手などからの暴力」は、女性(71.2%)が男性(69.1%)を2.1ポイント上回っている。また、「家事労働における男性と女性の偏り」は女性(40.9%)が男性(25.7%)より15.2ポイント高く、男女の差が大きくなっている。

性・年代別では、「レイプ(強姦)、痴漢等の性暴力・性犯罪」は女性60歳代で88.7%、男性50歳代で87.7%と高くなっている。「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」は、男女ともに30歳代以下は80%を超えている。「パートナーや交際相手などからの暴力」は、男女ともに50歳代で80%を超えている。

図表8-2 人権が侵害されていると感じる場合(性別、性・年代別)

		(件、%)												
	回答数(n)	レイプ(強姦)、痴漢等の性暴力・性犯罪	職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	暴力パートナーや交際相手などからの	パートナー等につきまとい・待ち伏せ行為	夫婦間での一方的な性関係の強要	職場での男性と女性の待遇の差	買春・売春・援助交際	家事労働における男性と女性の偏り	風俗店等の性産業	ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真などの性的表現	その他	無回答	
全体	1,055	80.4	74.5	70.0	61.2	50.9	50.3	43.1	34.4	21.3	19.9	2.0	4.2	
男性	計	401	80.5	74.8	69.1	66.3	49.1	46.6	39.7	25.7	17.5	13.0	3.0	3.2
	20歳代以下	43	79.1	81.4	65.1	58.1	58.1	48.8	51.2	37.2	16.3	16.3	4.7	4.7
	30歳代	51	80.4	80.4	66.7	62.7	37.3	47.1	31.4	29.4	7.8	5.9	-	-
	40歳代	77	76.6	68.8	63.6	64.9	49.4	39.0	32.5	19.5	16.9	9.1	2.6	3.9
	50歳代	73	87.7	79.5	83.6	72.6	56.2	43.8	35.6	23.3	12.3	11.0	2.7	2.7
	60歳代	70	84.3	80.0	74.3	70.0	51.4	44.3	47.1	24.3	25.7	15.7	7.1	-
	70歳代以上	85	75.3	65.9	62.4	65.9	44.7	57.6	43.5	27.1	22.4	18.8	1.2	7.1
女性	計	569	81.4	75.2	71.2	58.5	51.7	53.3	45.0	40.9	24.1	23.7	1.4	3.7
	20歳代以下	63	84.1	82.5	74.6	65.1	65.1	60.3	49.2	44.4	23.8	30.2	-	1.6
	30歳代	83	80.7	85.5	71.1	65.1	61.4	66.3	47.0	57.8	20.5	20.5	2.4	1.2
	40歳代	96	83.3	71.9	70.8	56.3	45.8	46.9	36.5	42.7	16.7	16.7	2.1	3.1
	50歳代	98	86.7	77.6	81.6	61.2	58.2	42.9	50.0	36.7	23.5	24.5	3.1	1.0
	60歳代	97	88.7	74.2	72.2	66.0	56.7	53.6	51.5	38.1	28.9	26.8	-	3.1
	70歳代以上	127	70.1	67.7	62.2	47.2	36.2	54.3	40.2	32.3	29.9	26.0	0.8	9.4

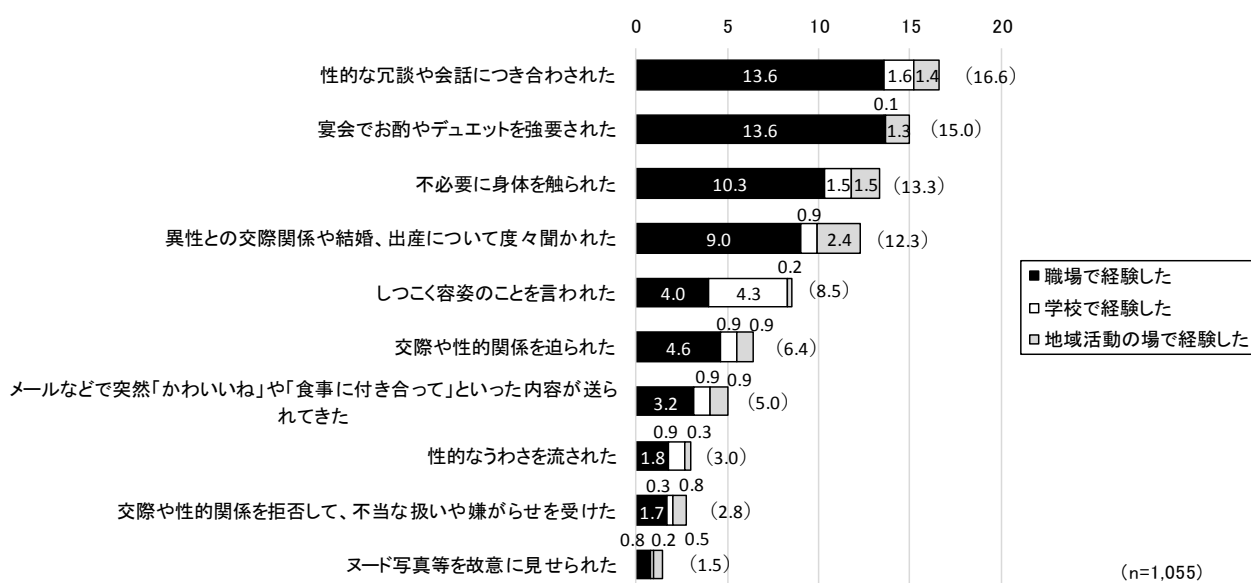
(2) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

問13. セクシュアル・ハラスメントについて伺います。(お答えいただける方のみで結構です。) これまでに、職場や学校、地域活動のそれぞれの場面において、①～⑩のような経験をして不快・苦痛な思いをしたことがありますか。①～⑩それぞれの項目について、あてはまる数字すべてに○をつけてください。

セクシュアル・ハラスメントの経験については、「性的な冗談や会話につき合わされた」(16.6%)が最も高く、次いで「宴会でお酌やデュエットを強要された」(15.0%)、「不必要に身体を触られた」(13.3%)となっている。

経験した場面を比較すると、「しつこく容姿のことを言われた」を除いたすべての項目で職場が最も高く、「しつこく容姿のことを言われた」では学校が最も高くなっている。

図表 8-3 セクシュアル・ハラスメントの経験 (全体)



【性別、性・年代別】

性別では、職場・学校・地域活動の場すべてにおいて、セクシュアル・ハラスメントの経験は女性の方が男性よりも高くなっている。

性・年代別では、女性の30歳代で職場における「性的な冗談や会話につき合わされた」が33.7%、女性の50歳代で職場における「宴会でお酌やデュエットを強要された」が31.6%と高くなっている。

図表8-4 セクシュアル・ハラスメントの経験（性別、性・年代別）

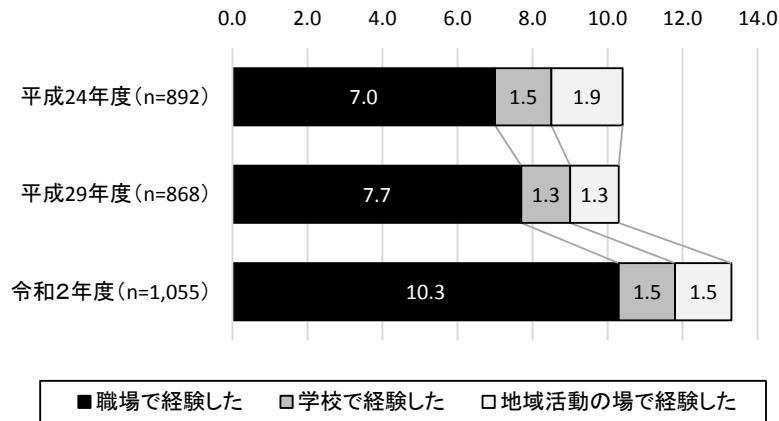
(件、%)

		回答数（n）	性的な冗談や会話につき合わされた	宴会やお酌やデユエットを強要された	不必要に身体を触られた	異性との交際関係や結婚、出産について度々聞かれた	たしこく容姿のことを言われた	交際や性的関係を迫られた	メールや食事につき合っていた内容が送られてきた	性的なうわさを流された	不当な扱いや嫌がらせを受けた	交際や性的関係を拒否して、交際や性的関係を断る見せられた	左記のいずれかで経験があると回答した人の割合	経験はない+無回答	
職場で経験した	全体	1,055	13.6	13.6	10.3	9.0	4.0	4.6	3.2	1.8	1.7	0.8	26.2	73.8	
	計	401	6.0	3.7	2.2	4.0	1.2	0.5	0.2	1.0	0.7	-	12.2	87.8	
	20歳代以下	43	4.7	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	4.7	95.3
	30歳代	51	3.9	-	2.0	7.8	2.0	-	-	-	-	-	-	11.8	88.2
	40歳代	77	9.1	3.9	2.6	5.2	3.9	-	1.3	2.6	1.3	-	18.2	81.8	
	50歳代	73	11.0	9.6	2.7	9.6	1.4	2.7	-	2.7	1.4	-	23.3	76.7	
	60歳代	70	2.9	1.4	2.9	-	-	-	-	-	1.4	-	-	5.7	94.3
	70歳代以上	85	3.5	4.7	1.2	1.2	-	-	-	-	-	-	-	7.1	92.9
	計	569	18.5	20.0	15.5	13.0	5.8	6.9	5.3	2.1	1.9	1.1	35.7	64.3	
	20歳代以下	63	14.3	12.7	12.7	19.0	9.5	6.3	6.3	1.6	6.3	-	34.9	65.1	
	30歳代	83	33.7	28.9	27.7	25.3	12.0	15.7	14.5	3.6	3.6	2.4	49.4	50.6	
	40歳代	96	27.1	29.2	17.7	21.9	7.3	15.6	9.4	5.2	3.1	2.1	54.2	45.8	
	50歳代	98	26.5	31.6	18.4	12.2	7.1	3.1	2.0	-	-	-	45.9	54.1	
	60歳代	97	9.3	13.4	10.3	5.2	2.1	1.0	2.1	1.0	-	2.1	22.7	77.3	
70歳代以上	127	5.5	7.9	9.4	2.4	0.8	2.4	0.8	1.6	0.8	-	16.5	83.5		
学校で経験した	全体	1,055	1.6	0.1	1.5	0.9	4.3	0.9	0.9	0.9	0.3	0.8	6.9	93.1	
	計	401	0.7	-	1.0	-	2.7	0.2	-	0.2	-	-	4.0	96.0	
	20歳代以下	43	-	-	2.3	-	7.0	-	-	2.3	-	-	9.3	90.7	
	30歳代	51	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	3.9	96.1	
	40歳代	77	2.6	-	2.6	-	3.9	1.3	-	-	-	-	6.5	93.5	
	50歳代	73	-	-	-	-	6.8	-	-	-	-	-	6.8	93.2	
	60歳代	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	70歳代以上	85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	計	569	2.3	0.2	2.1	1.6	6.0	1.6	1.4	1.4	0.5	0.4	9.5	90.5	
	20歳代以下	63	6.3	-	4.8	1.6	12.7	1.6	3.2	1.6	-	3.2	22.2	77.8	
	30歳代	83	6.0	1.2	4.8	8.4	9.6	7.2	6.0	4.8	-	-	19.3	80.7	
	40歳代	96	3.1	-	3.1	1.0	10.4	2.1	-	1.0	3.1	-	13.5	86.5	
	50歳代	98	1.0	-	1.0	-	8.2	-	-	2.0	-	-	10.2	89.8	
	60歳代	97	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	99.0	
70歳代以上	127	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0		
地域活動の場で経験した	全体	1,055	1.4	1.3	1.5	2.4	0.2	0.9	0.9	0.3	0.8	0.5	5.7	94.3	
	計	401	0.5	-	-	0.5	-	-	-	-	0.2	0.2	1.0	99.0	
	20歳代以下	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	30歳代	51	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.9	96.1	
	40歳代	77	-	-	-	1.3	-	-	-	-	1.3	1.3	1.3	98.7	
	50歳代	73	-	-	-	1.4	-	-	-	-	-	-	1.4	98.6	
	60歳代	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	70歳代以上	85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	計	569	1.9	2.5	2.8	3.5	0.4	1.4	1.4	0.5	1.1	0.7	9.0	91.0	
	20歳代以下	63	4.8	1.6	4.8	7.9	1.6	4.8	6.3	3.2	4.8	3.2	14.3	85.7	
	30歳代	83	2.4	3.6	4.8	4.8	1.2	2.4	2.4	-	1.2	-	12.0	88.0	
	40歳代	96	3.1	2.1	5.2	6.3	-	1.0	2.1	1.0	1.0	-	14.6	85.4	
	50歳代	98	-	1.0	3.1	1.0	-	1.0	-	-	1.0	1.0	6.1	93.9	
	60歳代	97	1.0	4.1	-	2.1	-	1.0	-	-	-	-	6.2	93.8	
70歳代以上	127	1.6	2.4	0.8	1.6	-	-	-	-	-	0.8	4.7	95.3		

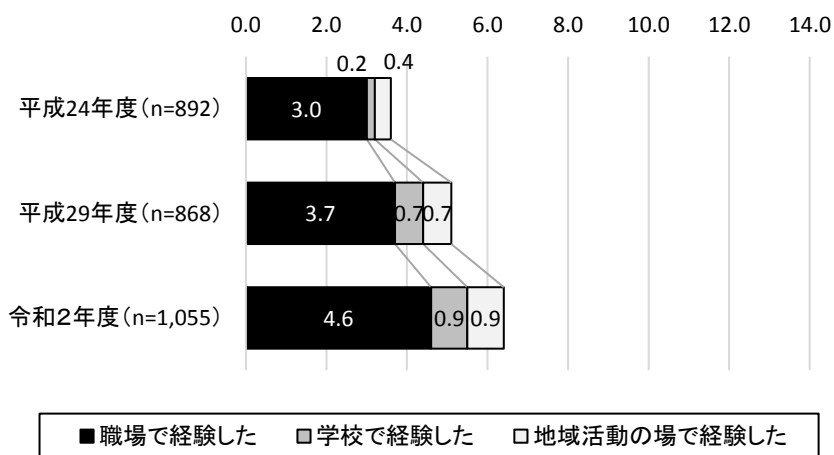
【経年比較】

前回調査（平成 29 年度）と比較すると、「⑤ヌード写真等を故意に見せられた」と「⑩メールなどで突然『かわいいね』や『食事につき合っ』などが送られてきた」を除いたすべての項目でセクシュアル・ハラスメントの経験が増加している。

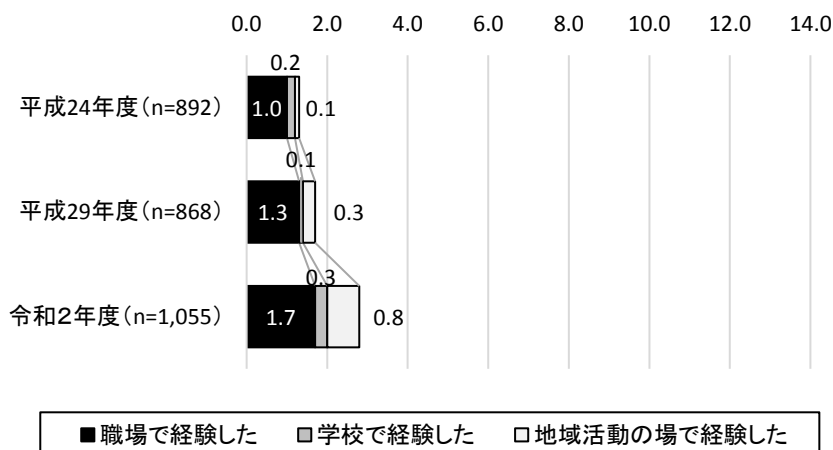
図表 8-5 ①不必要に身体を触られた（経年比較）



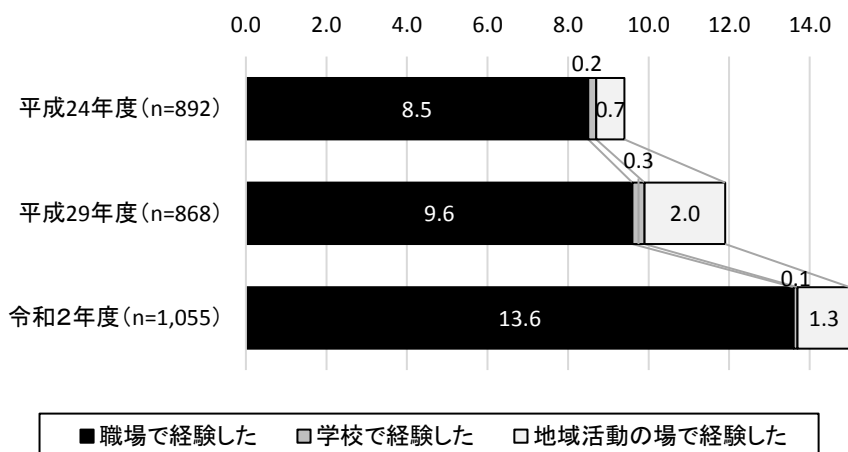
図表 8-6 ②交際や性的関係を迫られた（経年比較）



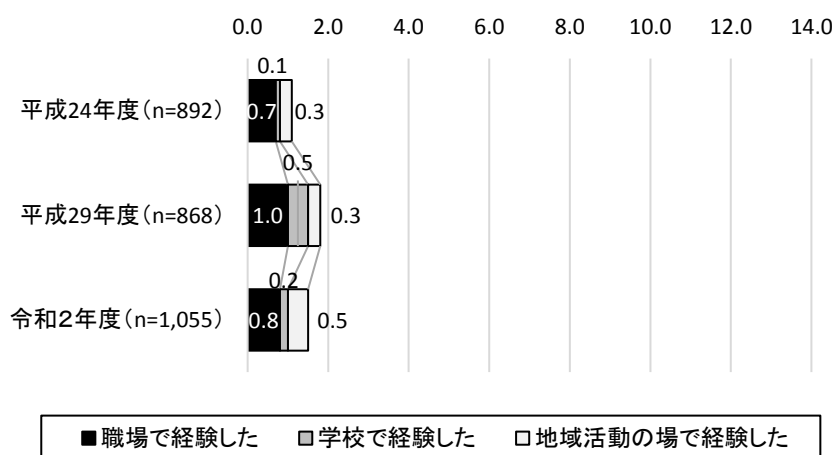
図表 8-7 ③交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた（経年比較）



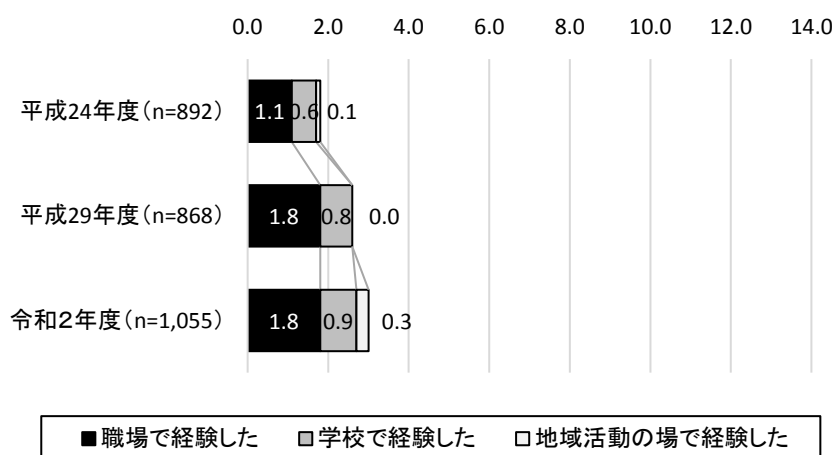
図表 8-8 ④宴会でお酌やデュエットを強要された（経年比較）



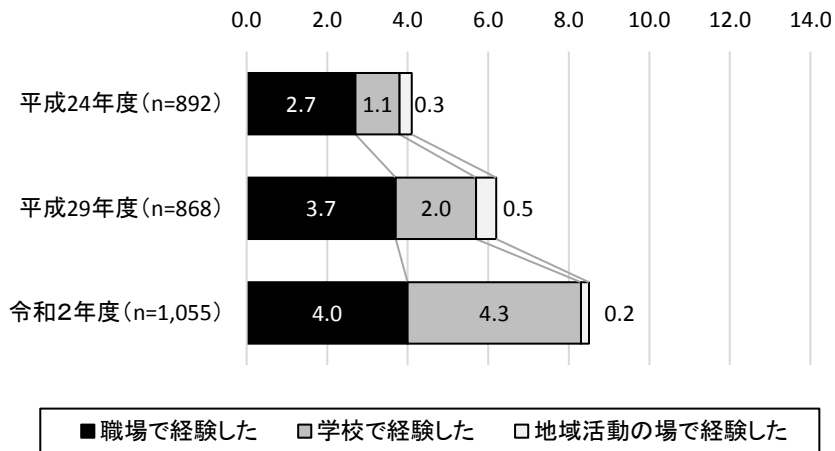
図表 8-9 ⑤ヌード写真等を故意に見せられた（経年比較）



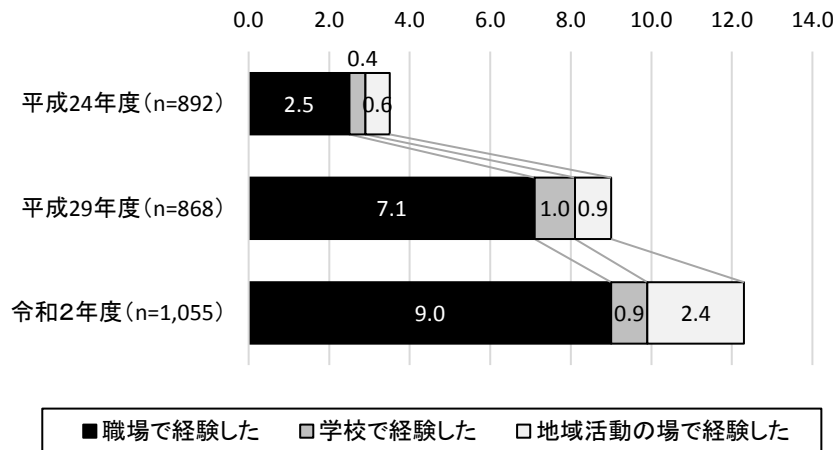
図表 8-10 ⑥性的なうわさを流された（経年比較）



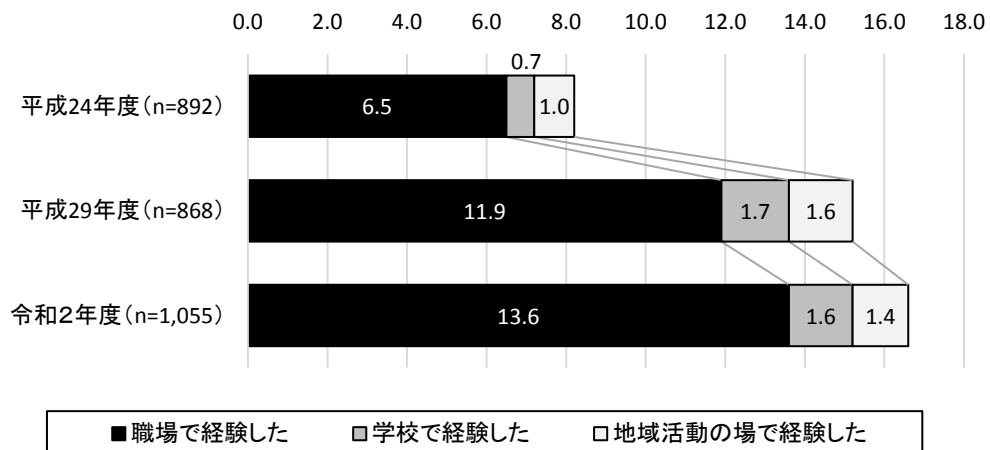
図表 8-11 ⑦しつこく容姿のことを言われた（経年比較）



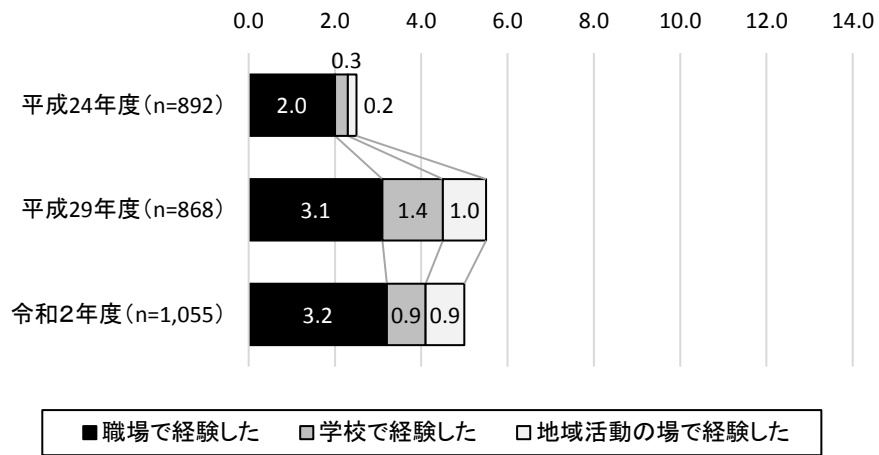
図表 8-12 ⑧異性との交際関係や結婚、出産について度々聞かれた（経年比較）



図表 8-13 ⑨性的な冗談や会話につき合わされた（経年比較）



図表 8-14 ⑩メールなどで突然「かわいいね」や「食事に付き合っ
て」などが送られてきた（経年比較）

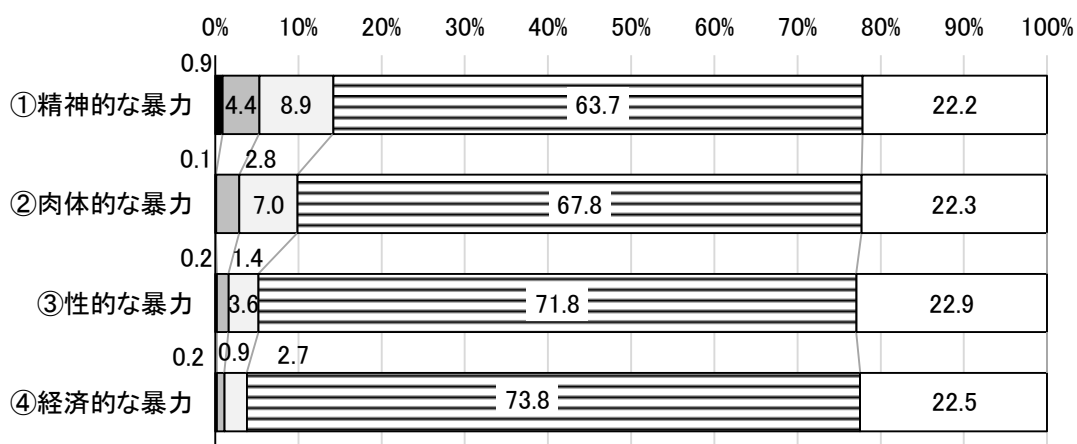


(3) ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験の有無

問14. ドメスティック・バイオレンス（DV）について伺います。（お答えいただける方で結構です。）これまでに配偶者や恋人等から次の①～④の暴力行為を受けたことがありますか。①～④それぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

ドメスティック・バイオレンスの経験については、すべての項目で「経験がない」が最も高くなっている。経験があるのうち「過去に経験したが今はない」がすべての項目で最も高いものの、「頻繁に受けている」と「何度か経験がある」の合計は、「①精神的な暴力」5.3%、「②肉体的な暴力」2.9%、「③性的な暴力」1.6%、「④経済的な暴力」1.1%となっている。

図表 8-15 ドメスティック・バイオレンスの経験（全体）



■頻繁に受けている □何度か経験がある □過去に経験したが今はない □経験がない □無回答

(n=1,055)

【性別、性・年代別】

性別では、暴力行為を受けた経験は、すべての暴力で女性が男性を上回っている。

性・年代別では、「頻繁に受けている」と「何度か経験がある」の合計はすべての暴力で女性の40歳代が最も高くなっている（精神的な暴力：12.5%、肉体的な暴力：6.3%、性的な暴力：6.2%、経済的な暴力：4.1%）。

図表 8-16 ドメスティック・バイオレンスの経験（性別、性・年代別）

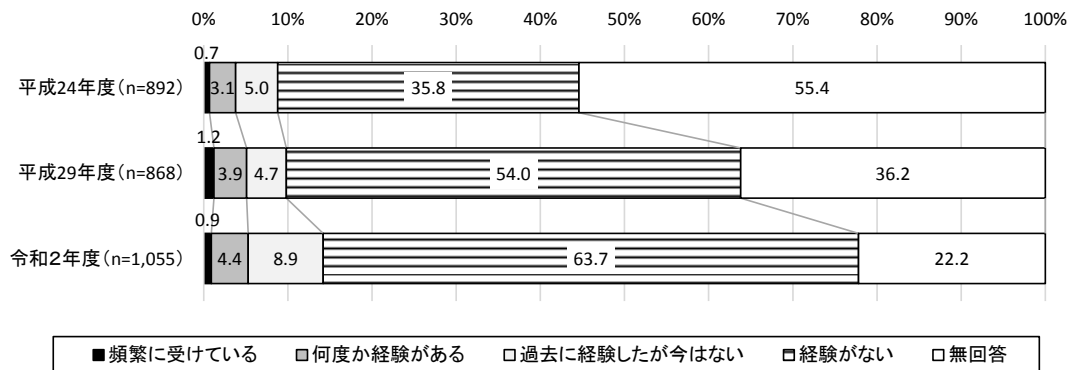
		(件、%)						(件、%)							
		回答数 (n)	頻繁に 受けて いる	何度か 経験が ある	今 過去に 経験し たが ない	経験 がない	無 回答	回答数 (n)	頻繁に 受けて いる	何度か 経験が ある	今 過去に 経験し たが ない	経験 がない	無 回答		
精神的な暴力	全体	1,055	0.9	4.4	8.9	63.7	22.2	全体	1,055	0.1	2.8	7.0	67.8	22.3	
	計	401	0.7	3.5	5.2	62.3	28.2	計	401	-	2.0	4.0	65.6	28.4	
	男性	20歳代以下	43	-	-	2.3	79.1	18.6	20歳代以下	43	-	-	7.0	74.4	18.6
		30歳代	51	2.0	2.0	3.9	80.4	11.8	30歳代	51	-	3.9	5.9	78.4	11.8
		40歳代	77	1.3	7.8	9.1	66.2	15.6	40歳代	77	-	2.6	3.9	77.9	15.6
		50歳代	73	1.4	4.1	6.8	60.3	27.4	50歳代	73	-	2.7	2.7	67.1	27.4
		60歳代	70	-	4.3	1.4	58.6	35.7	60歳代	70	-	1.4	5.7	57.1	35.7
		70歳代以上	85	-	1.2	4.7	44.7	49.4	70歳代以上	85	-	1.2	1.2	47.1	50.6
	女性	計	569	1.1	5.3	12.1	65.0	16.5	計	569	0.2	3.5	9.1	70.7	16.5
		20歳代以下	63	1.6	4.8	19.0	69.8	4.8	20歳代以下	63	1.6	1.6	6.3	85.7	4.8
		30歳代	83	2.4	7.2	14.5	66.3	9.6	30歳代	83	-	6.0	9.6	74.7	9.6
		40歳代	96	2.1	10.4	17.7	60.4	9.4	40歳代	96	-	6.3	12.5	70.8	10.4
		50歳代	98	-	4.1	11.2	75.5	9.2	50歳代	98	-	4.1	8.2	79.6	8.2
		60歳代	97	1.0	4.1	10.3	68.0	16.5	60歳代	97	-	3.1	11.3	70.1	15.5
70歳代以上	127	-	1.6	5.5	55.9	37.0	70歳代以上	127	-	-	7.1	55.1	37.8		
性的な暴力	全体	1,055	0.2	1.4	3.6	71.8	22.9	全体	1,055	0.2	0.9	2.7	73.8	22.5	
	計	401	-	0.5	0.2	70.6	28.7	計	401	-	0.5	0.7	70.1	28.7	
	男性	20歳代以下	43	-	-	-	81.4	18.6	20歳代以下	43	-	-	-	81.4	18.6
		30歳代	51	-	-	-	88.2	11.8	30歳代	51	-	-	-	88.2	11.8
		40歳代	77	-	1.3	-	83.1	15.6	40歳代	77	-	1.3	1.3	81.8	15.6
		50歳代	73	-	-	1.4	71.2	27.4	50歳代	73	-	-	1.4	71.2	27.4
		60歳代	70	-	-	-	64.3	35.7	60歳代	70	-	-	1.4	62.9	35.7
		70歳代以上	85	-	1.2	-	47.1	51.8	70歳代以上	85	-	1.2	-	47.1	51.8
	女性	計	569	0.4	2.3	6.2	74.2	17.0	計	569	0.4	1.1	4.0	78.4	16.2
		20歳代以下	63	-	3.2	4.8	87.3	4.8	20歳代以下	63	1.6	-	1.6	92.1	4.8
		30歳代	83	-	4.8	12.0	73.5	9.6	30歳代	83	-	2.4	1.2	86.7	9.6
		40歳代	96	1.0	5.2	9.4	74.0	10.4	40歳代	96	1.0	3.1	5.2	81.3	9.4
		50歳代	98	-	1.0	5.1	85.7	8.2	50歳代	98	-	1.0	6.1	85.7	7.1
		60歳代	97	1.0	1.0	5.2	75.3	17.5	60歳代	97	-	-	4.1	78.4	17.5
70歳代以上	127	-	-	1.6	59.8	38.6	70歳代以上	127	-	-	3.9	59.8	36.2		

【経年比較】

前々回調査（平成24年度）からすべての項目で「経験がない」が増加傾向にあり、「④経済的な暴力」を除いたすべての項目で「頻繁に受けている」と「何度か経験がある」の合計が増加傾向にある。

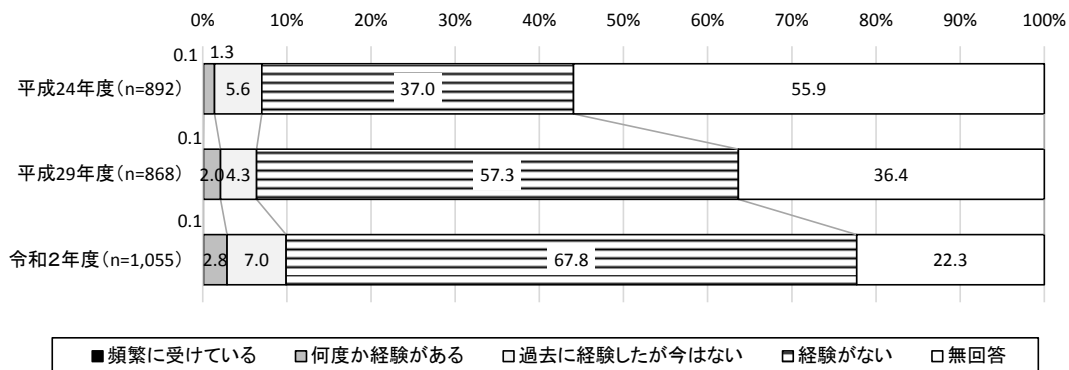
- ① 精神的な暴力（無視する、なじる、おとしめる、おどす、嫌がらせをする、つきまとう、行動や交友関係等を監視したり禁止する等）

図表 8-17 精神的な暴力の経験（経年比較）



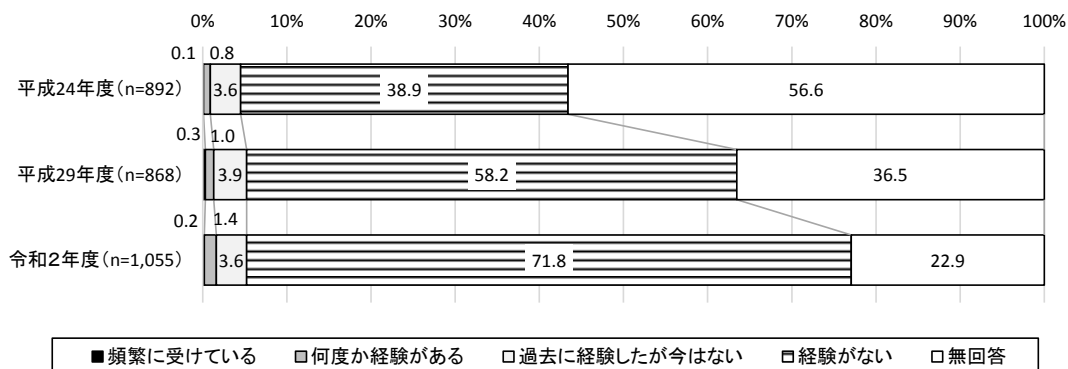
- ② 肉体的な暴力（殴る、蹴る、物を壊す等）

図表 8-18 肉体的な暴力の経験（経年比較）



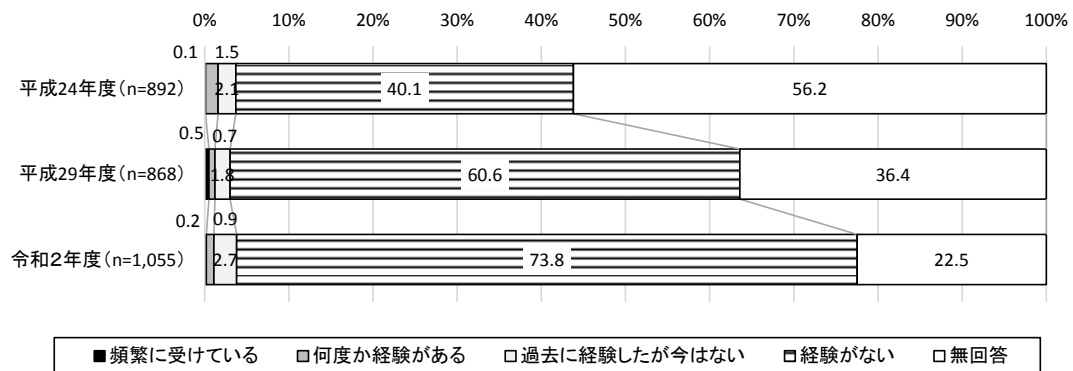
- ③ 性的な暴力（望まない性行為の強要、避妊への非協力等）

図表 8-19 性的な暴力の経験（経年比較）



④ 経済的な暴力（生活費を渡さない、外で働かせない等）

図表 8-20 経済的な暴力の経験（経年比較）



Ⅲ. 自由意見

男女共同参画社会の実現に向け、意見や要望を求めたところ、165人から181件の意見が寄せられた。意見については、一人が複数の意見を記入している場合は、それぞれを1件として件数に加えている。なお、カテゴリー別に主な意見を掲載しているが、主旨を尊重しながら表現をまとめるとともに誤字などを修正している。

カテゴリー別意見をみると、「アンケートについて」（29件）が最も多く、「意識改革・教育等」（25件）、「生き方・働き方」（23件）が続いた。

図表9-1 カテゴリー別自由意見件数

カテゴリー	件数
(1) アンケートについて	29件
(2) 意識改革・教育等	25件
(3) 生き方・働き方	23件
(4) 男女平等	22件
(5) 男女共同参画社会	19件
(6) 行政への意見	16件
(7) 多様性	15件
(8) 子育て支援	8件
(9) 人権（DV・セクシャルハラスメントなど）	5件
(10) その他	19件
合計	181件

(1) アンケートについて（29件）

男性・20歳代以下・ 正規の職員・従業者・ 結婚していない	急に届いて驚いたけれど自分が今まで差別や暴力等を受けずに生活してきたため、特に意識してこなかった社会の問題について考え直すいい機会になったので今回のようなアンケート調査は案外効果があるのかもしれないと思いました。
男性・30歳代・ 正規の職員・従業者・ 結婚していない	結婚していない、職場は男性ばかりなので男女共同参画市民意識が薄いです。でもこの調査（アンケート）で意識が高くなったと思います。
男性・30歳代・ 正規の職員・従業者・ 結婚している（事実婚含む）	アンケート自体が男尊女卑を前提としているように感じるが、逆もあると思う。
女性・50歳代・ 正規の職員・従業者・ 結婚している（事実婚含む）	問5（1）の選択肢として「家庭」「仕事」は同じように携わっているが「地域」に関わっていないという項目があれば答えやすかったです。女性も男性も若い世代ほどそのような方は多いのではと思います。
女性・60歳代・ 非正規の職員・従業者 結婚したが、離別・死別している	個人個人さまざまな意見があって良いと思いますが、意識付けの為にこの様なアンケート調査は大切な事だと思います。
女性・70歳代以上・ 専業主婦・ 結婚している（事実婚含む）	アンケートの回答を市政にしっかり生かして下さい。

(2) 意識改革・教育等 (25件)

男性・30歳代 会社役員・団体役員 結婚している (事実婚含む)	まずこの社会にするにあたって今の大人の考えを直さなければならないと思う。例えば固定概念にとらわれない事、昔は自分たちはこうだったのだからお前らもこうしろという押しつけとか、こんな事をする大人がいる限りはまず実現は無理だと思う。後は役所の皆様の心強いバックアップがあればいいと思います。
男性・30歳代 正規の職員・従業者 結婚している (事実婚含む)	教育の場で女性の生理・妊娠・出産まできちんと教えてほしい。恥ずかしい事じゃないという事、生理などは女性一人一人症状が違う事、男の子も女の子にもそれぞれ責任があるという事、育児休暇は男性がとってもおかしくない世の中を小さい頃から教えていればこれからの世の中変わっていくと思う。
女性・40歳代 専業主婦 結婚している (事実婚含む)	50歳代以上の男性の中で「男尊女卑」の意識が変わっていない。“女性は弱いもの”という意識が根強いから性犯罪が無くならない。意識が変わらない男性が政治や制度を策定している以上何も変わっていかないと思う。女性を見下している根本的なアイデンティティを修正するような改革が長期戦であっても成されることを望む。
女性・60歳代 非正規の職員・従業者 結婚している (事実婚含む)	個々の意識に対して子供のころから啓発活動をしていくことが必要と思う。学校教育の中でも家庭教育の中でも。最近は両親ともに働きに出る家庭が増えているが、お父さんお母さんの役目を決めつけすぎずに男女協力して子育てをしていくことが女性の社会参画をしやすくさせるものと思う。
女性・60歳代 無職 結婚したが、離別・死別している	学校、職場、家庭、地域社会などあらゆる場において男女が本当の意味で平等に生活できるようになると良いなと思います。その為には様々な場面で「男女共同参画社会」の大切さを呼びかけて行く必要があると思います。
女性・70歳代以上 専業主婦 結婚している (事実婚含む)	ポスターや広報等の啓発により教育が大切だと思う。小さいうちから男女は平等であり互いに良い面を認め合うという事を教育で教えていく必要がある。特に年配の人ほど女性を下に見る男性が多いと思われる。そのような教育の中で過ごしてきている為それが当然という態度になるのかもしれない。

(3) 生き方・働き方 (23件)

男性・20歳代以下 正規の職員・従業者 結婚している (事実婚含む)	今の時代は女性が「専業主婦」ということが少なくなってきたと思います。男女が共に同じように家事・仕事・育児を共同できることがこれからの時代なのかなと思います。
女性・30歳代 正規の職員・従業者 結婚している (事実婚含む)	社会全体として男女の差がなく、個人として尊重されることはとても大切だと思います。しかし、例えば「女性も結婚・出産後も働くべき」ということではないと思います。それぞれの人生なので、女性の社会進出を勧めるのではなく、個人の選択（仕事をするか辞めるかを含めて）を社会が尊重できることが大切だと思います。
女性・40歳代 非正規の職員・従業者 結婚していない	結婚や出産に関わらず女性が自立して生活できる社会になってほしい。男女で出来る事・出来ない事があるのですべて平等にとは思わないけど収入の格差が無くなれば自分らしく生きられて満足度が高まると思う。
女性・50歳代 正規の職員・従業者 結婚している (事実婚含む)	出産したら子育てを楽しみ（仕事から離れ）また働ける環境を充実させて欲しい。一生のうち子育てはほんの数年です。終わってみればあっという間です。ゆっくりと育て豊かな心の人をつくっ

	ていく事をもっと考えるべきです。女性も働け！と言いきず。若い方も働いてないことが悪い！と感じている人もいます。子育てにやさしい街づくり。四街道はやさしい街です。大切な事を見失わないで子供を大切に育てこれからの四街道を背負ってくれる人へと育てて行きましょう。
女性・50歳代 正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	女性の経済的自立に関し、否定的な意見を耳にする事が増えてきたように感じています。女性が経済力をつけてきて、以前とは前提条件が変わってきているためと思いますが、経済力がないために不当な我慢を強いられることがないよという点が基本だと思ひます。家庭生活を含めた生き方にかかわることなので、いろいろ考え方があり難いですが、冷静に議論をしていただきたいと思ひます。
女性・70歳代以上 正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	結婚後育児（小学生まで）家庭の仕事は女性がするべきだと思ひている。子育てはとても楽しいし、経験により親が子供に育てられると思ひている。男性（夫）は家庭を守ってくれる人がいることで安心して仕事が出来ると思ひます。子供達が大きくなってきたら女性も働くべきと思ひます。働く場があれば良いのだが、ずっと家庭にいと年齢制限がありなかなか望む仕事がないのが実情である。子育ても仕事経験と思ひし、価値のある事である。社会が子育て後の女性を受け入れてそれなりの評価をし、仕事を与えてほしい。幸い私は（自分が働く事を望んだので）周囲の理解もあり家庭と職場を何とか両立し、助けてもらいながら働いている。

（4）男女平等（22件）

女性・30歳代 会社役員・団体役員 結婚している（事実婚含む）	育児や仕事において出産だけは性別が関係しますが（産前産後を含む）、他は限りなく平等にできると考えます。
女性・30歳代 正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	男女平等は無理がある。もちろんそうなってほしいとは思ひているが、今の時代、女も男と同等に働く事を求められ、家事も育児も女の負担が多いように思ひます。男女平等という言葉に苦しめられている気がする。子供も仕事も大好きだが、両立するには社会の協力が必要だと思ひます。
男性・40歳代 正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	仕事の面については既に男女平等になっているかと思ひます。もし、数字として男女平等を求めるとなれば働かないことにメリットを感じている女性が、正規に働いた方がメリットを感じるシステムにすれば変わるでしょう。現状、働きたくない女性、管理職になりたくない女性が多いと感じます。やる気のある人については男女平等になっているかと思ひますので（最近女性優遇が多し）これ以上は不要かと思ひます。また職種や現場によっては男女を区別する必要もありますので…。他のことにお金（税金）を使っただけければと思ひます。
男性・40歳代 正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	各企業（特に上場企業）において、女性登用等の施策が行われているが、“女性優遇”という逆差別という事態が生じているように思ひます。男女ともに働きやすい職場にするとともに女性の視点や考え方が反映される様に、真のダイバーシティの意義、日本、そして四街道市に適した住みやすい街にしたい。
女性・50歳代 正規の職員・従業者 結婚したが、離別・死別している	現代では“女性が”“男性が”という蔑視するような事がない様な気がします。むしろ女性が強い!?子供達をみていても感じるころがあります。平等とは何なのか。その言葉、今の若者には無いかも知れません。かえってその考え方が差別しているとも考えます。

女性・70歳代以上 無職 結婚している（事実婚含む）	日本の女性が世界の比較で下位にあるのが残念でならない。決して能力がない訳ではないが、女性の長所・特性・能力を生かしきれない社会のあり方、男女を含めて男女平等の考え方意識の浅さが根底にあると思う。歴史的民族的な日本人の特性と関わる根の深い問題だと思う。しかし、これからの日本は男性だけの力では行き詰ってくる。すでに行き詰っているかもしれない。女性のパワーを生かせる諸々の条件を整える事、例えば子どもがいても安心して外で働ける、活動できるようにすることなど。市でできる事を一歩ずつでも実行していただきたい。
----------------------------------	---

（５） 男女共同参画社会（19件）

女性・30歳代 正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	制度を決めているのも男性が多い為、女性の要望が分からないのでは。
男性・40歳代 正規の職員・従業者 結婚したが、離別・死別している	例えば議員数の一定数を女性にする「法制化」を行わないとなかなか男女平等は進まないと思います。雇用機会均等法によって女性の仕事の参加が進んだと思います。諸外国でも法制化が進んでいると思います。
無回答・40歳代 非正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	女性の社会進出を一番の目的とし ・家庭では家事育児を夫婦平等に！ ・職場では急な休みを取り易い職場に！ ・地域では保育園の充実、相談窓口・コミュニティの充実などサポートをしっかりと！ これらを同時に進行していかなければ女性進出は難しいでしょう。
男性・60歳代 自営業（家族従業者を含む） 結婚している（事実婚含む）	こういうアンケートを実施する必要のない社会が早く実現できれば良いと思います。教育や啓発活動も大事ではありますが、男女が性差を意識することなく仕事や社会参加出来る様な支援体制の構築が優先課題ではないでしょうか。
男性・60歳代 会社役員・団体役員 結婚している（事実婚含む）	日本の社会で女性の参画は不可欠。子供を産むという母性に関する事は別としてそれ以外の点では男女の平等の扱いは当たり前にしなくては社会が継続できなくなってしまうのでは？

（６） 行政への意見（16件）

男性・20歳代以下 学生・結婚していない	実現には行政の積極的な姿勢が必要不可欠であると考えている。行政が市民をリードし実現をしてほしい。
男性・40歳代 正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	大企業においても女性活躍推進は表面上であり、実態として進んでいるとは感じない。地域の中小企業で男女共同参画を実現するには、行政として相当関与していく必要があると感じる。
女性・40歳代 専業主婦 結婚している（事実婚含む）	男女共同参画社会の実現について特に市には期待していません。もっと他の事（防災や保健所の設置）に注力して欲しいです。
女性・40歳代 正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	四街道市は人口の数も増加傾向にあり子供の数も少なくありません。子育て世代からの意見は、出生率が上がっている市や子育てしやすいといわれている市や町の取組をもっと知って欲しいです。ずっと四街道に住んでいますが、昔と変わらないのでは困ります。物価も上り共働きではないと生活が苦しい家族はたくさんいます。共働きでも生活しやすい、働きやすい環境づくりをもっと取り組んで欲しいです。

男性・70歳代以上 非正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	「男女共同参画社会の実現に向けて」国の政策を100%賛成する事には疑問を持っている。何故なら、国会議員や閣僚の女性の比率を見ても明らかなように。それともう一つの問題として「ワークバランス」。これも実態として労働者の賃金低下という側面を持っているのではないだろうか。国の施策を額面通り受け取ることは出来ないので、自治体として末端から寄り添う政策の取組を期待しています。
--	---

（7）多様性（15件）

男性・30歳代 会社役員・団体役員 結婚している（事実婚含む）	LGBTに対する社会的な流れの中で、男女を分けることそのものが時代遅れ。目的そのものに違和感がある。
女性・40歳代 その他 結婚したが、離別・死別している	男女のくくりで分けるのはどうなのだろう…。LGBTの方々に対して相談の場や対応、生きていきやすい世の中にしていく事も同時に考えていかないといけないと思う。
女性・50歳代 正規の職員・従業者 結婚したが、離別・死別している	男性女性と身体の構造・力の度合・また脳の作りも違います。加えて個々人で考え方や得手・不得手も異なります。育ってきた環境によっても大きく左右される所です。一概に男性・女性同じ様に社会で働き、家庭や地域でも同数の人数・同等の仕事をするのが平等とは思いません。現在は様々な所で公平に仕事を与えられていると感じています。女性も自分の力を試したり、積極的に行動し発言することが大事だと考えます。また男性はそれに対して「女性のくせに」「女だてらに」と考えるのは間違いで、世の中自体も「女医さん」とか「女…」といった肩書はもうおしまいにするべきです。色々な場面で多様性が一般です。世の中令和なのです。
無回答・60歳代 専業主婦・専業主夫 結婚している（事実婚含む）	男性女性、それぞれの違い、特性を理解・尊重しつつ備わった能力・人間性等、平等・公平な部分を認めて行く社会であってほしい。

（8）子育て支援（8件）

無回答・20歳代以下 正規の職員・従業者 結婚している（事実婚含む）	男性も育児にもっと参加できる様に金銭面のサポートをもっとして欲しい。また、女性も仕事に復帰しなくても十分な生活が出来るくらいのサポートがあれば良い。出産・育児の為休職中だが職場の理解が足りないので戻りづらい。
無回答・30歳代 専業主婦・専業主夫 結婚している（事実婚含む）	女性の社会進出のためには子育て世帯の女性が働きやすい社会になるように助けが必要です。保育園に預けられるような働き方（育休からの復帰等）をしている人はスムーズに社会復帰できていますが、幼稚園に通わせている世帯としては復帰は難しいです。パートで働きたいと思っても（子供を幼稚園に通わせたまま）夏休みに預かり保育の実施数が少なかったり時間に対しての費用が保育園と比べると高かったりしてとても使いづらいです。働こうと思った時子供の預け先が一番のネックです。公立の預かり保育も人数に制限がある為なかなか使いたい日には使えません。現在の状況を把握し、私立幼稚園での預かり保育の充実（園によって差が大きい）夏休み期間中毎日預かりを行う等を私立だからといって園まかせにするのではなく、行政が係わって市民が暮らしやすい、女性が働きやすい環境づくりをして欲しいと切実に願っています。

男性・70歳代以上 無職 結婚している（事実婚含む）	女性の「出産。子育て」が社会の何らかの束縛が及ぶことのない様な制度の確立と、手厚い援助が実現されることを願います。
----------------------------------	---

(9) 人権（DV・セクシャルハラスメントなど）（5件）

無回答・20歳代以下 学生 結婚していない	女性だけでなく男性へのセクハラもあるということを世の中はあまり認識していないので、そこもどうにかしてほしいと思う。
無回答・70歳代以上 専業主婦・専業主夫 結婚したが、離別・死別している	友人がDVに悩んでいます。毎日家が近いので声を掛けています。これからも見守っていきます。

(10) その他（19件）

女性・30歳代 自営業（家族従業者を含む） 結婚している（事実婚含む）	そんな事より若い男女が四街道に帰ってきて家庭を築きたいと思う様な街を作るべきだと思います。福祉に力を入れすぎです。もっと都市計画を進め、市の収益を増やし若い世代の住みやすい市にすべきです。男女共同はその後です。
男性・40歳代 その他 結婚している（事実婚含む）	経済的に平等、潤いが実現しなければ、男と女の別の参画の問題ではなく、家庭が冷たく、子供にはさみしく、悲しく、将来性のない社会が続くと思います。男と女、どちらが働く社会に参画しても、いい社会は出来ていると思います。どちらかが稼げば男女は関係ないと思います。
女性・70歳代以上 専業主婦・専業主夫 結婚している（事実婚含む）	若い方たちが住みやすいよう社会を作っていくって下さい。

IV. 調査票

四街道市男女共同参画市民意識調査

日ごろより、市政にご協力をいただき、ありがとうございます。

現在、四街道市では、第3次四街道市男女共同参画推進計画により「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を発揮できる社会」をめざして、各施策に取り組んでいます。

このアンケート調査は、「男女共同参画社会」の形成に対して、市民の皆様の意識や実態を把握し、今後の男女共同参画施策の参考とさせていただくことを目的とするものです。

アンケート調査の実施にあたり、市内にお住まいの18歳以上の方から2,000人を無作為に抽出しましたところ、あなたを対象とさせていただくことになりました。

このアンケートは、無記名ですべて統計的に処理いたしますので、お答えをいただいた皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ、誠に恐れ入りますが、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和2年11月
四街道市長 佐渡 斉

【記入にあたってのお願い】

- お答えは、この調査（封筒）のあて名の方ご本人がご記入ください。
- お答えは、このアンケート調査票に直接ご記入ください。
- 黒のボールペンまたはHBより濃い鉛筆でご記入ください。
- お答えは、四角の枠に記載されている選択肢の中から最もあてはまる数字を選んで○を付けていただく、選択式です。
- お答えが「その他」にあてはまる場合、（ ）内に具体的にご記入ください。
- アンケート調査票は、無記名式ですので、住所・氏名の記入は一切必要ありません。

【返送期限に関するお願い】

- ご記入いただいたアンケート調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

11月16日（月曜）までに

郵便ポストへ投函してください。（※切手を貼る必要はありません。）

＜本調査に関する問い合わせ先＞

四街道市役所 経営企画部 政策推進課

TEL：043-421-6161 FAX：043-424-8920

I. あなたご自身について伺います

(統計処理を行うために必要な情報です。回答日現在でお答えください。)

※ 次の①～④それぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ〇をつけてください。

① 性別	1. 男性	2. 女性
② 年代	1. 20歳代以下 2. 30歳代 3. 40歳代	4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳代以上
③ ご職業 (兼務の場合は 主なもの)	1. 自営業(家族従業者を含む) 2. 会社役員・団体役員 3. 正規の職員・従業者 4. 非正規の職員・従業者(パート・派遣社員・契約社員など) 5. 専業主婦・専業主夫 6. 学生 7. 無職 8. その他()	
④ 配偶者等 パートナー	1. 結婚している(事実婚含む) 2. 結婚したが、離別・死別している 3. 結婚していない	

II. 男女平等に対するお考えについて伺います

問1. 次の①～⑧の場面で、男女の地位は現在において平等になっていると思いますか。それぞれの場面において、あてはまる数字に1つずつ〇をつけてください。

場面 \ 項目	A. 男性優遇	B. どちらかといえば 男性優遇	C. 平等	D. どちらかといえば 女性優遇	E. 女性優遇
①社会全体として	1	2	3	4	5
②家庭生活の中で	1	2	3	4	5
③職場で	1	2	3	4	5
④教育の中で	1	2	3	4	5
⑤政治の場で	1	2	3	4	5
⑥法律や制度の上で	1	2	3	4	5
⑦社会通念・慣習・しきたり等において	1	2	3	4	5
⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で	1	2	3	4	5

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 4. どちらかといえば反対 |
| 2. どちらかといえば賛成 | 5. 反対 |
| 3. どちらともいえない | |

Ⅲ. 男女共同参画の取組について伺います

「男女共同参画社会」とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されています。（男女共同参画基本法第2条）

問3(1). 市の男女共同参画推進計画でめざしている「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を発揮できる社会」の実現についてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- | | | | |
|----------------|----------|-------------------|-------|
| 1. とても良いことだと思う | } 問3(2)へ | 4. あまり良いことだと思わない | } 問4へ |
| 2. まあ良いことだと思う | | 5. まったく良いことだと思わない | |
| 3. どちらともいえない | | | |

問3(2). 問3(1)で1～3を選んだ方に伺います。男女共同参画社会を実現するためには、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあてはまる数字すべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1. 男女共同参画に関する広報・啓発を推進する | |
| 2. 女性や男性の生き方・悩みなどに関する相談の場を充実する | |
| 3. 市としての政策・方針決定の場へ女性の参画を拡充する | |
| 4. 学校教育において、男女共同参画に関する教育を推進する | |
| 5. 社会教育などにおいて、男女共同参画に関する学習機会を充実する | |
| 6. 育児・介護・家事に関する市民向けセミナーの実施 | |
| 7. 仕事と家庭の両立のための事業所への意識啓発を行う | |
| 8. 職場における男女の均等な取扱いについて、周知徹底を行う | |
| 9. 女性のチャレンジ支援を推進する（起業、リーダー養成、地域活動など） | |
| 10. 子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する | |
| 11. 子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う | |
| 12. 高齢者や障害者などへの福祉サービスの充実を行う | |
| 13. 防災や復興支援などにおいて、男女共同参画を推進する | |
| 14. ひとり親家庭への支援 | |
| 15. 異性や子どもに対する暴力防止対策や被害者支援を推進する | |
| 16. 地域における様々な団体や他自治体との連携 | |
| 17. その他（具体的： _____） | |
| 18. 特にない | |

IV. 「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」について伺います

ワーク・ライフ・バランスとは「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」と定義されています。(内閣府)

問4. 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない

問5(1). あなたの現在の日常生活の中で、「仕事・学業」「家庭等の個人生活」「地域・ボランティア等の活動(地域活動)」への関わり方は、次の1～7のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- ・「仕事」・・・常勤、パート、アルバイト、派遣、嘱託など働き方は問わない。
- ・「学業」・・・学生
- ・「家庭等の個人生活」・家事、子育て、余暇、介護、看護など
- ・「地域活動」・・・自治会やPTA、ボランティアなど

1. ほぼ「仕事・学業」に専念している
2. 「家庭等の個人生活」「地域活動」にも携わっているが、「仕事・学業」を優先させている
3. 「家庭等の個人生活」「地域活動」と「仕事・学業」に同じくらい携わっている
4. 「仕事・学業」にも携わっているが、「家庭等の個人生活」「地域活動」を優先させている
5. ほぼ「家庭等の個人生活」「地域活動」に関わっている
6. ほぼ「家庭等の個人生活」に関わっている
7. ほぼ「地域活動」に関わっている

問5(2). 現在「家庭等の個人生活」のための時間は十分とれていると思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

1. 十分取れている
2. まあ取れている
3. あまり取れていない
4. 全く取れていない
5. わからない

問6. 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境づくりが必要だと思いますか。次の中からあてはまる数字を3つまで選んで○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 育児・介護休業等の取得期間延長などの制度の充実
2. 育児・介護休業中の代替要員の確保など制度を利用しやすい職場環境の整備
3. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実
4. 保育施設の整備、幼稚園等での保育時間の延長など保育内容の充実
5. 家事や育児、介護などの支援サービスの充実
6. 在宅勤務、フレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入
7. 時間外労働の縮減など、年間労働時間を短縮すること
8. パートタイマーなど非正規の職員・従業員の労働条件を改善すること
9. 家族の積極的な育児・介護・家事への参加
10. その他（具体的： _____）
11. わからない |
|--|

問7. 現在、配偶者等パートナーと暮らしている方に伺います。（これまでに配偶者等パートナーと暮らした経験のない方は問7(2)へお進みください。）

※「夫」、「妻」には配偶者以外のパートナーを含む。

問7(1). 【実態】①～⑩の家事等をどなたがしていますか。（またはどなたがしていましたか。）

①～⑩のそれぞれの項目について、次の中からあてはまる数字に1ずつつ○をつけてください。

家事等	どなたが？						
	A. ほとんど妻	B. どちらかと言えど妻	C. 夫婦とも同じ程度	D. どちらかと言えど夫	E. ほとんど夫	F. 夫婦以外の人	G. 該当なし
① 食事の支度・後片付け	1	2	3	4	5	6	
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	
③ 食料品・日用品等の買物	1	2	3	4	5	6	
④ 家計費の管理	1	2	3	4	5	6	
⑤ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑥ 子どもの学校行事等への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 子どもの送迎、勉強や遊びの世話	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 介護や看護を要する家族の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 自治会や地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑩ 自治会や地域活動の役員、責任者	1	2	3	4	5	6	7

問7(2). 【理想】①～⑩の家事等をどなたにしてほしいですか。①～⑩のそれぞれの項目について、次の中からあてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

家事等	どなたに?	A. ほとんど妻	B. どちらかと 言えば妻	C. 程度 夫婦とも同じ	D. どちらかと 言えば夫	E. ほとんど夫	F. 夫婦以外の人	G. 該当なし
① 食事の支度・後片付け		1	2	3	4	5	6	
② 掃除・洗濯		1	2	3	4	5	6	
③ 食料品・日用品等の買物		1	2	3	4	5	6	
④ 家計費の管理		1	2	3	4	5	6	
⑤ 乳児・幼児の世話		1	2	3	4	5	6	7
⑥ 子どもの学校行事等への参加		1	2	3	4	5	6	7
⑦ 子どもの送迎、勉強や遊びの世話		1	2	3	4	5	6	7
⑧ 介護や看護を要する家族の世話		1	2	3	4	5	6	7
⑨ 自治会や地域活動への参加		1	2	3	4	5	6	7
⑩ 自治会や地域活動の役員、責任者		1	2	3	4	5	6	7

V. 防災・災害復興対策について伺います

問8. あなたは、防災・災害復興対策で女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。次の中からあてはまる数字を3つまで選んで○をつけてください。

1. 避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策など） 2. 避難所の責任者に女性が配置され、災害者対応に女性の視点が入ること 3. 乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮 4. 災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置） 5. 被災者に対する相談体制 6. 対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること 7. 防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること 8. 自主防災組織、防災訓練などに女性が参画すること 9. 特にない 10. その他（具体的： 11. わからない)
--	---

VI. 女性の就業のあり方や現状について伺います

問9. 女性（男性の場合は「妻・パートナー」）の働き方として、①理想の働き方、②現実の働き方、③これからの女性の働き方について、A～Hの就業形態ではまる数字を次の中から1つずつ選んで○をつけてください。

働き方 就業形態	A. 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を 持ち続ける	B. 妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、 子育てなどが落ち着いてから再び働く	C. 妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は 家事や子育てに専念する	D. 結婚するまでは職業に就き、結婚したら 家事に専念する	E. 結婚後または子育てが落ち着いてから、 初めて仕事を持つ	F. ずっと仕事を持たない	G. わからない	H. その他
	①理想の働き方	1	2	3	4	5	6	7
②現実の働き方	1	2	3	4	5	6	7	8
③これからの 女性の働き方	1	2	3	4	5	6	7	8

【その他記入欄】

①その他	
②その他	
③その他	

問 10. 現在、仕事をされている方に伺います。(現在、仕事をされていない方は問 11 へお進みください。) 職場で次のようなことがありますか。(あると感じますか。) 次の中からあてはまる数字すべてに〇をつけてください。

1. 募集や採用に性別による格差がある
2. 賃金・昇給で性別による格差がある
3. 昇進・昇格で性別による格差がある
4. 雇用形態に性別による格差がある
5. 時間外労働に性別による格差がある
6. 定年に性別による格差がある
7. 深夜業に性別による格差がある
8. 住宅資金の貸付に性別による格差がある
9. 配置や仕事の与え方に性別による格差がある
10. 教育訓練や研修等に性別による格差がある
11. 結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある
12. 性別による格差は感じない

Ⅶ. 子どもの性別による子育てのあり方について伺います

問 11. 子どもの性別や子育てのあり方についてどう思いますか。次の①～⑤それぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ〇をつけてください。

項目	近いもの				
	A. そう思う	B. どちらかといえば そう思う	C. どちらとも言えない	D. どちらかといえば そう思わない	E. そう思わない
①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい	1	2	3	4	5
②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい	1	2	3	4	5
③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい	1	2	3	4	5
④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい	1	2	3	4	5
⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい	1	2	3	4	5

VIII. 人権について伺います

問12. 「人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。次の中からあてはまる数字すべてに○をつけてください。

1. レイプ（強姦）、痴漢等の性暴力・性犯罪
2. 職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
3. ストーカー等のつきまとい・待ち伏せ行為
4. パートナーや交際相手などからの暴力
5. 買春・売春・援助交際
6. 夫婦間での一方的な性関係の強要
7. 風俗店等の性産業
8. ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真などの性的表現
9. 職場での男性と女性の待遇の差
10. 家事労働における男性と女性の偏り
11. その他（具体的に： _____)

問13. セクシュアル・ハラスメントについて伺います。（お答えいただける方のみで結構です。）
 これまでに、職場や学校、地域活動のそれぞれの場面において、①～⑩のような経験を
 して不快・苦痛な思いをしたことがありますか。①～⑩それぞれの項目について、あてはまる
数字すべてに○をつけてください。

※セクシュアル・ハラスメントは、社会的な力関係を濫用して相手の心と身体を傷つけ、ひいては働
 く権利や学ぶ権利をも脅かす行為です。次に示す①～⑩の項目は、セクシュアル・ハラスメントと
 見なされます。

項目	場面	A. した 職場で 経験	B. した 学校で 経験	C. で 地域活動の場 経験した	D. 経験はない
①不必要に身体を触られた		1	2	3	4
②交際や性的関係を迫られた		1	2	3	4
③交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた		1	2	3	4
④宴会でお酌やデュエットを強要された		1	2	3	4
⑤ヌード写真等を故意に見せられた		1	2	3	4
⑥性的なうわさを流された		1	2	3	4
⑦しつこく容姿のことを言われた		1	2	3	4
⑧異性との交際関係や結婚、出産について度々聞かれた		1	2	3	4
⑨性的な冗談や会話につき合わされた		1	2	3	4
⑩メールなどで突然「かわいいね」や「食事に付き合っ た内容が送られてきた		1	2	3	4

問 14. ドメスティック・バイオレンス（DV）について伺います。（お答えいただける方のみで結構です。）

これまでに配偶者や恋人等から次の①～④の暴力行為を受けたことがありますか。①～④それぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ〇をつけてください。

※ドメスティック・バイオレンスは、配偶者や恋人等日常をともにする相手から受ける肉体的・精神的な暴力行為で、言葉による暴力や性行為の強要、物の破壊なども含まれます。

項目	経 験	A. 頻 繁 に 受 け て い る	B. 何 度 か 経 験 が あ る	C. 過 去 に 経 験 し た が 今 は な い	D. 経 験 が な い
①精神的な暴力（無視する、なじる、おとしめる、おどす、嫌がらせをする、つきまとう、行動や交友関係等を監視したり禁止する等）		1	2	3	4
②肉体的な暴力（殴る、蹴る、物を壊す等）		1	2	3	4
③性的な暴力（望まない性行為の強要、避妊への非協力等）		1	2	3	4
④経済的な暴力（生活費を渡さない、外で働かせない等）		1	2	3	4

【主なDV相談窓口のご案内】

名 称	方 法	日 時	電話番号
四街道市 子育て支援課	来所・電話	月～金（祝日・年末年始除く） 9～12時、13～17時	043-388-8100
千葉県女性サポート センター【配偶者暴 力相談支援センタ ー】	面談（要予約） 電話	平日9～17時 電話：365日 24時間	043-206-8002
千葉県男女共同参画 センター【配偶者暴 力相談支援センタ ー】	来所・電話	[女性]（祝日・年末年始除く） 火曜～日曜 9時30分～16時 [男性]（祝日・年末年始除く） 火曜・水曜日 16時～20時	[女性専用] 04-7140-8605 [男性専用] 043-308-3421
四街道警察署 （生活安全課）	来所・電話	365日 24時間	043-432-0110 緊急時：110番
DV相談+（プラス）	電話・メール・ チャット	365日 24時間 チャット：12～22時	 つなぐはやく 0120-279-889

◎男女共同参画社会の実現に向け、ご意見やご要望をお聞かせください。

アンケートは以上です。

お忙しいところ最後までご協力いただきまして、誠にありがとうございました。